		□選	択 ☑	1 必修		☑ 講義	□演習□	実習		
	科目名	,		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	医療倫理	学		平塚 健太		2	1	前期		
	授業概要	臨床	で求め	らられる医の倫理感を身に着ける基礎となる講義を行う						
	到達目標	臨床	におけ	ける倫理観,マナー,常識を知り,理解できるようになる						
		•		授業計画	Ēļ .					
1	1 倫理とは			オリエンテーション・倫理の概要を理解する						
2	医療に	おける倫理		医療倫理の4原則について理解し、考えを述べることができる						
3	医療者と	患者の関係	(1)	医療面接の基本的な考えを理	解し、	考えを述べるこ	とができる			
4	医療者と	患者の関係	(2)	医療面接の手法を理解し、考	えをi	述べることができ	る			
5	コメディカ	」ルの職業係	建①	理学療法士・作業療法士の職	業倫理	里を理解する				
6	コメディカ	リルの職業倫	神理②	 理学療法士・作業療法士の職 	業倫理	理を理解し、考え	を述べることがで	できる		
7	生命誕生のあらまし①			出生前診断,胚選別,妊娠中	絶につ	ついて理解する				
8	生命誕生	Eのあらまし	2	出生前診断,胚選別,妊娠中	絶につ	ついて理解し、考	えを述べることだ	ができる		
9	薬害	と医療事故		楽害の歴史や医療事故につい	て理解	解し、考えを述べ	ることができる			
10	Д	工臓器		ES 幹細胞移植 iPS細胞の治療や倫理的問題を理解する						
11	臨床研	〒究の倫理①		臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる						
12	臨床研	T究の倫理②		臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる						
13	障!	害の受容		障害を受け入れる過程について理解する						
14	終末期医療,安楽死と 尊厳死			終末医療と尊厳死について理解を深め、自分の考えを述べることができる						
15		まとめ		症例課題に基づき自分の考えをまとめ、述べることができる						
	教科書 必			ソ要に応じて提示する 履修条件 15回の講義なので4回り すると定期試験を受験で						
ż	参考書			文養としての生命倫理 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと						
成	対績評価			なかで、適宜小テストを実施す 果と定期テストの結果を総合し		績に反映させる				
	備考									
							· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			

		□選	択 ☑	1 必修		☑ 講義	□演習□	実習		
	科目名	,		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	心理学	<u>4</u>		林 美都子		2	1	前期		
	授業概要	人の	認知機	能からメンタル・心の在り方,対人関係までの仕組みを講義する						
	到達目標	人の	心の在	Eり方を理解し,他者の気持ちに寄り添えるような思考を持てるようになる						
授業記	計画	l .								
1	認知心理学	色の歴史につ	ついて	認知心理学の歴史から現代の	心理	学について学ぶ				
2	人間の心理	L機能①「記	恩知」	精神,心について現代の心理学を踏まえ理解できる						
3	人間の心理機能②「知覚」			時間・空間・運動の知覚/知覚	覚の諸	が相 について理角	翠できる			
4	人間の心理機能③「学習」			古典的条件づけ,オペラント	条件	づけ,観察学習	について理解できる	3		
5	人間の心理機能④「記憶」			記憶のメカニズム,忘却,記	憶の	歪みについて理解	解できる			
6	人間の心理機能⑤ 「動機づけ」			動機づけの分類と機能,自己シーの測定演習を行い動機づ				セルフエフィカ		
7	人間の心理機能⑥「感情」			 感情発生のメカニズムと機能 	,欲	球不満について	理解を深める			
8		まとめ		人間の心理機能①~⑥までの	内容	を総括し理解を決	架める(小テスト も	(実施する)		
9	メンタルへ	ヘルスとスト	トレス	具体的にストレス度の測定を 解を深める	演習	し,ストレスのキ	考え方やメンタルへ	ヘルスについて理		
10	パー	-ソナリティ	ſ	パーソナリティの記述法,測定法について理解する						
11	人間の心理	L機能⑦「知	能」	知能の定義,知能の測定法を学習し,人間の社会生活に影響する知的障害とは何かを 理解する						
12	人間の心理	L機能®「思	ま考」	思考とはなにか,問題解決能力とは何かを考察し,創造性の本質について理解する						
13	人間の心理	L機能⑨「洌	定」	 効用の評価や確率の判断につ 	いてヨ	理解する				
14	メタ訳	忍知について		メタ認知について理解し,自	己洞	察についての方法	法を考えることがで	できる		
15	認知心理学の今後		Ź	認知心理学を日常生活でどの	ように	に活用するか,	しているかについて	て理解できる		
	・心理学(第5版・基礎から学ぶ))) 忍知心理学 人間の認識の不思	思議	履修条件	15回の講義なのでると定期試験を受	, 4回以上欠席す 験できない		
į	参考書			検討中		留意事項等	できるだけ欠席-	せず,予習復習を		
成績評価			なかで、適宜小テストを実施す 果と定期テストの結果を総合し		績に反映させる					
	備考									

			選択 🗷	1 必修		☑ 講義	□演習□	実習			
	科目名	,		教員氏名		単位	配当年次	開講期			
臨床	コミュニケー	·ション概	論	林 美都子		2	1	後期			
	授業概要			- ーション職には文章で伝える技術が必須である。抄録・論文を作成するにあたって伝わりやす ■成、適切な文法や文字、読解力などを学ぶ							
	到達目標	自	らの考え	えを表出する文章を作成できる。また文章の読解力を向上させることができる							
				授業計画	画						
1	舌し方と聴き方			・一般社会において適切なマナーで、わかりやすく会話をする意味を知る ・相手の訴えや情報について聞き、理解できる能力を向上できる							
2											
3											
4	文章の理	里解につい	いて①	・新聞や書物等の文書を読み 理解する能力を向上させる。	ų, ど(のようのことが訂	己載されているのか	かを			
文章の理解について① 理解する能力を向上させる。 5 ・多くの短文から始まり、長文理解を養うことができる											
6											
7											
8	± ± 0.11			・新聞や書物等の文書を読み、読解を学ぶことができる ・内容把握や趣旨把握の力を向上できる							
9	文章の理解について②			・長文を読み、文脈や意図な							
10											
11											
12											
13	文章 <i>0</i>)作成のフ	方法	・短い文章を作成し文章の構成力を高める ・新聞や書物等の文書を読み、読解を高めることができる							
14	・正しく伝わりやすい文章を作成する方法を理解する										
15											
	教科書講義·			授業の5分1欠席で期末試験の受では適宜資料を配布する 履修条件							
参考書						留意事項等	予習復習を怠らなり	いこと			
成	注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注	中間ラ		期末テストの総合評価とする							
備考											

			選択 🗷	3 必修		□ 講義	☑ 演習 □	実習		
	科目名			教員氏名	•	単位	配当年次	開講期		
٦٤	ュニケーシ	ョン英語	五	阿部 ジョスリン		2	1	前期		
	授業概要		sential E 語表現)	nglish language for a variety of situations in the hospital(病院内のさまざまな場面で必要な						
	到達目標			ill be able to use English in a variety of situations in the hospital(病院内の様々な場面で英 とができる)						
		·		授業計画						
1	Introduction to class, teacher and students(クラス・講師・生徒紹介)			Questions and answers to better kn (Are you, Do you, Can you, an				, and Were you?'		
2	Unit 1 Hospital Departments (病院部門)			Using the present tense to describ	be hospi	tal departments(痄	病院の診療科を現在系	で表現する)		
3	•	plication F 重申請書類		Subject-Verb agreement to learn h 書き方を学ぶ)	now to co	omplete hospital fo	rms(主語と動詞の一	致で、病院の書類の		
4		arts of the 体の部位)	Body	Using the present continuous tensる)	se to tall	about medical pro	blems(現在進行形を	使って医療問題を語		
5		4 IIInesse: 記について)		Using the simple past tense and h 形とhave/be動詞を使って、病気や				rmptoms(単純過去		
6		w Units 1- (復習)	-4	Review of Units 1-4 from the textb	oook(教	科書のUnit1~4の復	夏習)			
7		Daily Rout (日課)	tine	Using Auxiliary verbs to ask and a て、日常生活や時間に関する質問を			g daily routines and t	ime(助動詞を使っ		
8	Unit 6 Hos (图	pital instru 医療機器)	uments	Using the future tense to talk abo ために未来形を使う)	ut instru	ments used in a ho	spital(病院で使用す	る器具について話す		
9	Unit 7 Local Instruments (I	ations of Ho 医療機器の		Using the continuous tenses to lea	arn abou	ıt locations(進行形	ジを使って場所につい ^っ	て学ぶ)		
10	Unit 8 Hospital D (病院へ	irections and の行き方・指え		Using the imperative for to give directions and instructions(指示や命令をするための命令形の使い方)						
11		w Units 5- (復習)	-8	Review of Units 5-8 from the textbook(教科書のUnit5~8の復習)						
12	Unit 9 Direc			Using the active and passive voice to give directions to locations outside the hospital(院外への道案内を能動態と受動態で使い分ける)						
13	Unit 10 Chat (患者さん	-	•	Using a variety of tenses and frequency adverbs to talk about hobbies, likes/dislikes, frequency, etc. (趣味や好き嫌い、頻度などについて、さまざまな時制や頻度副詞を使って話す)						
14	Unit 11 Talk History	ing about (病歴を語		Using the present perfect tense to talk about a patient's medical history(患者の病歴を話すために現在完了形を使う)						
15	Unit 12 Hospital Procedures (病院での手続き)			Using Tag questions to ask and ar ンを使って、患者さんに指示を出す		· ·	•			
, in	教科書			ed Edition) by Vivian Morooka and ura, publised by Nan'un-do	Terri	履修条件	Attendance in all 15 cl (15回の講義なので、・ 修得できない)	asses is essential 4回以上の欠席で単位が		
4	参考書			特に無し		留意事項等	Both preparation and ((予習と復習の両方が)			
成	結評価			中間試験・期末記	式験の結	果により総合的に	- 半1)断			
	備考									

		□ 選	髮択 ▼	択 🗹 必修		☑ 講義	□ 演習 □	実習		
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	医療物理	学		古館 裕大		2	1	前期		
	授業概要			おける治療やヒトの身体の動きをイメージできるための基礎となる講義を行う.本講						
	127670	義は	,運動	ウ学(1年前期)や種々の専門科目と密接な繋がりがある。 						
	到達目標			必要不可欠である物理学の基礎を理解できるようになる.特に,複雑な現象の背後に -組みを明らかにし,単純なモデルで考えられるようになる.						
				授業計画						
1	オリエンテーション・			本講義の概要,医療物理学の	本講義の概要,医療物理学の必要性を把握できる.また,SI基本単位,SI組立単位の					
	基礎数学①(単位換算)			換算ができるようになる.						
2	基礎数学②			医療物理学で用いる基礎的な	`数学	を復習できる.特	寺に,三角比とべク	7トルの考え方を		
	(三角比・ベクトル)			利用する事ができる.						
3	位置,速度,加速度			物体の運動を考える方法と、	物体の	の位置,速度,加	加速度を理解できる	Ď.		
4	/ 5 -	ーメント(つり合い)		力のつり合いについて理解で	ごき, 旨	簡単な計算がでる	きる.			
5	力とモ	ーメント②)	関節運動の基本的な考え方で	である	モーメントの考え	え方と,3種のてこ	について理解で		
		ことモーメン		きる.						
6		ーメント() トのつり()		モーメントのつり合いについ	いて, 🏗	簡単な計算ができ	きる.			
7	運動の分析① (重心と支持基底面)			重心と支持基底面の考え方か	重心と支持基底面の考え方が理解でき,簡単な計算ができる.					
8		の分析② 節運動)		関節運動をベクトルを用いて	表現	することができる	3.			
9	医療機	器の物理(1)	中間試験を通して自身の理解	解度を	確認できる. 熱る	を利用した治療・図	医療機器を学ぶた		
	(/==	度と熱)		めの基本的な仕組みについて	理解~	できる.				
10		器の物理((波)	2)	波を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる.						
11		器の物理(3)	波・電磁気を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解でき						
		電磁気)		3.						
12		器の物理(電磁気)	4)	電磁気を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる.						
13		器の物理(療法の基礎		物理学的な観点から、物理療法の種類とその概要を理解できる.						
14	VI-6	里学まとめ	*	力学の範囲内で国家試験で出	題され	れる問題を演習し	し,これまでに学ん	んだ内容を復習す		
				る事ができる 熱,波,電磁気の範囲で国家	₹ 試 歸~	で出題される問題	頭を演習し、これは	きでに学んだ内容!		
15	15 医療物理学まとめ②			を復習する事ができる	(H- V-3) (20/20/	7070111		
i	教科書 PT			・OTゼロからの物理学		履修条件	15回の講義の内, 場合は単位が取得			
:	参考書			特になし		留意事項等	講義の最中に不明は、いつでも教員			
点				小テスト,期末試験,課題により総合的に評価						
	備考			特になし						

		□選	択 🗹 必修	☑ 講義	□演習□	実習			
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期			
	医療統計	学	古館 裕大	2	1	後期			
	授業概要			基本的な考え方と,医療への応用を見据えた内容を扱う.本講義は,理学療法研究法)と作業療法研究法(2年後期)と密接な関連がある.					
	到達目標			型の基本的な考え方や手法を理解できる.また,実際にデータを取得してR言語による 事で,どのようにデータを処理するかをイメージできる.					
		I		授業計画					
1	オリエン 基礎数学①	ゲーション (確率の考え		統計学の必要性について理解できる。また、簡単な事例や計算を用いて、確率の考え 方が理解できる。					
2	基礎数学② (同時確率,条件付き確率)		簡単な事例を用いて,同時確率)	『率と条件付き確率の:	考え方が理解できる	3.			
3		統計学① の尺度と要約	質的変数,量的変数について る.	理解できる. また,	それらのデータのイ	代表値を理解でき			
4		統計学② の読み取り)	質的変数・量的変数それぞれ	いのグラフの読み取り	と描画ができるよ [、]	うになる.			
5		統計学③ -タの読み取	散布図の読み取りができ、柞り)	目関を理解できる.					
6	記述統	計学まとめ	,	与えられた実例に対して, データの要約と可視化ができるようになる.					
7		的仮説検定① 本,検定の考え	02所です。						
8		1仮説検定② と信頼区間)	「統計的有意性とP値に関す を理解できる. また, 検定と						
9		」仮説検定③ 二乗検定)	統計的仮説検定の例として,	カイ二乗検定を理解	できる.				
10		の仮説検定④ る・ないt検	統計的仮説検定の例として, 定)	統計的仮説検定の例として、対応のある・ないt検定を理解できる。					
11]仮説検定⑤ メトリック検	統計的仮説検定の例として、	統計的仮説検定の例として、ノンパラメトリック検定を理解できる.					
12		帚分析① 線形モデル)	一般線形モデルを用いた解析る.	一般線形モデルを用いた解析の例として,一元配置分散分析,重回帰分析を理解できる.					
13		帚分析② :線形モデル)	一般化線形モデルを用いた解	昇析の例として, ロジ	スティック回帰分析	所を理解できる.			
14		学関連トピック(リスク比・オック	̄	え方を理解できる.					
15		関連トピッ: 能力の評価)	ク② 感度,特異度,陽性尤度比の)意味が理解でき,実	ーー 際に計算できるよ [・]	うになる.			
4	 数科書		特になし	特になし 履修条件 15回の講義の内, 4回以上欠 場合は単位が取得できない					
Ą	参考書		生物統計学の道標:研究デザインから とより深く理解するための24講	う論 留意事項等	講義の最中に不明は,いつでも教員	な点が現れた時 にアクセスする事			
成	績評価		中間試験、期末試験	中間試験、期末試験、小テストにより総合的に評価					
備考									

			選技	択 ☑] 必修		□ 講義	☑ 演習 □	実習		
	科目名				教員氏名		単位	配当年次	開講期		
医	医療情報科学演習				外舘 洸平		1	1	前期		
	授業概要				操作を不便なく行うことができ、ICT化する臨床現場に対応できるように推奨する情報 方などを、講義・演習を通して習得できる						
	到達目標				基本的な使用方法と情報リテラシーを身に着け、自身で取りまとめた情報を対外的に とができるようになる						
			I		授業計画						
1	オリエンテーション				パソコンの基本的な操作を習	習得する	ることができる				
2	Gmail、Go	ogle	Classr	room	メールでの連絡方法、およて ることができる	FGoog	le Classroomを(吏用した課題の提	出方法を習得す		
3	10	neNo	te		OneNoteを使用して授業のノ	/ートマ	をとることができ	る			
4	,	Word			文章を入力などの基本的な持 を作成することができる	弾作、1	レイアウト変更や	図表の挿入ができ	・、見やすい文章		
5	Pov	werPo	oint		基本的な操作を理解し、プレ	ゼンラ	テーション用の資	[料を作成すること	こができる		
6		Excel			基本的な操作を理解し、グラフ作成、関数を使用した計算を行うことができる						
7	情報リ	テラ	シー①)	自他の個人情報の重要性を知	3り,作	固人情報を守るた	めに正しく対処で	できる		
8	情報リ	テラ	シー②)	文献検索の意義を理解し、文を理解し、正しく用いること			きる。また、著作	宇物に関する権利		
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
į	教科書				資料配布		履修条件	8回の講義なので、 と定期試験を受験			
, i	参考書			必	な要に応じて提示する 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと						
成	え続評価			各回	回で課題の提出を求め、提出物が指定された条件を満たしているか採点する						
	備考				基本操作の紹介は行うが、操	作の習	 熟は各自の自己 	練習に期待したい	\ 		

		□選	銀択 ☑ 必修			□ 講義	☑ 演習 □	実習
	科目名	1		教員氏名		単位	配当年次	開講期
<u> </u>	医療情報科学	営演習Ⅱ		古館 裕大		1	1	前期
	授業概要			用いたプログラミングを通して、ICTの基礎となる技術に触れる.本科目はリハビリテーショ(2年前期)の基礎をなす科目であり、学院の医療ICT教育の根幹を成す科目となる.				
	到達目標			おける解決すべき課題に対して, その手段をフローチャートやプロ				えることができ
				授業計画	■			
1		ンテーショ ・ング演習(_	講義の概要を理解できる。フ	'□- ·	チャートの基本的	的な考え方が理解で	できる.
2	センシング演習② (フローチャート演習)		_	フローチャートを通して"か	つ"や"	または"などの条	件を考える事がで	·きる.
3		ング演習の か取り扱い		明るさセンサや距離センサをすることができる.	:利用	したプログラミン	vグを行い, micro	:bitで生体計測を
4		ング演習@ ・の取り扱い		角度センサや加速度センサを することができる.	利用	したプログラミン	vグを行い, micro	:bitで生体計測を
5	リハビリテー 研究①(シ	ション工学演		医療現場に存在するニーズや る.	·解決 ⁻	すべき課題に対し	ン,ICTを用いた手	法を提案でき
6	リハビリテー 研究②(シ	ション工学演		医療現場に存在するニーズや る.	解決	すべき課題に対し	ン,ICTを用いた手	法を提案でき
7	7 医療情報科学関連トピック① (ロボットとAI)		ック①	医療現場において身近な存在 知見を深めることができる.	ことな	りつつあるロボッ	ノトやAIなど, より	発展した技術の
8	8 医療情報科学関連トピック② (ロボットとAI)		ック②	医療現場において身近な存在 知見を深めることができる.	とな	りつつあるロボッ	ノトやAIなど, より	発展した技術の
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15	5							
	教科書			特に無し		履修条件	講義・演習ではF 回の講義なので、 ると単位を取得す	
	参考書		特に無し		留意事項等	日常的にPCを利 に慣れ親しんです		
成	え続評価			期末試験と記	果題に	より総合的に評価	<u></u>	
	備考							

		□ 選択 🗹] 必修	☑ 講義	□演習□	実習			
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期			
	解剖学		成田 大一	2	1	前期			
	授業概要	器官系に分 入れる。小 本授業で	学的知識の基盤となる人体の構造ならびにその機能について運動器,循環器などのけて系統的に学習する。また学習の理解度を深めるためにグループでの討議を取り、テストをこまめに実施して理解度を確認する。 は担当教員の臨床における理学療法士としての実務経験ならびにこれまでの肉眼解験を活かして講義を展開する。						
	到達目標	2. 解剖学用3. 運動器の4. 骨格模型5. 循環器系	はおける解剖学の重要性を説明できる 語を理解し、適切に用いることができる の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる を用いて、各骨の名称ならびにそれらの連結について説明できる の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる のがループ討議を通して理解を深めることができる						
			授業計画						
1	オリエンテー	-ション	・医療分野における解剖学の ・身体の部位や方向に関する						
2									
3	運動器系概	死論:	・各面における運動について説明できる ・骨格を構成する骨と軟骨について,その構造や役割を説明できる						
4	骨格系・		・各骨同士の連結について説	月できる					
5			・骨格筋の構造と関節の構成 	要素について説明でき	ぎる				
6	運動器系概論	:神経系	・末梢神経について,その種類	質や特徴,役割を説明	月できる				
7			・体幹の骨格構造についてその全体像ならびに各骨の形状や特徴,連結について説						
8	運動器系各論	扁: 体幹	明できる ・体幹の運動に関連する筋の起始・停止や支配神経,作用について説明できる						
9									
10	:		・上肢の骨格構造についてその	の全体像ならびに各骨	骨の形状や特徴,這	車結について説			
11	運動器系各論	論:上肢	明できる ・上肢の運動に関連する筋の	己始・停止や支配神経	怪,作用について詞	説明できる			
12									
13	(骨格模型を用いたグルー		・体幹・上肢の骨格構造についた。 体幹・上肢の骨格構造についた。	いてその全体像ならて					
14	プワーク	′)	結について骨格模型を用いて 	兄明でさる 					
15	運動器系各論	論: 上肢	・上肢の運動に関連する筋の起始・停止や支配神経、作用について説明できる						
16	<u></u> 建初铅水口皿 · 工水				-, 11/11/C 2 V C	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
17	運動器系概論 (体幹・上肢		・これまで学習してきた運動器系の概論・各論(体幹・上肢)について理解を深 め,これらの構造や機能をより詳しく説明できる						

18						
19	運動器	系各論:下肢	・下肢の骨格構造についてその全 明できる ・下肢の運動に関連する筋の起始			
21	 下肢の骨格系の復習 (骨格模型を用いたグル-		・下肢の骨格構造について骨格模 ・下肢の骨格構造についてその全			
22	運動器:	系各論:下肢	・下肢の運動に関連する筋の起始	・停止や支配神絲	Y 作用について説明できる	
23						
24			・頭頚部の構造ならびに頭蓋の形	状や連結,各孔の	D名称およびそこを通る構造物,	
25	運動器系各論:頭頚部		特徴について説明できる ・表情筋や咀嚼筋,外眼筋など脳	神経に支配される	る筋について説明できる	
26			・目や耳といった特殊感覚器の構	造について説明で	できる	
27	頭頚部の骨格系の復習 (骨格模型を用いたグルー		・頭蓋について骨格模型を用いな ・頭蓋の形状や連結,各孔の名称			
28			・動脈と静脈の特徴ならびに大動			
29	循	5 環器系	・心臓の構造と機能ならびに刺激伝導系,心臓に分布する動脈・静脈について説明 できる			
30			・リンパ管系について説明できる			
Į.	教科書・塩田浩平,他		・ 監:グレイ解剖学 原著第4版	履修条件	30回の講義の内, 7回以上欠席の 場合は定期試験を受験できない	
4	・坂井建夫, ・参考書全10巻縮刷版・相磯貞和, ・		ロ Qシリーズ 新解剖学 フルカラー新装版			
成	え続評価		間試験・期末試験,グループワーク 上を合格とします。	・ 一一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	総合的に評価します	
	備考		ちするので忘れずに授業に持ってく を質問するなど教員をうまく活用し		努めること	

解剖学演習 成田 大一 1 1 後期 神経系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系について系統的に学習する。ま 習の理解度を深めるためにグループでの討議など振り返りの時間を取り入れる。小テストまめに実施して理解度を確認する。 本授業では担当教員の臨床における理学療法士としての実務経験ならびにこれまでの肉剖教育の経験を活かして講義を展開する。 1. 解剖学用語を理解し、適切に用いることができる 2. 神経系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 3. 消化器系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 5. 泌尿生殖器系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 6. 内分泌系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 6. 内分泌系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 6. 内分泌系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 7. 泌尿生殖器系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 6. 内分泌系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 7. 脳の内部に存在する神経核(大脳基底核など)と白質を構成する神経線維にて説明できる 間脳(視床、視床下部、視床上部)ならびに脳幹(中脳ー橋-延髄)の構造とついて説明できる 小脳・脊髄 小脳、脊髄の構造と機能について説明できる 4 小脳・脊髄 小脳、脊髄の構造と機能について説明できる 4 体路や錐体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる 4 体路や錐体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる 4 体路や錐体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる 4 体路と脳脊髄液、脳室系			□ 選択 🖫	7 必修		□講義	☑ 演習 □	実習			
神経系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系について系統的に学習する。よ 選業概要 一次		科目名		教員氏名		単位	配当年次	開講期			
図の理解度を深めるためにグループでの討議など振り返りの時間を取り入れる。小テストまのに実施して理解度を確認する。本授業では担当教員の臨床における理学療法士としての実務経験ならびにこれまでの肉割教育の経験を活かして講義を展開する。 1.解剖学用語を理解し、適切に用いることができる 2.神経系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 3.消化器系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 5.泌尿生殖器系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 6.内分泌系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 6.内分泌系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 7. 大脳の内部構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 8. 大脳の内部構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 1. 大脳 (禁脳) 大脳の内部に存在する神経後(大脳基底核など)と白質を構成する神経線壁にて説明できる 2. 大脳の内部構造と白質 大脳の内部に存在する神経後(大脳基底核など)と白質を構成する神経線壁にで説明できる 3. 間脳・脳幹 小脳・音髄 (視床、視床下部、視床上部)ならびに脳幹(中脳・梅属・延髄)の構造とのいて説明できる 4. 小脳・音髄 小脳、脊髄の構造と機能について説明できる 5. 伝導路 郷体路や維体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる 5. 保護路系 脳神経の種類と特徴 脳神経とは何か、その構造と機能について説明できる 6. 開練と脳脊髄液、脳室系 脳神経の種類と特徴 脳神経とは何か、その構造と機能について説明できる 6. 清化器系 自律神経系の構造と機能について説明できる 6. 清化器系 自律神経系の構造と機能を説明できる 6. 清化器系 自律神経系の構造と機能を説明できる 6. 可能の発展系		解剖学演習		成田 大一		1	1	後期			
2. 神経系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 3. 消化器系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 4. 呼吸器系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 5. 泌尿生殖器系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 6. 内分泌系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 6. 内分泌系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる 2 大脳の内部に存在する神経核(大脳基底核など)と白質を構成する神経線維にて説明できる 3 間脳・脳幹 知路(現床、程床下部、視床上部)ならびに脳幹(中脳一橋一延髄)の構造とついて説明できる 4 小脳・脊髄 小脳、脊髄の構造と機能について説明できる 5 伝導路 維体路や錐体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる 6 髄膜と脳脊髄液、脳室系 脳の血管 内頸動脈系と椎骨動脈系、動脈輪、脳室と脳脊髄液の循環経路について説明できる 8 自律神経系 自律神経系の構造と機能について説明できる 8 自律神経系 自律神経系の構造と機能について説明できる 9 消化器系 10 ・消化に必要な酵素を産生・貯蔵する付属器官についてその構造と機能を説明できる 11 呼吸器系 鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる 11 呼吸器系 鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる 12 腎臓や膀胱、尿道などの泌尿器と精巣や卵巣、子宮などの生殖器について男女いも含めてその構造と機能を説明できる		授業概要	習の理解度まめに実施本授業で	を深めるためにグループでの 回して理解度を確認する。 ごは担当教員の臨床における理)討議; 理学療;	など振り返りの時	間を取り入れる。	小テストをこ			
1 大脳(終脳) 大脳の形態と機能局在について説明できる 2 大脳の内部構造と白質 大脳の内部に存在する神経核(大脳基底核など)と白質を構成する神経線維にて説明できる 3 間脳・脳幹 間脳(視床、視床下部、視床上部)ならびに脳幹(中脳ー橋-延髄)の構造とついて説明できる 4 小脳・脊髄 小脳、脊髄の構造と機能について説明できる 5 伝導路 錐体路や錐体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる 6 髄膜と脳脊髄液、脳室系 脳の血管 内頸動脈系と椎骨動脈系、動脈輪、脳室と脳脊髄液の循環経路について説明できる 7 脳神経の種類と特徴 脳神経とは何か、その構造と機能について説明できる 8 自律神経系 自律神経系の構造と機能について説明できる 9 ・消化器系 10 ・消化器系 10 ・消化器系 11 呼吸器系 12 鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる 13 泌尿・生殖器系 13 泌尿・生殖器系 13 泌尿・生殖器系		到達目標	2. 神経系6 3. 消化器3 4. 呼吸器3 5. 泌尿生列	の構造を理解し,各部位の名称 系の構造を理解し,各部位の名 系の構造を理解し,各部位の名 直器系の構造を理解し,各部位	構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる。 の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる。の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる。 は器系の構造を理解し、各部位の名称や役割・特徴について説明できる。						
大脳の内部構造と白質				授業計	曲						
大脳の内部構造と日質	1	大脳(終	脳)	大脳の形態と機能局在につい	ヽて説	明できる					
3 間脳・脳軒 ついて説明できる 4 小脳・脊髄 小脳、脊髄の構造と機能について説明できる 5 伝導路 錐体路や錐体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる 6 髄膜と脳脊髄液、脳室系 脳の血管 内頸動脈系と椎骨動脈系、動脈輪、脳室と脳脊髄液の循環経路について説明できる 7 脳神経の種類と特徴 脳神経とは何か、その構造と機能について説明できる 8 自律神経系 自律神経系の構造と機能について説明できる 9 消化器系 ・ 口腔から肛門に至る消化管の構造と機能を説明できる。 10 ・ 消化に必要な酵素を産生・貯蔵する付属器官についてその構造と機能を説明できる 11 呼吸器系 鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる 12 13 ※原・生殖器系 3 等臓や膀胱、尿道などの泌尿器と精巣や卵巣、子宮などの生殖器について男女いも含めてその構造と機能を説明できる	2	大脳の内部構	造と白質		亥(大)	脳基底核など)と	白質を構成する	伸経線維につい			
5 伝導路 錐体路や錐体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる 6 髄膜と脳脊髄液、脳室系 脳の血管 内頸動脈系と椎骨動脈系、動脈輪、脳室と脳脊髄液の循環経路について説明できる 7 脳神経の種類と特徴 脳神経とは何か、その構造と機能について説明できる 8 自律神経系 自律神経系の構造と機能について説明できる 9 ・口腔から肛門に至る消化管の構造と機能を説明できる。・消化に必要な酵素を産生・貯蔵する付属器官についてその構造と機能を説明できる 10 ・消化管に分布する動脈・静脈について説明できる 11 呼吸器系 鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる 12 野臓や膀胱、尿道などの泌尿器と精巣や卵巣、子宮などの生殖器について男女いも含めてその構造と機能を説明できる	3	間脳・脳	当幹		卡上 部))ならびに脳幹((中脳-橋-延髄)	の構造と機能			
簡膜と脳脊髄液、脳室系 内頸動脈系と椎骨動脈系、動脈輪、脳室と脳脊髄液の循環経路について説明で	4	小脳・剤	予 髄	小脳,脊髄の構造と機能に	ついて	説明できる					
6 内頸動脈系と椎骨動脈系,動脈輪,脳室と脳脊髄液の循環経路について説明で 7 脳神経の種類と特徴 脳神経とは何か,その構造と機能について説明できる 8 自律神経系 自律神経系の構造と機能について説明できる 9 ・ 口腔から肛門に至る消化管の構造と機能を説明できる。 10 ・ 消化器系 10 ・ 消化器系 11 呼吸器系 12 鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる 12 野臓や膀胱,尿道などの泌尿器と精巣や卵巣,子宮などの生殖器について男女いも含めてその構造と機能を説明できる	5	伝導路	Ż i	錐体路や錐体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる							
8 自律神経系 自律神経系の構造と機能について説明できる ・ 口腔から肛門に至る消化管の構造と機能を説明できる。 ・ 消化に必要な酵素を産生・貯蔵する付属器官についてその構造と機能を説明る ・ 消化管に分布する動脈・静脈について説明できる 11 呼吸器系 鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる 12	6			内頸動脈系と椎骨動脈系,動脈輪,脳室と脳脊髄液の循環経路について説明できる							
9 ・ 口腔から肛門に至る消化管の構造と機能を説明できる。 ・消化に必要な酵素を産生・貯蔵する付属器官についてその構造と機能を説明 る ・消化管に分布する動脈・静脈について説明できる 11 呼吸器系 鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる 12 腎臓や膀胱、尿道などの泌尿器と精巣や卵巣、子宮などの生殖器について男女いも含めてその構造と機能を説明できる	7	脳神経の種類	頁と特徴	脳神経とは何か,その構造と	∠機能	について説明でき	: 3				
9	8	自律神経	圣系	自律神経系の構造と機能につ	ついて	説明できる					
10 る ・消化管に分布する動脈・静脈について説明できる 11 呼吸器系 12 鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる 13 浴尿・生殖器系 必尿・生殖器系 腎臓や膀胱、尿道などの泌尿器と精巣や卵巣、子宮などの生殖器について男女いも含めてその構造と機能を説明できる	9	沭小品	₹.				-	幾能を説明でき			
呼吸器系 鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる 12 13 下臓や膀胱、尿道などの泌尿器と精巣や卵巣、子宮などの生殖器について男女いも含めてその構造と機能を説明できる	10	消化器系			争脈に	ついて説明できる	1				
12 13	11	呼吸器系		自陈太之叶一天才感叹四个	⊭\ ⊁ \.∃						
	12			鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる							
泌尿・生殖器系	13			腎臓や膀胱,尿道などの泌尿	マスティア マスティア マスティア マスティア スティア アイス アイス アイス アイス アイス アイス アイス アイス アイス アイ	精巣や卵巣,子宮	などの生殖器につ	ついて男女の違			
 	14	- 泌尿・生殖器系		·				_			
15 内分泌系 内分泌系の構造と機能について説明できる	15	内分泌	系	内分泌系の構造と機能につい	ヽて説	明できる					

教科書	・塩田浩平,他監:グレイ解剖学 原著第4版	履修条件	15回の講義の内, 4回以上欠席の 場合は定期試験を受験できない		
参考書	・坂井建夫,他編:カラー図解 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版 ・加藤征,他編:新解剖学 フルカラー新装版 第7版(Qシリーズ) ・相磯貞和,他:ネッター解剖学アトラス 原著第6版 ・松村譲兒:イラスト解剖学 第 9 版	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習を怠らないこと		
成績評価	・小テスト,期末試験の内容をもって総合的に評価・総計の60%以上を合格とする	まする			
備考 ・授業資料を配布するので忘れずに授業に持ってくること ・分からない点を質問するなど教員をうまく活用し、知識の定着に努めること					

	科目名					実習			
	17 11 11		教員氏名	単位	配当年次	開講期			
	生理学		石田 裕二	2	1	前期			
:	授業概要		基礎的知識(生命活動の本質), 呼吸 学習する 特に各種の障害に深く関係						
:	到達目標		ついてそのメカニズムの理解を深め,専門分野の学習が円滑に行うための基礎医学的知識を習得 見点からフィジカルアセスメントにつながる基礎的な知識を深めることができる						
			授業計画						
1	概説		生命現象とは何か,人体の構造と	その概略について	イメージできるよ	うになる			
2	細胞(1)	生命の原点である細胞の構造と機	能についてその概	略が理解できる				
3	細胞(2	分極,脱分極,再分極など細胞膜	と生命現象の関係	の概略を理解でき	3			
4	神経系(1)	ニューロン(neuron)、シナプラ 理解できる	ス(synapse)など	、神経の基本構造	きを			
5	神経系(2)	中枢神経系(脳と脊髄)の構造と機能の概略を理解できる						
6	神経系(3	中枢神経系と末梢神経系の形態的	・機能的な分類が	できるようになる				
7	筋生理	1	筋収縮に関するエネルギー供給・ 滑走説を説明できる	代謝について説明	できる				
8	脊髄反射	11	脊髄の構造と機能の概略を説明で 筋紡錘の構造と機能を説明できる						
9	脊髄反射	†②	脊髄反射の回路が理解できる 錘内筋の活動、機能について理解	できる					
10	脊髄内の伝	導路	上行路と下行路の詳細を学習し、その機能を理解できる						
11	上位運動ニュー! 運動ニュー		脊髄反射の回路の概略を把握し、上位・下位運動ニューロンとの関係性が理解できる						
12	神経障害概	[論①	錐体路障害と錐体外路障害について理解できる						
13	神経障害概	語②	運動麻痺と感覚障害の発生機序について、神経系の構造と機能から理解できる						
14	自律神経権	既論	植物機能の神経性制御について概略を理解できる						
15	内臓学概	語	循環器と呼吸器の構造と機能の概略を理解できる						
16	血液・体	液	ホメオスタシスに関与する血液・体液について、その機能の概略を理解できる						
17	呼吸・循環器	各論①	呼吸器・循環器の構造と機能が理解できる						
18	呼吸・循環器	各論②	心疾患と肺疾患、それにまつわる酸塩基平衡障害についての概略が理解できる						

19	呼吸・行	循環器各論③	心電図の概略が理解できるよ	うになる				
20	呼吸・行	盾環器各論④	呼吸器と循環器の機能の関連性と心電図の変化の概略が理解できる					
21	\ <u>`</u> \`	電図学①	心電図のメカニズム、診断的価値について理解を深めさせる					
22	\ù\	電図学②	心電図の波形の意味について考えを深め、代表的な異常心電図についてその発生機序 を考察できる					
23	内分	分泌学①	ホルモンやサイトカインについて論じ、その作用について理解を深めさせる					
24	内:	分泌学②	内分泌に関わる臓器、生産過程	呈などを理解できる				
25	自律	神経系各論	ホルモンと共に神経性制御に	ホルモンと共に神経性制御についてりかいができる				
26	泌尿器学①		腎臓と膀胱の機能と構造について理解できる					
27	泌.	尿器学 ②	膀胱の神経支配、排尿反射と神経因性膀胱の概略を理解できる					
28	消化	化器学①	消化器の構造と機能について概略が理解できる					
29	消1	化器学②	消化酵素(科学的消化)の作用について理解できる					
30	酸均	塩基平衡	呼吸・代謝機能の全貌から酸塩	塩基平衡について理解	半できる			
į	教科書	Q	シリーズ 新生理学	履修条件	電子教科書にて授業を進行する PCを用意すること30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない			
	参考書		ギャノング生理学	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと			
成	 找績評価		なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる					
	備考							

料目名 教具氏名 単位 配当年次 脱諸期 投期 投票額要 生理学演習 在田 裕二		□ 選択 ☑ 必修 □ 講義 ☑ 演習 □ 実習										
接業		科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期			
理解を深める 理解を深める 関連日標 臨床現場に必要な基礎的な知識と技術 (パイタルサインの計測など)を習得し、専門領域につかる技能を習得する 授業計画 投業計画 投業計画 投業計画 投業計画 投業計画 投票 投票 投票 投票 投票 投票 投票 投		生理学演	習		石田 裕二		1	1	後期			
対応技能を習得する 投業計画 投業計画 投票計画 復環器系の計測 循環動態と血圧の関係を理解し医学的根拠を持って血圧を計測することができる 心電図 ① ・心電図の基礎的なメカニズムを理解することができる 心電図 ② 標準12誘導と胸部単優誘導について臨床的意味を説明できるようになる 心電図 ③ 異常心電図と正常心電図を比較し、病的問題点を評価できるようになる 心電図 ④ 標準12誘導を具体的に計測し、その臨床的技術を習得する 呼吸器系 ① 呼吸器疾患の臨床像とスパイログラムの関係を理解できる 呼吸器系 ② スパイログラムを用いた肺機能の計測を体験し理解を深める 呼吸循環 ① 有酸素運動と無酸素運動、ATポイントなどの意味を理解する 呼吸循環 ② 運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する 10 筋電図 ① 筋電図の波形についてその意味を理解できる 11 筋電図 ② 筋電図データの解析についてその意味を理解できる 12 筋電図 ③ 表面筋電計を用いて子波や日波の上手法を理解できる 13 筋電図 ③ 表面筋電計を用いて子波や日波の上手法を理解できる 15 筋電図 ④ 誘発筋電計を用いて下波や日波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める 15 原理図 ④ 誘発筋電計を用いて下波や日波の計測し、降髄の興奮性について理解を深める 15 原理図 ⑤ 誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する 2 を対解する 変形数量を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を		授業概要				具体的に	に演習を通じて体	・ 験し, 臨床に必要	- 『不可欠な知識の			
循環器系の計測		到達目標										
2 心電図 ① 心電図の基礎的なメカニズムを理解することができる 3 心電図 ② 標準12誘導と胸部単極誘導について臨床的意味を説明できるようになる 4 心電図 ③ 異常心電図と正常心電図を比較し、病的問題点を評価できるようになる 5 小電図 ④ 標準12誘導を具体的に計測し、その臨床的技術を習得する 呼吸器系 ① 呼吸器疾患の臨床像とスパイログラムの関係を理解できる 呼吸器系 ② スパイログラムを用いた肺機能の計測を体験し理解を深める 呼吸循環 ① 有酸素運動と無酸素運動、ATポイントなどの意味を理解する 9 呼吸循環 ② 運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する 10 筋電図 ① 筋電図の波形についてその意味を理解できる 11 筋電図 ② 筋電図の波形についてその意味を理解できる 12 筋電図 ②					授業計	画						
3 心電図 ② 標準12誘導と胸部単極誘導について臨床的意味を説明できるようになる 4 心電図 ③ 異常心電図と正常心電図を比較し、病的問題点を評価できるようになる 5 心電図 ④ 標準12誘導を具体的に計測し、その臨床的技術を習得する 6 呼吸器系 ① 呼吸器疾患の臨床像とスパイログラムの関係を理解できる 7 呼吸器系 ② スパイログラムを用いた肺機能の計測を体験し理解を深める 8 呼吸循環 ① 有酸素運動と無酸素運動、ATポイントなどの意味を理解する 9 呼吸循環 ② 運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する 10 筋電図 ① 筋電図の波形についてその意味を理解できる 11 筋電図 ② 表面筋電計を用いて足体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる 12 筋電図 ③ 表面筋電計を用いて手波やH波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める 14 筋電図 ⑤ 誘発筋電計を用いて下波やH波の計測し、溶腫の興奮性について理解を深める 14 筋電図 ⑤ 誘発筋電計を用いて非神神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する 15 感覚検査 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める 2 シリーズ 新生理学 履修条件 電子教料書にて展案を進行する PCを含まるに対反原性ず、予習復習念らないこと 参考書 ギャノング生理学 留意事項等 からないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	1	循環器	8系の計測		循環動態と血圧の関係を理解し医学的根拠を持って血圧を計測することができる							
4 心電図 ③ 異常心電図と正常心電図を比較し、病的問題点を評価できるようになる 5 心電図 ④ 標準12誘導を具体的に計測し、その臨床的技術を習得する 6 呼吸器系 ① 呼吸器疾患の臨床像とスパイログラムの関係を理解できる 7 呼吸器系 ② スパイログラムを用いた肺機能の計測を体験し理解を深める 8 呼吸循環 ① 有酸素運動と無酸素運動、ATポイントなどの意味を理解する 9 呼吸循環 ② 運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する 10 筋電図 ① 筋電図の波形についてその意味を理解できる 11 筋電図 ② 表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる 12 筋電図 ③ 誘発筋電計を用いて具体的に計測し、液形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる 13 筋電図 ④ 誘発筋電計を用いて下波や日波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める 14 筋電図 ⑤ 誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する 15 感覚検査 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める 数科書 Qシリーズ 新生理学 屋修条件 電するとに15回の演奏なので、4回以原すると定開試験を受験できないできるだけ欠席せず、予習復習を含めないこと 改裁評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	2	心官			心電図の基礎的なメカニズムを理解することができる							
1	3	心冒	图 2		標準12誘導と胸部単極誘導に	こつい	て臨床的意味を訪	説明できるようにた	なる			
日	4	心官	图 3		異常心電図と正常心電図を比	比較し,	病的問題点を評	空価できるようにな	13			
7 呼吸器系 ② スパイログラムを用いた肺機能の計測を体験し理解を深める 8 呼吸循環 ① 有酸素運動と無酸素運動、ATポイントなどの意味を理解する 9 呼吸循環 ② 運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する 10 筋電図 ① 筋電図データの解析についてその意味を理解できる 11 筋電図 ② 表面筋電計を用いてくの意味と手法を理解できる 12 筋電図 ③ 表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる 13 筋電図 ④ 誘発筋電計を用いて下波や日波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める 14 筋電図 ⑤ 誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する 15 感覚検査 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める 数科書 Qシリーズ 新生理学 履修条件 電子数付書にて授業を進行する PCを意するとと定期試験を受験できない 参考書 ギャノング生理学 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習意らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	5	心官	图 4		標準12誘導を具体的に計測し	., そ	の臨床的技術を習	習得する				
8 呼吸循環 ① 有酸素運動と無酸素運動、ATポイントなどの意味を理解する 9 呼吸循環 ② 運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する 10 筋電図 ① 筋電図の波形についてその意味を理解できる 11 筋電図 ② 筋電図データの解析についてその意味と手法を理解できる 12 筋電図 ③ 表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる 13 筋電図 ④ 誘発筋電計を用いて下波や日波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める 14 筋電図 ⑤ 誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する 15 感覚検査 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める 数科書 Qシリーズ 新生理学 履修条件 電すること15回の講義なので、4回以席すると定期試験を受験できない 参考書 ギャノング生理学 留意事項等 怠らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	6	呼吸	器系 ①		呼吸器疾患の臨床像とスパイログラムの関係を理解できる							
9 呼吸循環 ② 運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する 10 筋電図 ① 筋電図の波形についてその意味を理解できる 11 筋電図 ② 筋電図データの解析についてその意味と手法を理解できる 12 筋電図 ③ 表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる 13 筋電図 ④ 誘発筋電計を用いて下波や日波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める 14 筋電図 ⑤ 誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する 15 感覚検査 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める 数科書 Qシリーズ 新生理学 履修条件 電子教科書にて授業を進行する PCを 意すること15回の講義なので、4回以席すると定期試験を受験できない 参考書 ギャノング生理学 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習 意らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	7	7 呼吸器系 ②			スパイログラムを用いた肺機	幾能の詞	計測を体験し理解	『を深める				
10 筋電図 ① 筋電図の波形についてその意味を理解できる 11 筋電図 ② 筋電図データの解析についてその意味と手法を理解できる 12 筋電図 ③ 表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる 13 筋電図 ④ 誘発筋電計を用いて下波やH波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める 14 筋電図 ⑤ 誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する 15 感覚検査 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める 電子教科書にて授業を進行する PCを 意すること15回の講義なので、4回以席すると定期試験を受験できない 参考書 ギャノング生理学 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習	8	呼吸循環 ①			 有酸素運動と無酸素運動,A	Τポイ	ントなどの意味を	を理解する				
11 筋電図 ② 筋電図データの解析についてその意味と手法を理解できる 12 筋電図 ③ 表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる 13 筋電図 ④ 誘発筋電計を用いてF波やH波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める 14 筋電図 ⑤ 誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する 15 感覚検査 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める 電子教科書にて授業を進行する PCを意すること15回の講義なので、4回以席すると定期試験を受験できない 参考書 ギャノング生理学 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習念らないこと 水積評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	9	呼吸	循環 ②		運動負荷試験を体験し臨床的	的意義 ²	や基礎的知識を習	得する				
12 筋電図 ③ 表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる 13 筋電図 ④ 誘発筋電計を用いてF波やH波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める 14 筋電図 ⑤ 誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する 15 感覚検査 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める 電子教科書にて授業を進行する PCを 意すること15回の講義なので、4回以 席すると定期試験を受験できない 参考書 ギャノング生理学 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習 怠らないこと た15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する できるだけ欠席せず、予習復習 おらないこと できるだけ欠席せず、予習復習 おらないこと た15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する できるだけ欠席せず、予習復習 おもないこと た15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する た15回の講義のなかで、適宜小テストを表述を使用しません た15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する た15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する た15回の記述を使用しません た15回の調査が表述を使用しません た15回の表述を使用しません た15回の表述を使用しません た15回の課金 た15回の確認を	10	筋電			筋電図の波形についてその意味を理解できる							
13 筋電図 ④ 誘発筋電計を用いてF波やH波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める 14 筋電図 ⑤ 誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する 15 感覚検査 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める 電子教科書にて授業を進行する PCを意すること15回の講義なので、4回以席すると定期試験を受験できない 参考書 ギャノング生理学 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習 念らないこと 心15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する 心15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	11	筋電	E Z 2		筋電図データの解析についてその意味と手法を理解できる							
14 筋電図 ⑤ 誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する 15 感覚検査 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める 電子教科書にて授業を進行する PCを 意すること15回の講義なので、4回以席すると定期試験を受験できない 参考書 ギャノング生理学 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習 怠らないこと 15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	12	筋電	E Z 3		表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる							
15 感覚検査 表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める	13	筋電	E Z 4		誘発筋電計を用いてF波やH波の計測し,脊髄の興奮性について理解を深める							
数科書 Qシリーズ 新生理学 履修条件 電子教科書にて授業を進行する PCを 意すること15回の講義なので、4回以上 席すると定期試験を受験できない できるだけ欠席せず、予習復習 怠らないこと ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	14	筋電			誘発筋電計を用いて末梢神経	 E伝導:	速度を計測し,臨		 †る			
教科書	15	感	覚検査		表在・深部感覚の具体的な記	十測かり	う,神経障害の症	※状についての理角	解を深める			
参考書 ギャノング生理学 留意事項等 怠らないこと : 15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する		教科書 (シリーズ 新生理学		履修条件	意すること15回の講	義なので,4回以上欠			
┃ 成績評価 ┃	:	参考書			ギャノング生理学		留意事項等	1	せず,予習復習を			
	成	·										
備考		備考										

			選択	必修		☑ 講象	慢 □ 演習 □] 実習	
	科目	名		教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	人間発:	達学		千葉 馨		1	1	前期	
	授業概要	人	が成長す	る過程について中枢神経系の	発達を「	中心に社会的に氵	舌躍し老年期に至るま	たでを理解し、そ	
				ジでの理学療法士・作業療法					
	到達目標	新2	生児期か	らの発達過程に関わる神経系	の埋解さ	2.身体活動につい	ハて埋解でさる		
				授業計	一画				
1	正常発達に	ついて	Ž	発達の原則、ヒトの正常発達	について				
2	発達の概念	À	月	台芽と胎児の発達過程に始ま	り、人間	発達期について			
3	姿勢反射、	反応とは	ğ	発達過程における反射・反応について学び、正常な発達の獲得の背景である中枢神経の成					
			,	熟、筋と骨格の成長について理解できる					
4	脊髄レベル	/の反射	Ī	E常児の脊髄レベルの反射に	ついて出	現時期、消失時	f期、どのような反射	かを理解できる	
5	脳幹レベル	反射	Ī	E常児の脳幹レベルの反射に	ついて出	現時期、消失時	f期、どのような反射	かを理解できる	
6	中脳レベル	の反射①	Ī	E常児の中脳レベルの反射に	ついて出	現時期、消失時	f期、どのような反射	かを理解できる	
7	中間試験		Ē	構義の1~7回目の内容につ	いて中間	テスト(30分科	程度) を行う		
8	大脳レベルの反射①				01.71	田吐田 次开日	- 田 じのとうか巨田	より、おり	
0	大脳レベルの反射②			E常時の大脳レベルの反射に		· 况时期、	†期、とのよりな区別	がを珪胜できる	
9	運動の発達	<u>=</u> 1		1~3歳までに見られる姿勢反射および反応獲得について理解できる					
10	運動の発達	(2)	(6歳までに見られる姿勢反射および反応獲得について理解できる					
11	上肢機能の)発達	ł	ヒトの上肢機能を学び、成長過程次獲得できる運動等について理解できる					
12	感覚・知覚	・認知・社	土会性 耳	環境の刺激情報処理である感	覚、知覚	、認知について	学び、感覚システム	<u></u> の発達につ	
	の発達			いて理解できる					
13	ADLの発達	き (遊び・食	食事・「	中枢神経系の発達と日常生活	活動動作	(ADL)の獲得	の関係性を理解でき	る	
	排泄・更衣	₹)							
14	発達検査			遠城寺式乳幼児分析的発達検 ラー幼児発達	査、日本	版デンバー式発	経達スクリーニング検	:査、日本版ミ	
15	学童・青年	羊・成人・	老年期 二	ェリクソン「8つの発達段階	」につい	て理解できる			
		の発達					Ty-nac		
ž	教科書			2監修 イラストでわかる人間 出版株式会社	発達字	履修条件	前講義の1/5を欠り 得できない	常すると単位を 取	
ž	参考書	講義資料				留意事項等	適宜小テストを不行業で行った部分の3 を常に行うこと		
J	成績評価			験、授業態度、提出物につい	て成績の	D対象とする。	1		
		60点以上	「C評定」	より単位修得となる					
	備考	授業終了	後の理解	度アンケート、不定期な小テ	スト等を	と実施する。積板	亟的な質問を歓迎する	,	
		<u> </u>							

		□ 選択 ⑤	7 必修		☑ 講義	□演習□	実習	
	科目名		教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	運動学		羽澤 晃士		2	1	前期	
	授業概要	るうえで必要な	は運動器の基本構造と機能を学ぶ。 さらん	動の仕組みに関する学問であり,その理論的基盤をなす専門基礎科目である。本科目では,正常な身体運動を理解す 運動器の基本構造と機能を学ぶ。さらに,身体各部位の関節構造と機能を関節運動と関連づけて学習し,機能解剖学 ,脊柱・体幹,頭部における各関節運動の仕組みを深める。				
	到達目標		ションの対象となる運動障害のメカニズムを理解するために、身体運動を遂行するうえで必要な運動器神経系)の基本構造と機能を学び、四肢、脊柱・体幹、頭部における各関節運動の仕組みについて説明なる。					
			授業計	曲				
1	オリエンテ-	ーション	本授業の概要ならびに運動学	学の学問	領域について理	解できる		
2	骨の構造と	と機能	骨格を形成する骨の名称,骨	骨の基本	構造と機能につ	いて理解できる		
3	関節の構造と	と機能①	関節の基本構造, 関節の分類	頁につい	て理解できる			
4	関節の構造と	と機能②	関節運動の表し方,関節包内	りにおけ	る関節運動につ	いて理解できる		
5	関節の構造と	と機能③	主要な関節とその運動方向に	こついて	理解できる			
6	骨格筋の構造	と機能①	骨格筋の構造について理解で	できる				
7	骨格筋の構造	と機能②	筋の収縮機序,活動電位について理解できる					
8	骨格筋の構造	と機能③	筋線維の種類,運動単位,神経支配比について理解できる					
9	骨格筋の構造	と機能④	筋の収縮様式,筋のはたらき,筋肥大と筋萎縮について理解できる					
10	骨格筋の構造	と機能⑤	筋の静止張力と活動張力につ	ついて理	解できる			
11	生体力等	* 1	関節モーメント,外力と内力	- 力につい	て理解できる			
12	生体力等	学②	身体とてこ,筋力と重力につ	ついて理	解できる			
13	体位と重	·ù1	体位と構え,基本肢位,重心が規定される要素について理解できる					
14	体位と重	·ù2	基本的立位姿勢の理想的アライメントについて理解できる					
15	肩複合体の過	重動学①	肩複合体の構造について理解	犀できる				

16	戸垢△	休の運動学の	 巨旗全体の関節運動について理知。	<u></u> でキス			
10	月復行	体の運動学② 	肩複合体の関節運動について理解 ⁻	C & Ø			
17	肩複合 [。]	体の運動学③	肩複合体の関節運動における靭帯の作用について理解できる				
18	肩複合	体の運動学④	肩複合体の関節運動における筋の位	作用について理解	こできる		
19	肘関節・	前腕の運動学①	肘関節・前腕の構造,関節運動に~	ついて理解できる			
20	肘関節・	前腕の運動学②	肘関節・前腕の関節運動における	図帯および筋の作	用について理解できる		
21	手関節	かの運動学①	手関節の構造,関節運動について現	里解できる			
22	手関節	かの運動学②	手関節の関節運動における靭帯お。	よび筋の作用につ	いて理解できる		
23	手指	の運動学①	手指関節の構造,関節運動について	て理解できる			
24	手指	の運動学②	手指関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる				
25	股関節	かの運動学①	股関節の構造, 関節運動について現	里解できる			
26	股関節	かの運動学②	股関節の関節運動における靭帯お。	よび筋の作用につ	いて理解できる		
27	膝関節	の運動学①	膝関節の構造, 関節運動について理解できる				
28	膝関節	の運動学②	膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる				
29	足関節	うの運動学①	足関節の構造,関節運動について理解できる				
30	足関節	の運動学②	足関節の関節運動における靭帯お。	よび筋の作用につ	いて理解できる		
į	教科書	・基礎運動学		履修条件	30回の講義なので,7回以上欠席 すると期末試験を受験できない		
;	参考書	・15レクチャー: スト 運動学	-シリーズ 理学療法・作業療法テキ 留意事項等				
尿.績.評価			なかで,適宜小テストを実施する 末試験の結果を総合して成績に反映	させる			
	備考						
		<u> </u>					

		□選	択 🗹 必修	□講義	☑ 演習 □	実習				
	科目名	1	教員氏名	単位	配当年次	開講期				
	運動学演	習	羽澤 晃士	1	1	後期				
	授業概要到達目標	作の仕 運動時 脊柱・ 分析に	引き続き,正常な身体運動を理解する 組みについて理解を深める。また,正 に作用する筋が即座にイメージできる 体幹,顔面・頭部における各関節運動 必要な基本的な知識について理解する なる。	常歩行に関する基本的7 よう演習課題を実施する の仕組みについて説明7	な知識を身につけると る。 できるようになる。 a	とともに,各関節また,歩行の動作				
		d / N	授業計画	EI .						
1	脊柱・体	幹の運動学	空① 脊柱全体の基本構造と機能に	ついて理解できる						
2	脊柱・体	幹の運動学	翌 頸椎の構造,頸部の運動と関	与する筋の作用につ	いて理解できる					
3	脊柱・体	幹の運動学	適別 胸郭の構造,胸部の運動と関	胸郭の構造,胸部の運動と関与する筋の作用について理解できる						
4	脊柱・体	幹の運動学	腰椎の構造,腰部の運動と関	腰椎の構造,腰部の運動と関与する筋の作用について理解できる						
5	顔面と頭	頭部の運動学	学 顎関節の構造と関節運動,咀	顎関節の構造と関節運動,咀嚼筋と顔面筋(表情筋)の作用について理解できる						
6	Œί	常歩行①	正常歩行の基本概念(歩行周	正常歩行の基本概念(歩行周期)について理解できる						
7	Œί	常歩行②	正常歩行時の重心移動や各関	節運動について理解	できる					
8	Œί	常歩行③	正常歩行時の筋活動について	理解できる						
9	Œί	常歩行④	正常歩行時の床反力について	理解できる						
10	上肢の	の筋作用①								
11	上肢の	の筋作用②	上肢の関節運動時における筋	上肢の関節運動時における筋作用を挙げることができる						
12	上肢の	の筋作用③								
13	下肢の	の筋作用①								
14	下肢の	の筋作用②	下肢の関節運動時における筋	5作用を挙げることが	できる					
15	下肢の	の筋作用③								
	教科書	・基礎運動	学	履修条件	15回の講義なの 席すると期末試験					
-	参考書	・15レクチ スト 運動学	ャーシリーズ 理学療法・作業療法・	テキ 留意事項等	できるだけ欠席+を怠らないこと	世ず,予習復習				
成	対績評価			のなかで,適宜小テスト,課題作成を実施する 日末試験,提出物の結果を総合して成績に反映させる						
	備考									

			選択	☑ 必修		□ 講義	✓ 演習	□ 実習	
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	臨床運動	学演習		千葉 馨		1	2	前期	
	授業概要	講義	の前半は	解剖学の基礎から身体の運動について学ぶ。後半では前半の基礎的知識を動作分					
}				の視点を得るためのアクティー					
	到達目標	解剖:	学的知識	を補完し、健常者の基本動作	パター	-ンを理解でき	る		
		•		授業計画					
1	オリエンテ	ーション		本科目の概要や学習目標につ)いてヨ	理解する			
2	骨格筋と運	動①		上肢の筋と運動について/肩甲帯					
3	3 骨格筋と運動②			 上肢の筋と運動について/肩	関節の	の筋			
4	4 骨格筋と運動③			上肢の筋と運動について/肘	けと前周	宛			
5	骨格筋と運	動④		上肢の筋と運動について/手	<u>-</u> 指				
6	6 骨格筋と運動⑤			頭頚部と体幹背部①					
7	7 骨格筋と運動⑥			体幹前部②					
8	中間試験 骨格筋と運動⑦			中間試験30点:⑥までのテスト	/下肢	せの筋と運動 脱	设関節		
9	骨格筋と運	動⑧		下肢の筋と運動 膝関節①					
10	骨格筋と運	動⑨		下肢の筋と運動 膝関節②					
11	骨格筋と運	動⑩		下肢の筋と運動 足関節②					
12	筋と起居動	作①		歩行について①					
13	筋と起居動	作②		歩行について②					
14	筋と起居動	作③		起居動作と筋①					
15	筋と起居動	作④		起居動作と筋②					
	教科書		基础 薬 b	・ 楚運動学 第6版 中村隆一ら图 ∃版	建	履修条件	15回の講義なのると定期試験を		
	参考書	グレ	・ イ解剖学	・徒手筋力検査法第10版		留意事項等	できるだけ欠席 を怠らないこと	せず,予習復習	
	成績評価	・出席日	数,グル	レープワーク取り組み状況,授業態度,中間及び期末試験成績を判定.60点					
				各とする。					
	備考	グループ	゜ワークを	実施するため,グループ全員	が役割	割をもって主体 	的に講義に参加	すること	

機能解剖学演習 成田 大一 1 2 解剖学・運動学の知識を統合し、身体運動を検査・治療方法等と関連付けられるよう習を行う。 本授業では担当教員の臨床における理学療法士としての実務経験ならびにこれまでの教育の経験を活かして講義を展開する。 ・外皮系について説明できる・肩甲帯・肩関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・月関節・拍の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・手関節・指の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・時関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・膝関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・足関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・足の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・足楽計画 1 外皮系の構造と機能 タ皮系の構造と機能を理解するとともに、分布する感覚受容器について説明で表現の構造を関節について説明できる。 「同時帯・肩関節の情造・機能を理解するとともに、分布する感覚受容器について説明できる。」 「同時帯・肩関節の構造・運動を構成する骨格・靭帯を見直し、肩甲帯ならびに肩関節の構造・運動					
解剖学・運動学の知識を統合し、身体運動を検査・治療方法等と関連付けられるよう習を行う。 本授業では担当教員の臨床における理学療法士としての実務経験ならびにこれまでの教育の経験を活かして講義を展開する。 ・外皮系について説明できる・肩甲帯・肩関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・月関節・指の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・手関節・指の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・原関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・膝関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・足関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる・未梢神経系の分布先を説明できる・未梢神経系の分布先を説明できる・清神神経系の分布先を説明できる・「大橋神経系の分布先を説明できる」を楽計画 1 外皮系の構造と機能を理解するとともに、分布する感覚受容器について説明できる。 「青野・肩関節の「肩関節を構成する骨格・靭帯を見直し、肩甲帯ならびに肩関節の構造・運動	うに講義演				
授業概要 習を行う。 本授業では担当教員の臨床における理学療法士としての実務経験ならびにこれまでの教育の経験を活かして講義を展開する。 ・外皮系について説明できる ・肩甲帯・肩関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 月関節・前腕の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 手関節・指の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 予盤・股関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 膝関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足間節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学の特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学の特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学の特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学の特徴を説明できる ・ 下稿神経系の分布先を説明できる					
・肩甲帯・肩関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 対関節・前腕の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 手関節・指の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 骨盤・股関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 膝関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足関節の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学的特徴を説明できる ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学の特徴を説明できる ・ とおりまする ・ 足部の構造を理解し、運動ならびに形態学の特徴を説明できる ・ 上間を表現し、運動ならびに形態学の特徴を説明できる ・ 上間を表現し、運動ならびに形態学の特徴を説明できる ・ 上間を表現し、運動ならびに形態学の特徴を説明できる ・ 上間を表現し、運動ならびに形態学の特徴を説明できる ・ 上間を表現し、と述えば、と述えば、と述えば、と述えば、と述えば、と述えば、と述えば、と述えば					
1 外皮系の構造と機能 外皮の構造と機能を理解するとともに、分布する感覚受容器について説明で 2 骨格系の構造 各骨の名称や関節について説明できる。 『甲帯・肩関節の 肩関節を構成する骨格・靭帯を見直し、肩甲帯ならびに肩関節の構造・運動					
2 骨格系の構造 各骨の名称や関節について説明できる。 肩甲帯・肩関節の 肩関節を構成する骨格・靭帯を見直し、肩甲帯ならびに肩関節の構造・運動					
	じさる。				
世界 に 実動 一部中で キュ	動・特徴を				
構造と運動説明できる。	71 J± 0J 6				
村関節・手関節・手指の 村関節・手関節・手指を構成する骨格・靭帯を見直し,これらの構造・運動 講造と運動 説明できる。	助・特徴を				
骨盤・股関節の 骨盤・股関節を構成する骨格・靭帯を見直し、これらの構造・運動・特徴を	を説明でき				
構造と運動 る。					
	数を説明で				
構造と運動 きる。 足部の ここ					
7	きる。				
8 骨格構造総復習 骨格構造について各骨の名称や形状、特徴、連結について骨格模型を用いて る	て説明でき				
9	肩甲帯・肩関節に作用する筋を見直し,これらの運動を説明できる。				
10 肘関節・手関節・手指の運 動に関与する筋と運動 肘関節・手関節・手指に作用する筋を見直し、これらの運動を説明できる。	肘関節・手関節・手指に作用する筋を見直し,これらの運動を説明できる。				
11 骨盤・股関節の運動に関与 する筋と運動 骨盤・股関節に作用する筋を見直し、これらの運動を説明できる。	骨盤・股関節に作用する筋を見直し、これらの運動を説明できる。				
12					
日3 足部の運動に 関与する筋と運動 足部に作用する筋を見直し、これらの運動を説明できる。					
末梢神経系の 運動の情報を伝える末梢神経系の構造,特に神経叢について理解し,その分 構造と支配領域 て説明できる	分布につい				
15 筋総復習 各筋の起始・停止・作用を説明できる					
教科書 授業は配布資料に基づいて実施する 履修条件 15回の講義なので、4回ると定期試験を受験できた。					
・塩田浩平,他監:グレイ解剖学 原著第4版 ・Paul D. Andrew,他監訳:筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版・中村隆一,他:基礎運動学 第6版補訂	習復習を怠				
成績評価 ・中間テスト、期末試験の内容をもって総合的に評価する ・総計の60%以上を合格とする					
・授業資料を配布するので忘れずに授業に持ってくること ・分からない点を質問するなど教員をうまく活用し、知識の定着に努めること					

		□ i	選択 🖫	3 必修		☑ 講義	□演習□	実習	
	科目名	1		教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	病理学	<u> </u>		楢木 広一		1	1	後期	
	授業概要	病理	学を構	『成する項目について種々理解	゚゚゚でき	るように講義を行	÷ò		
到達目標病理学を構				成する項目について種々理解できる					
		•		授業計	画				
1 総論 ①				病理学の概要,病因論につい	て理り	解できる			
2	2 総論 ②			退行性病変・進行性病変につ	いいて	理解できる			
3	3 総論 3			代謝障害、循環障害について理解できる					
4	4 総論 ④			免疫について理解できる					
5	総	論 ⑤		炎症,感染症について理解で	ぎきる				
6	総	論 ⑥		腫瘍,老化について理解できる					
7	総	論 ⑦		先天異常・奇形について理解できる					
8		各論		造血器について理解できる					
:	教科書 病理学 村			票準理学療法学・作業療法学		履修条件	8回の講義なので, と定期試験を受験		
:	参考書			検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと				ず,予習復習を怠	
反.績評価				なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる					
	備考								

l l	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	内部障害	学		石田 裕二 太田 知明 渡邊 順 埼 文武 樫木 賢三 北川 はる		1	2	前期	
	授業概要			の内科学領域の内容を論じる 指導などにも触れる	内科	∤領域の疾患の概	・ 念, 診断学の基礎,	生活習慣病の	
	到達目標	正確	な病態	の理解とフィジカルアセスメ	ントに	必要な知識を習	得し理解できるよ	うになる	
		J.		授業計画	Đ				
1	消化器	系疾患 (D	消化器の構造と機能の概要に	ついて	て理解できる			
2	消化器	系疾患 (2)	各消化器疾患の概要および診	断、治	台療について理解	できる		
3	代謝	対性疾患		代表的な生活習慣病である糖	尿病の	D診断,治療の概	略を理解できる		
4	内分	泌系疾患		脳下垂体,上皮小体,副腎などの	の内分	泌器官の疾患・障	害について概略を理	解できる	
5	循環系の	の疾患(1)	心臓、血管の構造と機能の概	要につ	ついて理解できる			
6	循環系の	の疾患(2)	高血圧,動脈硬化など血管病変疾患の概要および診断、治療について理解できる					
7	循環系	の疾患(3)	虚血性心疾患の概要および診	断、治	台療について理解	できる		
8	8 循環系の疾患 ④			不整脈の概要および診断、治	療につ	ついて理解できる			
9	呼吸器系	その疾患	1)	呼吸器の構造と機能の概要に	ついて	て理解できる			
10	呼吸器系	その疾患	2	閉塞性換気障害の概要および診断、治療について理解できる					
11	呼吸器系	気の疾患	3	拘束性換気障害の概要および診断、治療について理解できる					
12	呼吸器系	気の疾患	4	各種の肺疾患を分類し,その症状と循環器系への影響について説明できる					
13	栄	養 ①		在宅医療における栄養管理の意義や方法を理解できる					
14	栄	養 ②		具体的に行われている在宅医療における栄養指導について理解できる					
15	栄	養 ③		NST(Nutrition Support Team)の機能をふまえ,多職種連携にけるOT・PTの役割と 活動内容について理解できる					
教	枚科書		なる	ほどなっとく!内科学		履修条件	15回の講義なので、ると定期試験を受験		
参	参考書			検討中		留意事項等	できるだけ欠席せ ^っ らないこと	ず,予習復習を怠	
成	精評価			なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる					
1	備考								

			選折	尺 ☑ 必修		☑ 講義	□演習□	実習		
	科目名	1		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	神経障害	学丨		佐藤 速太		1	2	前期		
	授業概要			害はOT・PTの治療対象の中核を 本科目は神経解剖から症候学						
	到達目標		神経系	の構造と機能を熟知し、様々な数	造と機能を熟知し,様々な症候を医学的に理解できるようになる					
				授業計	授業計画					
1	神経	解剖	1	中枢神経系(脳・脊髄)の	解剖,	機能局在が理解で	できる			
2	神経解剖②			中枢神経と末梢神経の構造	と機能	が理解できる(肌	凶神経を中心に)			
3	神経解剖 ③			上行路と下行路,各種伝導	路の構	造と機能を理解で	できる			
4	神経解剖 ④			錐体外路,小脳の伝導路の:	名称,	構造と機能を理角	军できる			
5	神経症候学 ①			上位ニューロン障害と下位	ニュー	ロン障害の特徴を	と説明できる			
6	神経症候学 ②			錐体路障害による脊髄解放:	錐体路障害による脊髄解放現象により起こる症状を理解できる					
7	神経症候学 ③			錐体外路症状について理解	できる					
8	神経症候学 ④			高次脳機能障害について理解	解でき	る				
9	神経	定候学	5	認知症の分類、症状、周辺	症状(BPSD)などを説	明できるようにな	よ る		
10	神経	定候学	6	小脳症状,球麻痺症状などの	小脳症状,球麻痺症状などの症状について理解できる					
11	神経	定候学	7	脊髄損傷の様々な症状・障	脊髄損傷の様々な症状・障害について理解できる					
12	神経	定候学	<u>4</u> 8	ミオパチーとニューロパチ・	ミオパチーとニューロパチー、筋委縮の病態や分類について理解できる					
13	神経	定候学	9	内科疾患で惹起される神経	・筋症	状についてその)	〈カニズムを理解~	できる		
14	画信	象診断	· f学	様々な神経症状と画像の関	係性に	ついて理解できる	ó			
15	;	まとめ)	仮想症例に関してさまざま	なアセ	スメントを展開で	できるようになる			
1	教科書		病気			履修条件	15回の講義なのでると定期試験を受			
1	参考書			ローズアップ正しい病巣診断の メディカルビュー社	コツ	留意事項等	できるだけ欠席せ らないこと	ず,予習復習を怠		
成	成績評価				なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる					
	備考									

			選択 ☑	3 必修		☑ 講義	□演習□	実習			
	科目名	1		教員氏名		単位	配当年次	開講期			
	神経障害	学		平塚 健太		1	2	前期			
	授業概要	神	9経障害学	: の内容を踏まえ,本科目は身	具体的]な神経疾患とその	の症状・治療につ	いて論じる			
	到達目標			ーションに必要な神経疾患の理解を深め,専門領域で治療学に応用できる知識を習得 用できるようになる							
				授業計画							
1	脳血	管疾患	1	多種の脳血管疾患の疫学と診	断につ	ついて理解できる					
2	脳血	管疾患	2	脳血管疾患に起因する症状や治	治療法	去について理解で	きる				
3	脳	卒中 ①)	脳卒中の危険因子・脳卒中の会	分類及	及び特徴について	理解できる				
4	脳	卒中 ②)	脳卒中の分類別における症状・	や治療	 寮について理解で	きる				
5	脳	卒中 ③)	脳卒中の急性期における治療・	や特徴	敞について理解で	きる				
6	脳:	卒中 ④)	脳卒中の急性期におけるリス	ク管理	里について理解で	きる				
7	脳	卒中 ⑤)	脳卒中の回復期及び維持期に	おける	る治療や特徴につ	いて理解できる				
8	認知症/高	次脳機能	非障害①	認知症・失語症・失認・失行	等の高	高次脳機能障害の	特徴について理解	できる			
9	認知症/高	次脳機能		認知症・高次脳機能障害の治療	療・爹	交勢定位障害につ	いて理解できる				
10	パー	キンソン	′病	高齢者によくみられるパーキンソン病の症状や治療法を説明できる							
11	神経:	筋疾患	1	筋ジストロフィーやALSの特徴について理解できる							
12	神経	筋疾患	2	各種の変性疾患(SCD・MS・I	PSP≅	ទ)について理解で	きる				
13	2	F髄損傷		脊髄損傷の症状,高位診断,	神経学	学的評価法などを	説明できる				
14	医用	画像 (1)	中的小声用心声的特邦大学人	. v= v		医学的工艺 瘤之去	7			
15	医用	画像 (2	実際の症例や画像情報などか	り沚も	人・	医子的に考察 ぐさ	ବ			
:	教科書		病気:	・ がみえる vol.7 脳・神経		履修条件	15回の講義なので、 ると定期試験を受験				
:	参考書			適宜提示 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠らないこと							
咸	 え 績評価			なかで、適宜小テストを実施す 県と定期テストの結果を総合し		責に反映させる					
	備考			筋ジストロフィーやALSの特徴について理解できる							

精神医学 佐藤 裕一 1 1 後期 技術医学 佐藤 裕一 1 1 後期 投棄観要 精神に関する基礎知識から病理までの知識を身に着け、リハビリテーションを前提に理解を進ることができるよう構義を行う 別達日標 精神について、精神医学についての理解を深め、リハビリテーションと競達した思考ができるうになる 技術の分別、症状病、身色、神経症性原素とその周辺疾患について横端を理解できる 技術を多の分別、症状病、身色、神経症性原素とその周辺疾患について横端を理解できる 様々な治療(薬物療法、精神療法、リハビリテーション、心理学的アプローチ、設行対験法など)について、その機能を運解できる 投資が機能をといてついて、その機能を運解できる 公別に、器質性精神病、薬剤性精神療法・ロいて理解できる 公治を失謀症 大の機能を運解できる 公治を失謀症 大の機能を運解できる 公別を決議を対してついて、運解できる 公別を決議を対してついて、運解できる 公別を決議を対してついて、運解できる 各論 ② 大格等書 様々な人格牌書について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 各論 ③ 人格障害 様々な人格牌書について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 各論 ③ 人格障害 様々な人格牌書について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 日常庭スペクトラム 日間症スペクトラム 日間症スペクトラム症 (ASD) や広汎性発法障害について理解できる 名論 ③ 大格が症 ② 対加症の原因疾患、分素・症状の特徴などが理解できる 北かんの人の人の分裂や症状について理解できる 北が産学 ② リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 大部等学 ③ 日本事業・大部等と受験できな 大部等医学 大部の企業を変換できな 大部の企業を変換できな 大部の企業を変換できな 大部を学 大部の企業を変換できな 大部の企業を変換できな 大部の企業を変換できる 大部の企業を変換できる 大部の企業を変換できる 大部の企業を変換がでする 大部の企業を変換ができる 大部の企業を変換がでする 大部の企業を使用する 大部の企業を変換がでする 大部の企業を使用する 大語の定述を使				選択	3 必修		☑ 講義	□演習□	実習			
授業解要 精神に関する基礎知識から病理までの知識を多に着け、リハビリテーションを前提に理解を進 ることができるよう論義を行う 精神について、精神医学についての理解を製め、リハビリテーションと関連した思考ができる したなる 「技術ないから、		科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期			
お神について、精神医学についての理解を深め、リハビリテーションと関連した思考ができる 大きなる 一方になる		精神医学	/ 1		佐藤 裕一		1	1	後期			
別速目標		授業概要				識を身	身に着け,リハビ	リテーションを育	・ 前提に理解を進め			
1 総論 ① 精神医学とは何か、その概略を理解できる 2 総論 ② 精神疾患の分類、症状論、検査、神経症性障害とその周辺疾患について概略を理解できる 3 機論 ③ 様々な治療(薬物療法、精神療法、リハビリテーション、心理学的アプローチ、認行動療法など)について、その概略を理解できる 4 総論 ④ 認知症、器質性精神病、薬剤性精神障害について理解できる 5 名論 ① 気分障害 気分降害の分類や症状について理解できる 6 名論 ② 統合失調症 様々な神経症領域の障害について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 7 各論 ③ 体存症 アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる 9 名論 ③ 依存症 アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる 10 各論 ③ 自閉症スペクトラム症 (ASD) や広汎性発達障害について理解できる 11 名論 ④ でんかん てんかんの分類や症状について理解できる 12 名論 ⑥ 認知症 認知症の原因疾患、分類、症状の特徴などが理解できる 13 治療学 ④ 各種の精神疾患に対する治療的介入法(薬物療法、精神療法、心理学的アプローチ作業療法など)について、期待できる効果について理解できる 14 治療学 ④ リエゾン精神医学 に対する治療的介入法(薬物療法・精神療法、心理学的アプローチ作業療法など)について、期待できる効果について理解できる 15 リエゾン精神医学 標準理学療法学・作業療法学・保護法学 履修条件 信の講義ので、4回以上欠原すると定期試験を受験できなを対けを考えると定期試験を受験できる お検討中 留意事現等 できるだけ欠席せず、予習復習を含むいこと 成就評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する		到達目標			って,精神医学についての理解	『を深め	か, リハビリテー	ションと関連した	こ思考ができるよ			
2 総論 ② 精神疾患の分類、症状論、検査、神経症性障害とその周辺疾患について関格を理解できる			'		授業計画							
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1 総論 ①				精神医学とは何か,その概略を理解できる							
3 総論 ③ 行動療法など)について、その機略を理解できる 4 総論 ④ 認知症、器質性精神病、薬剤性精神障害について理解できる 5 各論 ④ 気分障害 気分障害の分類や症状について理解できる 6 各論 ④ 林谷生間障害 様々な神経症領域の障害について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 8 各論 ④ 人格障害 様々な人格障害について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 9 各論 ⑤ 依存症 アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる 10 自閉症スペクトラム症 (ASD) や広汎性発達障害について理解できる 11 各論 ⑥ てんかん でんかんの分類や症状について理解できる 12 各論 ⑥ 認知症 認知症の原因疾患、分類、症状の特徴などが理解できる 13 治療学 ① 各種の精神疾患に対する治療的介入法(薬物療法、精神療法、心理学的アプローチ作業療法など)について、期待できる効果について理解できる 15 リエゾン精神医学 リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 数料書 精神医学 標準理学療法学・作業療法学 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できなできる 教科書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予管復習意らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	2	総	論 ②		精神疾患の分類,症状論,検査	, 神経	経症性障害とその周	辺疾患について概略	各を理解できる			
5 名論 ① 気分障害 気分障害の分類や症状について理解できる 6 名論 ② 統合失調症 統合失調症の分類や症状について理解できる 7 名論 ③ 神経症性障害 様々な神経症領域の障害について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 8 名論 ④ 人格障害 様々な人格障害について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 9 名論 ⑥ 依存症 アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる 10 自閉症スペクトラム 自閉症スペクトラム症 (ASD) や広汎性発達障害について理解できる 11 各論 ⑥ び てんかん てんかんの分類や症状について理解できる 12 各論 ⑥ 認知症 認知症の原因疾患、分類、症状の特徴などが理解できる 13 治療学 ① 各種の精神疾患に対する治療的介入法(薬物療法、精神療法、心理学的アプローチ作業療法など)について、期待できる効果について理解できる 14 治療学 ② リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できな ならないこと 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習 念らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	3	総	論 ③					/ョン,心理学的プ	アプローチ,認知			
6 各論 ② 統合失調症 統合失調症の分類や症状について理解できる 7 各論 ③ 神経症性障害 様々な神経症領域の障害について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 8 各論 ④ 人格障害 様々な人格障害について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 9 各論 ⑤ 依存症 アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる 10 自閉症スペクトラム 自閉症スペクトラム症 (ASD) や広汎性発達障害について理解できる 11 各論 ⑦ てんかん てんかんの分類や症状について理解できる 12 各論 ⑧ 認知症 認知症の原因疾患、分類、症状の特徴などが理解できる 13 治療学 ① 各種の精神疾患に対する治療的介入法(薬物療法、精神療法、心理学的アプローチ作業療法など)について、期待できる効果について理解できる 15 リエゾン精神医学 リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 数科書 精神医学 標準理学療法学・作業療法学 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できな 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習 怠らないこと	4	総	論 ④		認知症,器質性精神病,薬剤	性精	神障害について 理	1解できる				
7 各論 ③ 神経症性障害 様々な神経症領域の障害について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 8 名論 ④ 人格障害 様々な人格障害について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 9 名論 ⑥ 依存症 アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる 10 名論 ⑥ 自閉症スペクトラム症 (ASD) や広汎性発達障害について理解できる 11 名論 ⑦ てんかん てんかんの分類や症状について理解できる 12 名論 ⑧ 認知症 認知症の原因疾患、分類、症状の特徴などが理解できる 13 治療学 ⑥ 各種の精神疾患に対する治療的介入法(薬物療法、精神療法、心理学的アプローチ 作業療法など)について、期待できる効果について理解できる 14 治療学 ② 「本療法など)について、期待できる効果について理解できる 15 リエゾン精神医学 リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 数科書 精神医学 標準理学療法学・作業療法学 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できな 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習 念らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	5	各論(1	D 気分	障害	気分障害の分類や症状につい	へて理解	解できる					
8 各論 ④ 人格障害 様々な人格障害について、その症状や環境要因の関係などを理解できる 9 各論 ⑤ 依存症 アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる 10 名論 ⑥ 自閉症スペクトラム症 (ASD) や広汎性発達障害について理解できる 11 各論 ⑦ てんかん てんかんの分類や症状について理解できる 12 各論 ⑧ 認知症 認知症の原因疾患、分類、症状の特徴などが理解できる 13 治療学 ① 各種の精神疾患に対する治療的介入法(薬物療法、精神療法、心理学的アプローチ作業療法など)について、期待できる効果について理解できる 15 リエゾン精神医学 リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 数科書 精神医学 標準理学療法学・作業療法学 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できなを考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習息らないこと 成嫌評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	6	各論 ②	統合纠	- 調症	統合失調症の分類や症状につ	ついて3	里解できる					
9 各論 ⑤ 依存症 アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる 10 各論 ⑥ 自閉症スペクトラム症 自閉症スペクトラム症 (ASD) や広汎性発達障害について理解できる 11 各論 ⑥ び てんかん てんかんの分類や症状について理解できる 12 各論 ⑥ 認知症 認知症の原因疾患、分類、症状の特徴などが理解できる 13 治療学 ① 各種の精神疾患に対する治療的介入法(薬物療法、精神療法、心理学的アプローチ作業療法など)について、期待できる効果について理解できる 14 治療学 ② リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 15 リエゾン精神医学 リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 教科書 精神医学標準理学療法学・作業療法学 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できなを考書 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習念らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	7	各論 ③	神経症	性障害	様々な神経症領域の障害について,その症状や環境要因の関係などを理解できる							
10 名論 ⑥ 自閉症スペクトラム症 (ASD) や広汎性発達障害について理解できる 11 名論 ② てんかん てんかんの分類や症状について理解できる 12 名論 ⑧ 認知症 認知症の原因疾患、分類、症状の特徴などが理解できる 13 治療学 ③ 各種の精神疾患に対する治療的介入法 (薬物療法、精神療法、心理学的アプローチ 作業療法など) について、期待できる効果について理解できる リエゾン精神医学 リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 数科書 精神医学 標準理学療法学・作業療法学 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できな 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習 念らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	8	各論() 人格	障害	様々な人格障害について,そ	その症	犬や環境要因の関	『係などを理解でる	きる			
10	9	各論	⑤ 依存	7症	アルコール依存や薬物依存な	こどのタ	病態とそれらの 治	お療について理解で	できる			
12 名論 ⑧ 認知症 認知症の原因疾患、分類、症状の特徴などが理解できる 13 治療学 ①	10			ラム	自閉症スペクトラム症(ASD)や広汎性発達障害について理解できる							
13 治療学 ① 各種の精神疾患に対する治療的介入法(薬物療法、精神療法、心理学的アプローチ 作業療法など)について、期待できる効果について理解できる リエゾン精神医学 リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 教科書 精神医学 標準理学療法学・作業療法学 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できな 歳らないこと できるだけ欠席せず、予習復習 歳らないこと ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する 15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する 15回の講義のなかで、適宜小寿などのでは、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のなかで、15回の講義のは、15回の表述をいかでは、15回の表	11	各論(ひ てん	かん	てんかんの分類や症状について理解できる							
各種の精神疾患に対する治療的介入法(薬物療法、精神療法、心理学的アプローチ 作業療法など)について、期待できる効果について理解できる 15 リエゾン精神医学 リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 教科書 精神医学 標準理学療法学・作業療法学 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できなを参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習息らないこと	12	各論	8 認知	1症	認知症の原因疾患,分類,症	€状の∜	寺徴などが理解で	できる				
14 治療学 ② 15 リエゾン精神医学 リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる 教科書 精神医学 標準理学療法学・作業療法学 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できな 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習 怠らないこと ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	13	治療	§学 ①		各種の精神疾患に対する治療	§的介.	入法(薬物療法,	精神療法,心理等	学的アプローチ,			
教科書 精神医学 標準理学療法学・作業療法学 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できな	14	治療	§学 ②		作業療法など)について,期	待で	きる効果について	て理解できる				
教科書 精神医学 標準理学療法学・作業療法学 履修条件 席すると定期試験を受験できな 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習	15	リエゾ	ン精神圏	€学	リエゾン精神医学における作	F業療法	去士・理学療法士	この役割について	里解できる			
参考書 検討中 留意事項等 怠らないこと はらないこと ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	100	教科書 精神医学			標準理学療法学・作業療法学		履修条件		,			
人 成績評価	1	参考書			検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと							
	成	成績評価										
備考		備考										

		□選	択 ☑	1 必修		☑ 講義	□演習□	実習			
	科目名	7		教員氏名		単位	配当年次	開講期			
	老年期障	害学		千葉 馨 伊丸岡 知明		1	1	後期			
	授業概要	老年	期の特	徴を理解し,我が国における	老年[医学,高齢者医療	について理解でき	るよう講義を行			
	到達目標	老年	期の特	微を理解し,我が国における	老年[医学,高齢者医療	について理解でき	₹ 3			
				授業計画							
1		とリハビリ [.] ンについて	テー	老年期医学とリハビリテーションの関係について理解できる							
2	加齢に	伴う変化(1)	老年期の感覚機能の変化につ	いて	理解できる					
3	加齢に	伴う変化(2	老年期の生理機能形態学的変	化に	ついて理解できる					
4	加齢に	伴う変化(3	老年期の運動・認知・精神心	理面	の変化について理	解できる				
5	高齢者	の機能評価の	1)	高齢者特有の機能評価につい	て理	解できる					
6	高齢者	の機能評価の	2	 高齢者特有の機能評価につい	て理	解し、実践できる					
7	脱	水と代謝		加齢に起因する代謝障害につ	いて	理解できる					
8	栄養と服薬	薬アドヒアラ	シス	高齢者に必要な栄養や評価、	服薬	アドヒアランスに	ついて理解できる	Š			
9	老年期症	候群につい	て①	代表的な老年期症候群につい	て理	解できる					
10	老年期症	候群につい	て②	代表的な老年期症候群について理解できる							
11	循環器	疾患につい	7	代表的な老年期症候群について理解できる							
12	呼吸器	疾患につい	7	代表的な循環疾患について理	解で	きる					
13	高齢者のリ	ハビリテーシ ①	ノョン	高齢者のリハビリテーション	たつ	いて理解できる					
14	高齢者のリ	ハビリテーシ ②	/ョン	高齢者のリハビリテーション	に必	要なリスク管理に	ついて理解できる	5			
15)終末期医療 ついて	そに こ	緩和ケア・ホスピスなど終末	期医	寮と高齢者との 関	係を理解できる				
;	教科書 老年学			標準理学療法学・作業療法学 履修条件 15回の講義なので4回以上が すると定期試験を受験できた							
:	参考書			検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと							
月	成績評価			なかで、適宜小テストを実施 果と定期テストの結果を総合し		績に反映させる					
	備考										

		□ 選	択 🗹 必修			☑ 講義	□ 演習 □	実習			
	科目名	İ		教員氏名		単位	配当年次	開講期			
	運動器障	書学		大一 幡野 佐己依 八木原 一剪 龍智 木村 中 本田 進	Ę.	1	2	前期			
	授業概要	運動	器に纏	望わる疾患について発生と治療法について知り, 理解できるよう講義を行う							
	到達目標	1	な運動 ジでき	加器疾患の症状と治療法について知り,具体的な作業療法・理学療法の治療技術をイ る							
				授業計	画						
1		骨の発生と 節の基本棒		骨の発生と成長と軟骨・関節	節の基	本構造について理	里解できる				
2	総論② 神経損傷	・末梢神経	隆害	末梢神経障害の症状と治療に	こつい	て理解できる					
3	各論①	肩・上肢		肩に見られる様々な疾患の類解できる	定状や	障害について学び	び,整形外科的な	台療について理			
4	各論②	肩・上肢		肘に見られる様々な疾患の症 解できる	定状や	障害について学び	び,整形外科的な氵	台療について理			
5	各論③	肩・上肢		前腕・手に見られる様々な粉 いて理解できる	実患の	症状や障害につい	ヽて学び,整形外科	科的な治療につ			
6	各論⑤股	関節・膝・	足部	変形性股関節症の診断(画像)と観血的治療やその他について理解できる							
7	各論⑥股	関節・膝・	足部	変形性膝関節症の診断(画像	象) と	観血的治療やその	D他について理解 ⁻	できる			
8	各論⑥股	関節・膝・	足部	靭帯損傷の診断(画像)と観	見血的	治療やその他につ	ついて理解できる				
9	各論⑦股	関節・膝・	足部	下肢の骨折(大腿骨頸部骨折等)の診断(画像)と観血的治療やその他について理解できる							
10	各論⑧股	関節・膝・	足部								
11	各論⑨	脊柱疾患		圧迫骨折・破裂骨折・狭窄症の診断(画像)と観血的治療やその他について理解で きる							
12	各論⑩	脊柱疾患		頚髄症・末梢神経障害(上肢を中心に)の診断(画像)と観血的治療やその他につ いて理解できる							
13	各論⑪	脊柱疾患		腰痛・椎間板ヘルニアの診断	沂(画	像)と観血的治療	う う や その他につい ⁻	て理解できる			
14	各論⑨	褥瘡		褥瘡の病態について理解を深め、それらの診断や治療法について概略を理解できる							
15	各論⑩	熱傷		熱傷の深度や面積の判定,気 の	え道熱	傷など,熱傷の症	病態について理解:	を深め,それら			
Ę	教科書病気が			るvol.11 運動器・整形外科		履修条件	15回の講義なのでると定期試験を受				
ź	参考書		検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習 らないこと								
成	えりまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はい			なかで、適宜小テストを実施 果と定期テストの結果を総合		対績に反映させる					
	備考										

		□ 選択	☑ 必修		√	講義	□ 演習		実習
	科目名	1	教員氏名		単位	位	配当年次		開講期
	薬理学	1	今島 昌三	1		1		後期	
	授業概要	響を及ぼし	ーション分野において,必要な? うる要因,さらに薬物の副作用に ーション医療に生かせる能力を!	こつい	ての知識を				
	到達目標	リハビリー	テーション分野において,必要	なる	薬理学の材	既念につ	いて理解でき	る	
				画					
1	-	ンテーション	人体にとって「異物」である	うクス	リとは何だ	か,臨床	·薬理学の概念	を説	明できる
2	抗感染症	薬/ 消炎鎮痛薬	抗ウィルス剤や抗菌剤,ワク・ 副腎皮質ステロイド剤 NS.					明でる	きる
3	聿神経系作 月	月薬/抗アレルギ	交感神経や副交感神経に作用 アレルギーの分類やアナフィ						
4	吸器系の薬	/循環器系の薬	COPDや間質性肺炎などに技 降圧剤および昇圧剤の薬理化						
5	循環器	系の薬 ②	抗不整脈剤や冠動脈に作用す	「る薬	などの概略	略を説明	できる		
6	経系の薬	①/神経系の薬		脳浮腫の改善,脳機能の賦活,筋緊張の調整などに作用する薬剤について理解する パーキンソン病などの錐体外路障害,認知症に対する薬剤について理解する					
7	-領域の薬	①/精神科領域の	抗精神病薬の薬理効果について説明できる 双極性障害の薬,抗てんかん剤,抗不安剤,などの向精神薬の概略を理解できる						
8	亢悪性腫瘍薬	薬/内分泌系の薬	悪性腫瘍の種類とそれに対応 代謝異常やホルモン異常で素						!果
	教科書	シ	レプル薬理学改訂第5版 履修条件				欠席で	で期末試験の受験	
	参考書		検討中 留意事項等 予習復習を怠らないこと					いこと	
Þ	戈績評価	・テストは9回	目に実施する。テストは選択	問題に	なるので	まんべん	んなく復習して	て理解	¥すること
備考									

] 選	択 ☑	1 必修	☑ 講義 □ 演習 □ 実習						
	科目名	,			教員氏名		単位	配当年次	開講期			
	発達障害	学			高橋 和俊		1	2	前期			
	授業概要		子ども	ちの発	達についての考え方とリハビ	リテー	ーションについて	理解できるように	講義を行う			
	到達目標		子ども	ちの発								
			ı		授業計画							
1	1 人間の発達過程				発達段階諸説について復習を行い,発達過程について理解できる							
2	NICU対象児				NICU対象児ついての病態と!	リハビ	`リテーションのフ	かかわりについて	理解できる			
3	脳性麻痺1				 脳性麻痺児ついての病態とリ	ハビ	リテーションのヵ	かわりについて理	里解できる			
4	脳	性麻痺	草2		脳性麻痺児ついての病態とリ	ハビ	リテーションのか	かわりについて理	里解できる			
5	脳	性麻痺	車3		脳性麻痺児ついての病態とリ	ハビ	リテーションのカ	かわりについて理	里解できる			
6	脳	性麻痺	車4		脳性麻痺児ついての病態とリ	ハビ	リテーションのカ	かわりについて理	里解できる			
7	脳	性麻痺	車5		脳性麻痺児ついての病態とリ	ハビ	リテーションのか	かわりについて理	里解できる			
8	脳	性麻痺	草6		脳性麻痺児ついての病態とリ	ハビ	リテーションのか	かわりについて理	里解できる			
9	進行性筋 骨系	ジス 統系		1/	筋ジストロフィ児ついての病 できる	態と	リハビリテーショ	ンのかかわりにつ	ついて理解			
10	染色体	z起因'	生障害		染色体起因性障害ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる							
11	-	分脊	惟		二分脊椎児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる							
12	知	1的障	書		 知的障害児ついての病態とリ	ハビ	リテーションのカ	かわりについて玛	里解できる			
13	神経	Z発達:	症 1		神経発達症についての病態と	リハ	ビリテーションの	かかわりについて	て理解できる			
14	神紹	Z発達:	定 2		神経発達症についての病態と	リハ	ビリテーションの	かかわりについて	て理解できる			
15	神経	圣発達	症3		神経発達症についての病態と	リハ	ビリテーションの	かかわりについて	て理解できる			
į	教科書				適宜 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠ると定期試験を受験できない							
:	参考書				適宜 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠らないこと							
成	えりまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はい				なかで、適宜小テストを実施で 果と定期テストの結果を総合し		績に反映させる					
	備考											

] 選	択 ☑] 必修		☑ 講義	□演習□	実習			
	科目名	,			教員氏名		単位	配当年次	開講期			
	臨床心理	学			諏訪 麻依子		1	1	後期			
	授業概要				トへの心理的な評価が行える 講義を行う	知識。	と技術を理解し,	臨床的な知識を身	∤につけることが			
	到達目標		心理	アセス	スメントの方法,具体的な心理療法に関する基礎的な知識を身につける							
			•		授業計画							
1	オリエ	ンテー	-ショ:	ン	臨床心理学の歴史から現代の考え方までを知り、理解することができる							
2	障害受容				障害受容の過程について理解できる							
3	人	、格理	論		性格の類型論と特性論を理解	゚゚でき	3					
4	学	習理	論		学習の成立,強化因子,条件 	付け	などが理解できる					
5	防律	5機制	1		防衛機制とは何かその概略を	理解	する					
6	防律	う機制	2		様々な防衛機制について,その特徴を理解できる							
7	心理	療法	総論		心理療法の概略,治療者とク	ライ	エントの心理的反	応などを理解でき	きる			
8	/ <u>`</u>	・理発:	達		発達段階と発達過程について	理解:	できる					
9	直	接技	法		心理療法における基本的技法について理解できる							
10	心理療	法各	論 ①)	森田療法,自律訓練法,集団精神療法について理解できる							
11	心理療	法各	論 ②)	精神分析療法,行動療法,内観療法について理解できる							
12	心理療	法各	論 ③)	来談者中心療法,箱庭療法,	催眠	療法,実存分析に	ついて理解できる	3			
13	心理療	法各	論 ④)	認知行動療法を中心に,現代	の臨点	末技術について理	解できる				
14	心理	検査	1		様々な人格検査の特徴と技法	につり	ハて理解できる					
15	心理	検査	2		様々な(広義の)知能検査に	つい	て理解できる					
ž	教科書 面白いほ				ほどよくわかる!臨床心理学 履修条件 15回の講義なので、ると定期試験を受験で							
á	参考書						留意事項等	できるだけ欠席せ らないこと	ず,予習復習を怠			
向	対績評価				なかで、適宜小テストを実施で 果と定期テストの結果を総合し		 績に反映させる					
	備考											

		□選	択 ☑ 必修	☑ 講義	□演習□] 実習					
	科目名	,	教員氏名	単位	配当年次	開講期					
	救急医	学	武山 佳洋	1	2	後期					
	授業概要		・ 目では主な外傷と疾病について応急 ジカルアセスメントに応用できるも		必要性を説明する	これらの内容は					
	到達目標	応急	処置の必要性を理解し医療施設以外	の場所でも正しい原	斤処置ができるよう(になる					
		-	授業計	<u> </u>							
1	救急	医学序論	救急医療とは何か、そのコン れているのかを説明できるよ		ミ際の救急医療がど	のように展開さ					
2	皮	膚損傷	皮膚の構造や機能を理解し、	皮膚の構造や機能を理解し、皮膚の損傷に対する応急処置ができるようになる							
2	運	動器障害	脱臼,捻挫、骨折に対する応	脱臼,捻挫、骨折に対する応急処置ができるようになる							
3		н ф	出血で引き起こされる失血性 を通して理解することができ		里を理解し、止血方:	法について演習					
4	意	意識障害	意識障害の原因疾患、その程 解することができる	建度について学び、 頽	意識障害患者への対	処法について理					
5	/L	い肺停止	心肺停止状態の患者に対する	蘇生法について理解	翠できる						
6	心肺蕨	集生術の演習 かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	る おおり おり おり おり から	その効果と具体的な	な手技について理解	できる					
7	熱傷	の救急医療	熱傷の重症度分類や9の法則	,治療に関する知識	深め、それを説明で	できる					
8	医療機関	間での救急医	事故・外傷により医療機関に か理解することができる	- 搬送された患者に対	対し、どのような処	置がなされるの					
	以	人下空欄		以下空欄							
	教科書		検討中	検討中 履修条件 8回の講義なので、2回以上欠席す と定期試験を受験できない							
:	参考書		検討中	検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと							
反	戈績評 価		義のなかで、適宜小テストを実施す 5果などを総合して成績に反映させる								
	備考										

11 運動主体感 ① て)についての理解ができる 12 運動主体感 ② 運動イメージを育むためのリハビリテーションについて理解できる 13 運動学習の神経メカニズム 運動学習とシークエンスについて理解できる 14 脳神経科学に基づいたリハビリテーションについて理解できる CI療法、川平法 15 脳神経科学に基づいたリハビリテーションについて理解できる BMIやロボットリハビリテーション② 教科書 適宜、資料を配布する 履修条件 履修条件 できない			□ 選	尺 ☑ 必修		☑ 講義	□ 演習 □	実習				
授業機要		科目名		教員氏	氏名	単位	配当年次	開講期				
対学の知識について論じる 別達目標		脳神経科:	学	千葉	聲	1	1	後期				
超神経科学オリエンテー		授業概要					が臨床研究に生かる	けことができる脳				
1 脳神経科学オリエンテー クョン 作業療法士が脳機能と脳科学について学ぶ意義を理解できる ション 2 脳解削と働き 脳の解削と機能局在を中心とした働きについて理解できる		到達目標	脳機能	どと働きについて身体	きについて身体と感覚の観点から理解できる							
1 ション 作業療法士が起機能と脳科学について学ぶ意義を理解できる 2 脳解剖と働き 脳の解剖と機能局在を中心とした働きについて理解できる 3 脳と感覚 感覚、知覚、認知について理解できる 2点識別漢書を通して感覚について学ぶ 4 脳と記憶 脳の働きの主軸である記憶について理解できる 記憶の種類と記憶と脳の関係について理解できる。 5 神経の可塑性① 神経の可塑性について機要を理解できる。学習理論の復習をとおして脳の可塑性を理解できる。 6 神経の可塑性② 非疎述記憶の研究を通し、神経の可塑性について理解を深めることができる。 7 神経の可塑性③ 神経の可塑性についてシナブス間でどのような変化が起きているのかを理解できる 中間テスト 身体図式と身体イメージ ② 運動制御と身体イメージ ② 空間処理情報に基づいた手の制御ンステムについて理解できる 9 運動制御と身体イメージ ② 身体所有間について理解できる 11 運動主体感 ② 運動主体感とは何か、7またその責任領域(運動イメージの神経基盤と脳機能について)について理解ができる 12 運動主体感 ② 運動イメージを育むためのリハビリテーションについて理解できる 13 運動学習の神経メカニズム 運動学習とシークエンスについて理解できる 14 脳神経科学に基づいたリハ ビリテーション① コューロリハビリテーションについて理解できる BMIやロボットリハ コーコーリハビリテーションについて理解できる BMIやロボットリハ 数料書 適宜、資料を配布する 配・神経科学入門 露事項等 脳機能について講義内の知識を禁究すること が続評価・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する・中間テスト30点、期末テスト70点のトータル100点で成績を判定する			l		授業計画							
	1			 作業療法士が脳	ŭ機能と脳科学に [・]	ついて学ぶ意義を理	里解できる					
A 脳と記憶 脳の働きの主軸である記憶について理解できる 記憶の種類と記憶と脳の関係について理解できる。	2	脳解	剖と働き	脳の解剖と機能	に局在を中心とし	た働きについて理角	星できる					
4 脳と記憶 て理解できる	3	脳	と感覚	感覚、知覚、認	恩知について理解:	できる 2点識別演	習を通して感覚に	ついて学ぶ				
特経の可塑性② 非陳述記憶の研究を通し、神経の可塑性について理解を深めることができる。	4	脳	と記憶		曲である記憶につ	いて理解できる 言	己憶の種類と記憶。	と脳の関係につい				
神経の可塑性② 神経の可塑性についてシナブス間でどのような変化が起きているのかを理解できる 中間テスト 身体図式と身体イメージ 空間処理情報に基づいた手の制御システムについて理解できる 運動制御と身体イメージ 空間処理情報に基づいた手の制御システムについて理解できる 運動制御と身体イメージ 身体所有間について理解できる 運動主体感 ① 運動主体感 ② 運動主体感と傾何か、7またその責任領域(運動イメージの神経基盤と脳機能について)についての理解ができる 運動主体感 ② 運動主体感 ② 運動主体を含むのリハビリテーションについて理解できる 13 運動学習の神経メカニズム 運動学習とシークエンスについて理解できる 14 脳神経科学に基づいたリハ ビリテーション① ニューロリハビリテーションについて理解できる 上のアーション① ビリテーション② ニューロリハビリテーションについて理解できる BMIやロボットリハ ビリテーション② 上のアーションについて理解できる BMIやロボットリハ ビリテーション② 変料を配布する 「プラ以上欠席すると定期試験を受験できない な続評価 小ビリテーションのための 脳・神経科学入門 留意事項等 脳機能について講義内の知識を補完すること 15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する 小田テスト30点、期末テスト70点のトータル100点で成績を判定する 15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する 中間テスト30点、期末テスト70点のトータル100点で成績を判定する 15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する 中間テスト30点、期末テスト70点のトータル100点で成績を判定する	5	神経σ	可塑性①		こついて概要を理	解できる。学習理論	侖の復習をとおし [∼]	て脳の可塑性を理				
8	6	神経の	可塑性②	非陳述記憶の研	T究を通し、神経	の可塑性について理	里解を深めることフ	ができる。				
8 身体図式と身体イメージ ② ② ② ② ② ② ② ② ②	7	神経の	可塑性③	神経の可塑性に	こついてシナプス	間でどのような変化	とが起きているのフ	かを理解できる				
2 ② ② ② ② ② ② ③ ③ ③ ③	8			身体図式と身体	メイメージについ	て理解できる						
10 ③ 身体所有間について理解できる 運動主体感とは何か、7またその責任領域(運動イメージの神経基盤と脳機能について)についての理解ができる 12 運動主体感 ② 運動イメージを育むためのリハビリテーションについて理解できる 13 運動学習の神経メカニズム 運動学習とシークエンスについて理解できる 14 脳神経科学に基づいたリハ ビリテーション① ニューロリハビリテーションについて理解できる CI療法、川平法 15 脳神経科学に基づいたリハ ビリテーション② ニューロリハビリテーションについて理解できる BMIやロボットリハ ビリテーション② ニューロリハビリテーションについて理解できる BMIやロボットリハ 数科書 適宜、資料を配布する 履修条件 1/5以上欠席すると定期試験を受験できない リハビリテーションのための 脳・神経科学入門 留意事項等 脳機能について講義内の知識を補完すること 15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する・中間テスト30点、期末テスト70点のトータル100点で成績を判定する 15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する・中間テスト30点、期末テスト70点のトータル100点で成績を判定する 15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する・中間テスト30点、期末テスト70点のトータル100点で成績を判定する 15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する 15回の講義のなかで、適宜小テストの記述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述	9	運動制御と	_	- ジ 空間処理情報に	空間処理情報に基づいた手の制御システムについて理解できる							
11 運動主体感 ①	10	運動制御と		-ジ 身体所有間につ	身体所有間について理解できる							
13 運動学習の神経メカニズム 運動学習とシークエンスについて理解できる	11	運動主	E体感 ①		運動主体感とは何か、7またその責任領域(運動イメージの神経基盤と脳機能について)についての理解ができる							
14 脳神経科学に基づいたリハ	12	運動主	三体感 ②	運動イメージを								
14	13	運動学習の	神経メカニ	ズム 運動学習とシー	-クエンスについ	て理解できる						
15	14			- ¬ — □ リハト	ごリテーションに	ついて理解できる	CI療法、川平法					
教科書 適宜、資料を配布する 履修条件 できない できない できない 日本	15			ニューロリハヒ	ご リテーションに	ついて理解できる	BMIやロボット!	JA				
参考書 第2版 留意事項等 すること	;	教科書		· 適宜,資料を配布	『官、資料を配布する ――――――――――――――――――――――――――――――――――――							
・中間テスト30点、期末テスト70点のトータル100点で成績を判定する	:	参考書	リハビリテ									
備考	反	5.績評価 📗										
<u>. </u>		備考										

			選:	択 ☑] 必修		☑ 講義	□演習□	実習		
	科目名				教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	言語障害治	療学			野村 昌邦		1	2	前期		
	授業概要		失語症 行う	定や嚥	҈下障害のリハピリテーションを通して	言語	徳覚士の仕事につ	いて理解できるよ	くうに講義を		
	到達目標		失語症	定や嚥	下障害のリハピリテーションを通して言語聴覚士の仕事について理解できる						
		•			授業計画						
1	言語	· 障害総	総論		言語聴覚士の役割と言語障害	引, か:	かわる脳機能につ	いて理解できる			
2	言語的コミ	ュニケ	ァーシ	ョン	言語的コミュニケーションの	障害	について概略が理	解できる			
3	言語音	を産出	出機構		言語・コミュニケーションと	その	生物学的基礎につ	いて理解できる			
4	摂食	[嚥下榜	幾構		摂食嚥下機構・聴覚機構とそ	· の生!	物学的基礎につい	て理解できる			
5	<u>.</u>	失語症			運動性失語と感覚性失語(超]皮質	性失語の概念も含	む)について理解	望できる		
6	失語	語症の評	平価		失語症の評価の種類,意義,	解釈	について理解でき	る			
7	失語症の	のリハヒ゛	リテーショ	ン	失語症のリハビリテーション	につ	いて理解できる				
8	嚥下障害	景につし	いて	3	嚥下障害のリハビリテーショ	ンに	ついて理解できる				
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
į	教科書				検討中		履修条件	8回の講義なので、			
3	参考書				検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと						
成	成.績 評価				かで、適宜小テストを実施す 果と定期テストの結果を総合し		績に反映させる				
	備考										

		□ 選	選択 ☑ 必修			□ 講義	☑ 演習 □	」 実習	
	科目名	,		教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	症例検討演	習		千葉馨・山田竜大・佐藤速太・西村大地 1			2	後期	
	授業概要				(課題	や事例について考	えを表出できる。	よう演習を行うの	
到達目標 同職種,他				職種との連携を主体にケース	く課題	や事例について分	↑析・考察し,考	えを表出できる	
		•		授業計	画				
1	オリエ	ンテーショ	ン	他職種連携を主体に考え、台	う理的	かつ実践的なチー	-ム医療について	理解できる	
2	役割分担	旦について	1	OT・PT・STの分業や協業に	こつい	て事例に基づき学	空習し理解できる		
3	役割分担	旦について	2	OT・PT・STの分業や協業,	さらし	に多職種との具体	s的な分業につい ^っ	て理解できる	
4	症例	削検討 ①		脳卒中片麻痺の症例について	てディ	スカッションおよ	び発表できる(症例は若年層)	
5	症例	削検討 ②		脳卒中片麻痺の症例について	てディ	スカッションおよ	こび発表できる(症例は高齢者)	
6	症例	削検討 ③		進行性神経難病の症例についてディスカッションおよび発表できる					
7	症例	削検討 ④		脊髄損傷(頚髄損傷)の症例についてディスカッションおよび発表できる					
8	症例	削検討 ⑤		脊髄損傷(腰髄損傷)の症例	削につ	いてディスカッシ	/ョンおよび発表	できる	
教科書配				1/5以上欠席すると 最修条件 歳できない				ると定期試験を受	
参考書				検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習: 念らないこと					
成	成績評価 提出物、講義態			度を総合評価して判定する					
	備考								

		□選	沢 ☑ 必修		□ 講義	☑ 演習 □	実習			
	科目名	1	教員氏名		単位	配当年次	開講期			
	症例検討演	[習	千葉馨・山田竜大・佐藤	藤速太・西村大地	1	2	後期			
	授業概要		重,他職種との連携を主 そな発言を期待する	職種との連携を主体にケース課題や事例について考えを表出できるよう演習を行うの 言を期待する						
	到達目標	同職和	重,他職種との連携を主	職種との連携を主体にケース課題や事例について分析・考察し,考えを表出できる						
	T			授業計画						
1	オリエ	ンテーショ	・ 他職種連携を主体	本に考え,合理的	りかつ実践的なチ	ーム医療について理	里解できる			
2	症例	検討 ①	整形外科疾患の症		/ スカッションお	よび発表できる				
3	症例	検討 ②	回復期リハビリの	D症例において,	OT · PT · ST Ø	没割をディスカッシ	ノョンできる			
4	症例	検討 ③	回復期リハビリの	D症例について,	OT · PT · ST Ø	役割を発表できる				
5	症例	検討 ④	回復期リハビリの	D症例について,	OT · PT · STの	具体的目的と介入法	生を発表できる			
6	症例	検討 5	認知症の症例につ	認知症の症例についてOT・PT・STの役割をディスカッションできる						
7	症例	検討 ⑥	認知症の症例につ	認知症の症例についてOT・PT・STの具体的な目的と介入法を発表できる						
8	症例	検討 ⑦	精神科領域の症例 きる	精神科領域の症例 (デイケア患者も含む) についてディスカッションおよび発表ができる						
8	症例	検討 ⑧	実習前における症	並例検討について						
	教科書		配布資料にて対応す	R作業を表現して対応する 履修条件 最できない						
:	参考書		検討中	検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと						
月	 找績評価	提出物、講	義態度を総合評価して	 判定する						
	備考									

		□ 選	髮択 ☑	3 必修		☑ 講義	□演習□	実習	
	科目名	1		教員氏名		単位	配当年次	開講期	
IJ,	ヽビリテーシ	ョン概論		佐藤 速太		1	1	前期	
	授業概要			ーションの理念・概要について理解できるよう講義・	•			わる専門職との	
	到達目標			ーションの理念をふまえ,具 などについて理解できる。	体的	な障害例に対する	リハビリテーショ	ンに関わる専門	
				授業計	画				
1	リハビリ	テーション	とは	リハビリテーションの語源・	定義,	. 目的について理	単解する。		
2		福祉に関わ ・チーム医		医療及び保健・社会福祉に関	引わる:	専門職とチーム医	療について調べる	5 .	
3	障	害モデル		障害モデル(ICIDH、ICF)について理解できる。					
4	障	害モデル		障害モデル(ICIDH、ICF)(こつい	て理解できる。			
5	ICFフレ	ノームワー	ク	症例を通してICFフレームワ	ークを	と実践できる。			
6	ノーマラ	イゼーショ	ョン	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて理解できる。					
7	'	テーション 2域貢献	ノと	リハビリテーションについて病院の中以外での活用方法を考える。					
8	総	合演習		これまで学んできたことをも できる。	とに、	、リハビリテーシ	/ョンについて説明	月することが	
;	教科書 必			要に応じて提示する		履修条件	8回の講義なのでると定期試験を多		
:	参考書 必			が要に応じて提示する 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復 念らないこと			せず,予習復習を		
成績評価 ・グループワー				クや課題への取り組み、テス	トを成	績に反映する。			
	備考								

			選択	☑ 必修		☑ 講義	□ 演習 □	実習		
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	リハヒ゛リテーション	医学		石田 裕二		1	1	後期		
	授業概要			テーション医学が対象とする疾 等についてそれらを理解し,リ						
	到達目標			テーション医学が対象とする疾 等についてそれらを理解できる		凶卒中,頭部外傷	5,脊髄損傷,脳性	·麻痺,変性疾		
			l	授業計画	Ēļ .					
1	オリエン	ノテー	-ション	リハピリテーションを学ぶにあたり,	基本的	的な用語やポイン	/トについて理解で	できる		
2	リハビリテ かかわる	解剖	生理学①							
3	リハビリテ かかわる			照らし合わせて理解できる	,_,	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		- V (- V (- V		
4	脳血管	き疾患	1	CI(脳梗塞), CH(脳出血), SA ンに関係する症状について概			ついて学習し、リ	ハビリテーショ		
5	脳血管	含疾患	2	症状と脳の機能局在の関係性 きる	を学習	習し、脳血管疾患	気が引き起こす症状	犬について理解で		
6	脳血管	含疾患	3	脳血管疾患により出現する様々な臨床症状について理解できる						
7	Ē	忍知症	Ē	認知症の分類、症状について	認知症の分類、症状について理解し、患者への介入法の概要を理解できる					
8	脊髄	損傷	1	脊損の病理、高位診断と残存	機能の	の関係について理	単解できる			
9	脊髄	損傷	2	残存機能とADLの関係、OT/	残存機能とADLの関係、OT/PTの介入の方法について理解できる					
10	神経角	伤疾患	1	神経原性の変性疾患を中心に学習し、理解を深める						
11	神経角	伤疾患	2	筋原性の疾患を中心に学習し、理解を深める						
12	内部	障害	1	呼吸器系の疾患について理解を深める						
13	内部	障害	2	循環器(心臓を中心に)の疾	患につ	ついて理解ができ	る			
14	内部	障害	3	膠原病や代謝性疾患(糖尿病	など)	について理解で	ぎきる			
15	整形	外科	疾患	RA, OA, FF(大腿骨々折),	切断・	離断,肩関節障	害などについて理	解できる		
:	教科書			ST・ナースを目指す人のための ・ション総論 要点整理と用語解 改訂第3版		履修条件	15回の講義なのですると定期試験を			
:	参考書			必要に応じて提示する		留意事項等	できるだけ欠席+ 怠らないこと	せず,予習復習を		
月	 え績評価			Dなかで、適宜小テストを実施す 吉果と定期テストの結果を総合し		績に反映させる				
	備考									

		□ 選	択	必修		☑ 講義	□ 演習 □	実習	
	科目名	,		教員氏名		単位	配当年次	開講期	
	社会福祉	学		八重樫 優		1	2	前期	
授業概要社会福祉に				ついての成り立ちや歴史,現	見代の	日本の福祉につい	て理解できるよう	講義を行う	
	到達目標			考え方の変遷,現代の日本の 医療福祉の観点から,道南・				ぎきる	
	T	•	ī	授業計	画				
1	オリエ	ンテーショ	ン	社会福祉とは何か,その本質	質的な:	理念について理解	『ができる		
2		マと日本の 重と福祉の歴	**************************************	世界と日本の社会保障と福祉	上の歴	史について理解で	ぎきる		
3	日本の医療・ 福祉制度の変遷			日本の医療・福祉制度の変遷について理解できる					
4		会保険・ 障制度の概	要	社会保険・社会保障制度の概	既要に	ついて理解ができ	: る		
5	高齢者福	祉と障害者	福祉	高齢者福祉と障害者福祉にて	ついて:	理解できる			
6	児童家庭	福祉と公的	扶助!	児童家庭福祉と公的扶助について理解できる					
7	社会福祉	援助技術の	方法	社会福祉援助技術の方法について理解できる					
8	医療・介	護・福祉の	連携	医療・介護・福祉の連携にて	ついて:	理解できる			
:	教科書 ・新 社会福祉と			は何か		履修条件	8回の講義なので, と定期試験を受験		
	参考書					留意事項等	できるだけ欠席せ らないこと	ず,予習復習を怠	
Б	成績評価			なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる					
	備考								

		□選	択 ☑ 必修		☑ 講義	□ 演習 □	実習			
	科目名		教員氏:	名	単位	配当年次	開講期			
地垣	或包括ケアシ.	ステム論	工藤 道	達也	1	2	後期			
	授業概要		・福祉, 地域リハビリラ 多職種連携による包括的				うな授業を展開			
	到達目標	地域包	2括ケアシステムにおり	ける医療の役割や	医療福祉連携にて	ついて理解できる				
		l .		授業計画						
1	地域包括ケ	⁻ アシステ』	地域包括ケアシス ついて理解できる		行景, 現代における	る地域包括ケアシス	テムの重要性に			
2	地域包括ケ	⁻ アシステ』	ムⅡ 地域包括支援セン	ンターの役割や地	2域包括ケア会議の	の概要を理解できる				
3	ニーズの)把握と理解	対象者(生活者)の	ロニーズの捉え方	やアプローチ方法	を理解できる				
4	地域包括ケ おけるセラ		地域包括における	る理学療法士,作	業療法士の役割を	を理解できる				
5		種連携・ アプローチ	多職種連携・チ-	ームアプローチの)理念と意義につい	いて理解できる				
6	地域包括ケアシステムに おける社会福祉士の役割 地域包括ケアシステムにおける社会福祉士の役割について理解できる									
7	地域包括ク おける看	・アシステ <i>』</i> :護師の役割	地域包括ケアシ	: 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について理解できる						
8	地域包括がおけるケアマ	ーアシステ <i>ム</i> マネジャーの		ステムにおけるケ	アマネジャーの行	 と割について理解で	きる			
9	多職種	連携演習丨								
10	多職種	連携演習								
11	多職種	連携演習Ⅲ	多職種連携演習(多職種連携演習(グループワーク)を通じて、多職種連携の重要性や各職種の役割を 理解できる						
12	多職種	連携演習IV	理解できる							
13	多職種	連携演習V								
14	多職種	連携演習VI								
15	ŧ	とめ	多職種連携においてきる	ける各職種の役割	および包括的な均	也域医療福祉活動の	必要性を理解			
i	教科書		検討中		履修条件	15回の講義なので、 ると定期試験を受験				
:	参考書		包括ケアにおけるPT・ 域ケア会議・介護予防		留意事項等	できるだけ欠席せ 怠らないこと	ず,予習復習を			
成	戈績評価 í	15回の講義のなかで,適宜課題を実施し,課題提出や内容を総合して成績に反映させる								
	備考	グループワ	ークも適宜行う							

		選択 🗹 🖟	%修	☑ 講劇	遠 □ 演習	□ 実習		
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期		
	作業療法概論		西村 大地	2	1	前期		
	授業概要	作業療法の成 行う	り立ちや歴史について、また	社会における役	割について理解	gできるよう講義を はできるよう講義を		
	到達目標	作業療法の成	り立ちや歴史について、また	社会における役	割について理解	罪できる		
			授業計画					
1	オリエンテーション		作業療法概論で学習する内容	や基礎科目との)関連性を理解す	する		
2	リハビリテーション	とは	リハビリテーションとは何か	について理解す	- 3			
3	作業療法とは		作業療法とは何かについて理	解する				
4	作業療法の領域と対	象	作業療法の領域と対象・プロ	セスについて理	1解する			
5	人の生活を構成する	作業活動	生活を構成する作業活動につ	いて理解する				
6	作業療法の枠組み		作業療法の枠組みについて理解する					
7	世界の作業療法の歴	史	日本と世界の作業療法の歴史について理解する					
8	日本の作業療法の歴	史						
9	ICIDHとICF①		 - CIDHとICFについて理解する					
10	ICIDHとICF②							
11	作業療法実践(身体	障害)①	作業療法の介入の具体例を知り、身体障害領域において中枢神経障害の作業療法と					
12	作業療法実践(身体	障害)②	はどのようなことを行うのか	、その概要を理	解する			
13	作業療法実践(身体	障害) ③	作業療法の介入の具体例を知	り、身体障害領	[域において運動	助器障害、内部障害の作		
14	作業療法実践(身体	障害) ④	業療法とはどのようなことを	行うのか、その)概要を理解する	5		
15	作業療法実践(発達	障害)①	作業療法の介入の具体例を知	り、発達障害領	頁域の作業療法と	とはどのようなことを行		
16	作業療法実践(発達	障害)②	うのか、その概要を理解する					
17	作業療法実践(精神	障害)①	作業療法の介入の具体例を知	り、精神障害領	頁域の作業療法と	とはどのようなことを行		
18	作業療法実践(精神	障害)②	うのか、その概要を理解する					
19	作業療法実践(地域		作業療法の介入の具体例を知	り、地域作業療	<u></u> 寝法とはどのよう	 うなことを行うのか、そ		
20	作業療法実践(地域	2) 2	の概要を理解する					
21	我が国の医療福祉制	度①	医療保険と介護保険、診療報	酬と介護報酬、	個人情報保護法			

22	我が国の医療福祉制度②		医療保険と介護保険、診療報	医療保険と介護保険、診療報酬と介護報酬、個人情報保護法等の概要を理解する				
23	言語聴覚士に	ついて①	言語聴覚士とはどのような職種か理解する					
24	言語聴覚士に	ついて②	言語物見士とはとのような城性が理解する					
25	計画立案							
26	グループワー	Ź	作来療法士や作素療法につい 	作業療法士や作業療法についてグループワークを通して具体的な内容を理解する				
27	グループワー	ク	作業療法士や作業療法についてグループワークを通して具体的な内容を理解する					
28	グループワー	ク	作業療法士や作業療法についてのプレゼンテーションを通して具体的な内容を理解 し、各グループの考えを共有する また質疑応答を通して本講義を振り返る					
29	作業療法発表	会						
30	作業療法発表	会						
	教科書	適宜資	資料を配布する	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席する と定期試験を受験できない			
	参考書		第4版(医学書院) 概論(中山書店)	留意事項等	できるだけ欠席せず, 予習復習を怠ら ないこと			
	成績評価 発表内容・グルーフ 定期試験:60%		ワーク:40%					
	備考							

□ 選択 ☑ 必修 □ 講義 ☑ 演習 □									
	科目名		教員氏名	·	単位	配当年次	開講期		
	基礎作業療法学		山田 竜大		2	1	後期		
	授業概要	作業行	う為を実際に行い,作業分 が	析・動作分析の	視点を養うよう	講義演習を行う			
	到達目標	各種 <i>の</i> になる	の作業行為を実際に行い,	作業分析・動作	分析の結果から	作業療法の効果を	注推定できるよう		
				授業計画					
1	オリエンテー	-ション	本授業の概要,学習 基礎作業療法学とい				- ,		
2	集団療	法	集団療法の技法や効 心理的側面,身体的	果について理解	し、実際に実施	計画書を作成する	ることにより精神		
3	籐細工(1)							
4	籐細工	2	籐細工の作成計画,	材料・道具の選	定, 制作過程を	通じて,精神心理	里的側面および身		
5	籐細工	3	体的側面に対する治	療的効果を考え	ることができる				
6	籐細工(4)							
7	レクリエーション①								
8	レクリエーション②			レクリエーション(軽スポーツや各種行事なども含む)を治療的意味を考慮しながら 立案・計画し,実際に演習することにより精神心理的側面,身体的側面に対する治療					
9	レクリエーシ	/ョン③	効果を考えることが	効果を考えることができる					
10	レクリエーシ	/ョン④							
11	木工①								
12	木工②		木工の作成計画,材料				単的側面お		
13	木工③		よび身体的側面に対	する治療的効果	を考えることが	できる			
14	木工④)							
15	ネット手	芸①							
16	ネット手	芸②	ニーネット手芸の作成計			理的側面および身	身体的側面に		
17	7 ネット手芸③		対する治療的効果を	考えることがで	きる				
18	18 ネット手芸④								
19	レザークラ	_ _ フト①							
20	レザークラ	フト②	レザークラフトの作	成計画,材料・	道具の選定,制	作過程を通じて,	精神心理的側面		

21	レザー	-クラフト③	および身体的側面に対する治療的	効果を考えること	だができる		
22	レザー	-クラフト④					
23	A/n	F業分析	作業分析の各項目の内容や留意点を理解し,還元的要素にとらわれず全体の相互性に				
24	11	F****	も注意を向けながら作業分析を行うことができる				
25	織物①						
26	į	織物②					
27	織物③		織物の作成計画、材料・道具の選定、織る過程を通じて、精神心理的側面および身体 的側面に対する治療的効果を考えることができる				
28	織物④						
29	<i>‡</i>	織物⑤					
30	<i>‡</i>	織物⑥					
ą	教科書		資料を配布する	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない		
á	参考書		検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず, 予習復習を怠 らないこと		
成	成績評価		なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成	績に反映させる			
	備考						

] 選	択 🗷	② 必修		□ 講義	☑ 演習 □	実習		
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	基礎作業療法学			山田 竜大		2	2	前期		
	授業概要	作業征	テ為を	上実際に行い,作業分析・動作分析の視点を養うよう講義演習を行う						
	到達目標	各種の		行為を実際に行い,作業分析		₹分析の結果から	作業療法の効果を	を推定できるよう		
	,			· 授業計画	<u> </u>					
1	1 総論①			作業療法にはなぜ理論が必要かを理解することができる						
2	総論②									
3	作業療法における	る理論	1)	┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃	理解す	トることができる				
4	4 作業療法における理論②									
5	5 人間作業モデル①			┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃ ┃	て理能	g マオスァとができ	ろ			
6	6 人間作業モデル②									
7	' カナダモデル①			カナダモデルの概要について	理解す	「ることができる				
8	カナダモデル②									
9	その他理論①			各種作業療法理論についての理論的背景と具体的な評価方法,判定と						
10	その他理論②			治療への応用について理解できる						
11	作業分析①			作業分析とはなにかを理解し,指定された課題に対して実際に分析を行う						
12	作業分析②			ことができる						
13	七宝焼き①									
14	七宝焼き②			七宝焼きの作成計画,材料・	道具の)選定を通じて,	精神心理的側面は	および身体的側面		
15	七宝焼き③			に対する治療的効果を考える	ことか	べできる				
16	七宝焼き④									
17	木工①									
18	18 木工②			木丁の作成計画 材料・道目	の選点	□ 織ス禍稈を谣	1ごて 精油心理的	勺側面お上び身体		
19	木工③			木工の作成計画、材料・道具の選定、織る過程を通じて、精神心理的側面および身份的側面に対する治療的効果を考えることができる						
20	木工④									

21	陶芸①		陶芸作品の作成計画,材料・道具の	選定,練りや成形	課程通じて精神心理的側面		
22	陶芸②		および身体的側面に対する治療的	効果を得ることか	べできる		
23	陶芸③						
24	陶芸④		様々な成型技術を学び,素焼き,釉薬塗り,本焼きを経験して,本アクティビティの				
25	陶芸⑤		治療的意義を考えることができる				
26	陶芸⑥						
27	タイルモザ	イク①					
28	タイルモザ	イク②	タイルモザイクの作成計画,材料・道具の選定を通じて,精神心理的側面および身体 的側面に対する治療的効果を考えることができる				
29	タイルモザ	(イク③					
30	タイルモザ	イク④					
	教科書		資料を配布する	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない		
	参考書		検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと		
J5,	成績評価		なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる				
	備考						

	□選	択 ☑] 必修		構義	☑ 演習 □	実習
	科目名		教員氏名	単位	-	配当年次	開講期
作	業療法評価学演習丨		西村大地・佐藤速太	2		1	後期
	授業概要の意義	や目的	的な作業療法を実施するうえできわ ,その一連の進め方について学習す 域測定法,筋力測定法について講義	る また,作業療法	まにおける	る基本的検査・測定技	
	到達日標 ▮		における各種検査・測定手技(形態計測,関節可動域測定,筋力測定法)を学び,その基本的手技を実 になる				
			授業計画	<u> </u>			
1	オリエンテーションお 評価学概論	よび	本授業の概要,学習目標・内 解できる	· 		· 	
2	一般的評価事項		問診・観察・面接(すべての 要か理解できる	始まり)を通し ⁻	て,「身	見立て」にはどの	ような情報が必
3	形態計測(1)		身長,体重,体格指数,四肢	長,周径の計測	を演習し	し,その正確な手	法を習得し,測
4	形態計測 ②		定値の臨床的意味について理	解できる			
5 関節可動域測定概論			関節可動域測定の概要について学び,方法と目的を理解できる				
6	関節可動域総合演習	1	肩甲帯・肩関節のROM測定を	注演習し,手技を	習得で	きる	
7	関節可動域総合演習	2	前腕・手関節のROM測定を濱	『習し,手技を習	得でき	る	
8	関節可動域総合演習	3	股・膝関節のROM測定を演習	習し,手技を習得	できる		
9	関節可動域総合演習	4	足関節のROM測定を演習し,手技を習得できる				
10	関節可動域総合演習	(5)	頸部のROM測定を演習し,手技を習得できる				
11	関節可動域総合演習	6	胸腰部のROM測定を演習し,手技を習得できる				
12	関節可動域総合演習	7	手指のROM測定を演習し,手	€技を習得できる			
13	関節可動域総合演習	8	これまでのROM測定を復習し	他老に宝践で	きる		
14	関節可動域総合演習	9	Cara Contompt E 及日C		C 3		
15	関節可動域測定実技討	験①	実技として十分な手技を習得	上でいるか 宝装	技試驗物	を涌して判定する	
16 関節可動域測定実技試験②			V.V.C O C I N.G.I IX E H H		J A F*V则太(TIME # S	
17 徒手筋力検査概論			徒手筋力検査の概要について学び,方法と目的を理解できる				
18	徒手筋力検査総合演習	1	体幹・肩甲帯のMMT測定を演習し,手技を習得できる				
19	徒手筋力検査総合演習	2	肩関節のMMT測定を演習し,	手技を習得でき	る		

20	徒手筋力検	食査総合演習	を総合演習 ③ 肩関節のMMT測定を演習し,手技を習得できる					
21	徒手筋力検	- 筋力検査総合演習 ④ 肘関節,前腕のMMT測定を演習し,手技を習得できる						
22	徒手筋力検	全総合演習	(5)	手関節,手指のMMT測定を演習し	,手技を習得でき	きる		
23	徒手筋力検	力検査総合演習 ⑥ 股関節のMMT測定を演習し,手技を習得できる						
24	徒手筋力検	手筋力検査総合演習 ⑦ 股・膝関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる						
25	徒手筋力検	食査総合演習	8	足関節のMMT測定を演習し,手技	を習得できる			
26	徒手筋力検査総合演習 ⑨ これまでの徒手筋力検査を復習し,他者に実践できる					: 3		
27	徒手徒手筋	5力検査実技記 ①	式験	nH11-104-7H4-77/81-1-1	7 / chil+=1F/			
28	徒手徒手筋	5力検査実技記 ②	式験	実技として十分な手技を習得してい	ハるか, 美抆試験	やを通して判定する		
29	1	触診①		筋・神経の走行から正しく触診を行うことができる				
30	1	触診②		筋・神経の走行から正しく触診を行うことができる				
	教科書	・運動療法のた	めの	(第10版) 解剖学的触診技術上肢 解剖学的触診技術体幹下肢 標準作業療法学 専門分野)	履修条件	30回の講義なので,7回以上欠席すると定期試験を受験できない		
:	参考書			検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと		
月	成績評価			なかで、適宜小テストを実施する 支試験,期末テストの結果と出席率を総合して成績に反映させる				
	備考							

		〕 選択 🛭	☑ 必修	□ 講義	☑ 演習 □	実習		
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期		
作	業療法評価学演習]	西村 大地 佐藤 速太	2	2	前期		
	授業概要		や目的、その一連の進め方につい ^っ および演習を通して習得する。	て学習する。また、作業	療法における基本的	検査・測定技術に		
	到達目標	作業療法評	画を実施するために、各種検査法 る	を理解し、実施すること	ができる。			
			授業計画	Ī				
1	オリエンテー	-ション	本講義の概要と、学習方法に	ついて理解する				
2	バイタルサ	ーイン	バイタルサインの目的を説明	し、測定を実施する				
3	反射検:	本	表在反射、深部反射、病的反射	針の日的を説明し、甘	木の手持を実施す	Z		
4	(文列代)	⊟.			(平1)子1又で 天肥 9	િ		
5	成份4个本	=(1)	感覚検査の目的を説明し、基	-				
6	感覚検査		窓見快重の日的を説明し、基本	平的子权を 夫施 タ る				
7	10000000000000000000000000000000000000	-0	武尚检查《日初·七·3·四·1 甘·	+ 				
8	感覚検査	(<u>(</u>	感覚検査の目的を説明し、基準	平的子权を 夫施 タ る				
9	↓⊅ =⊞ ↓↓↓	\ *	失調や協調性障害の症状、目的を説明し、基本的手技を実施する					
10	協調性検	(主)	大調や励調性障害の症仏、日間	切を就明し、奉本的士	仅を美施りる			
11	~~ EV JE 14	\ *	₩ 50 7F 4Δ ★ 0, 12 44 £ 110 477 -	せ <i></i> 				
12	筋緊張核	正	筋緊張検査の目的を理解し、	 本平り士扠を				
13	□₩ţ₩¢▽エ∧⋅	*1)	取り抽収を未 ホロ めょ = ユロコ	# + 60 44 + 65 45 4 7				
14	脳神経検:	宜(J)	脳神経検査の目的を説明し、	垦 本的于坟を実施する				
15	脳神経検:	查②	脳神経検査の目的を説明し、基本的手技を実施する					
16	疼痛検:	查	疼痛検査の目的を説明し、基本的手技を実施する					
17	プレOSC	E①	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う					
18	プレOSC	E②	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う					

19	プリ	✓OSCE③	各検査を他者に説明し、同意を得れ	たうえで実施し解	釈するための演習を行う		
20	プし	OSCE4	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う				
21	中	間OSCE	これまで学習した各検査のOSCEを	き実施する			
22	中	間OSCE	これまで学習した各検査のOSCEを	ミ実施する			
23	運動	麻痺検査①	運動麻痺検査の目的を説明し、基準	本的手技を実施す	3		
24	運動	麻痺検査②	運動麻痺検査の目的を説明し、基準	本的手技を実施す	3		
25	運動	麻痺検査③	運動麻痺検査の目的を説明し、基準	本的手技を実施す	3		
26	運動麻痺検査④		運動麻痺検査の目的を説明し、基本的手技を実施する				
27	プリ	∕OSCE⑤	各検査を他者に説明し、同意を得た。	たうえで実施し解	釈するための演習を行う		
28	プリ	∕OSCE®	各検査を他者に説明し、同意を得た。	たうえで実施し解	釈するための演習を行う		
29	期	末OSCE	これまで学習した各検査のOSCEを実施する				
30	期	末OSCE	これまで学習した各検査のOSCEを実施する				
	教科書 作業療法評価学		第4版(医学書院)	履修条件	30回講義のため、7回以上欠席すると定期試験を受験できない		
:	参考書 神経診察クロー 第3版(メジカノ		ズアップ:正しい病巣診断のコツ ロビュー社) 留意事項等				
月	戈績評 価	OSCE(60%) 期末試験(40%)					
	備考		実技を行うことが多いため、各自動きやすい服装で参加すること。				

		」 選択 ☑	3 必修	□講義	☑ 演習 □	実習			
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期			
作	業療法評価学演習	3	西村大地・佐藤速太	2	2	後期			
	授業概要		程度を精査し具体的な問題点の抽出 上および患者とのコミュニケーショ		・ 、 また, これまで修作	- 导した知識を整理			
	到達目標	これまで学内	で修得してきた知識ならびに技術の	総まとめを行い,臨地実習	を円滑に実施できる。	ようになる			
			授業計画 	1					
1	オリエンテー	-ション	作業療法における評価につい	てその立ち位置と目的]を再確認する				
2	オリエンテー	-ション	作業療法における評価につい	てその立ち位置と目的]を再確認する				
3	СОРМ • С	CAOD	作業に焦点を当てた介入を可	視化するCOPM・CAC)Dの概要を学び実	践できる			
4	MAL · JAS	SMID	上肢機能の質を評価するMAL	・JASMIDの概要を学	び他者に実践でき	る			
5	HDS-R·TMT	-J·S-PA	高次脳機能障害の検査であるHDS-R・TMT-J・S-PAの概要を学び他者に実践できる						
6	レーブン色彩マ 検査	トリックス	高次脳機能障害の検査である できる	レーブン色彩マトリッ	クス検査の概要を	学び他者に実践			
7	BIT · FA	AB	高次脳機能障害の検査である	BIT・FABの概要を学	び他者に実践でき	3			
8	BIT · F/	AB	高次脳機能障害の検査である	BIT・FABの概要を学び	び他者に実践でき	3			
9	Kohs立方体組み ト・ベン		高次脳機能障害の検査であるKohs立方体組み合わせテスト・ベントン視覚記銘検査の 概要を学び他者に実践できる						
10	Kohs立方体組み ト・ベン		高次脳機能障害の検査であるKohs立方体組み合わせテスト・ベントン視覚記銘検査の 概要を学び他者に実践できる						
11	WMS-R·W	/AIS-IV	高次脳機能障害の検査であるWMS-R・WAIS-IVの概要を学び他者に実践できる						
12	WMS-R·W	/AIS-IV	高次脳機能障害の検査である	WMS-R・WAIS-IVのホ	既要を学び他者に	実践できる			
13	WMS-R·W	/AIS-IV	高次脳機能障害の検査である	WMS-R・WAIS-IVのヤ	既要を学び他者に	実践できる			
14	WMS-R·W	/AIS-IV	高次脳機能障害の検査である	WMS-R・WAIS-IVのホ	既要を学び他者に	実践できる			
15	まとめ(1	ポートフォリオ作成,口頭試問						
16	まとめの	2	ポートフォリオ作成,口頭試問						
17	総合演習丨	-1	模擬症例と作業療法士を学生が演じ、疾患の理解と評価項目の立案を行うことができる(脳血管系疾患症例)						
18	総合演習丨	-2	模擬症例と作業療法士を学生 る(脳血管系疾患症例)	が演じ,疾患の理解と	評価項目の立案を	行うことができ			

19	総合法	演習 一③	模擬症例と作業療法士を学生が演 例)	じ,評価を実践す	-ることができる(脳血管系疾患症
20	総合治	寅習 一④	模擬症例と作業療法士を学生が演 例)	じ,評価を実践す	ることができる(脳血管系疾患症
21	総合治	寅習 一⑤	模擬症例と作業療法士を学生が演 例)	じ,評価を実践す	ることができる(脳血管系疾患症
22	総合治	寅習 一⑥	模擬症例と作業療法士を学生が演 例)	じ,評価を実践す	ることができる(脳血管系疾患症
23	総合治	寅習 一⑦	模擬症例と作業療法士を学生が演 例)	じ,評価を実践す	ることができる(脳血管系疾患症
24	総合治	寅習 一①	模擬症例と作業療法士を学生が演 る(整形疾患症例)	じ,疾患の理解と	評価項目の立案を行うことができ
25	総合治	寅習 一②	模擬症例と作業療法士を学生が演 る(整形疾患症例)	じ,疾患の理解と	評価項目の立案を行うことができ
26	総合注	寅習 一③	模擬症例と作業療法士を学生が演	じ,評価を実践す	- ることができる(整形疾患症例)
27	総合注	寅習 一④	模擬症例と作業療法士を学生が演	じ,評価を実践す	- ることができる(整形疾患症例)
28	総合治	演習Ⅱ一⑤	模擬症例と作業療法士を学生が演	じ,評価を実践す	ることができる(整形疾患症例)
29	総合	寅習Ⅱ-⑥	模擬症例と作業療法士を学生が演	じ,評価を実践す	ることができる(整形疾患症例)
30	総合	寅習 一⑦	模擬症例と作業療法士を学生が演	じ,評価を実践す	ることができる(整形疾患症例)
į	教科書	・作業療法評価	学(標準作業療法学 専門分野)	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない
ž	参考書		未定	留意事項等	実技練習は適宜行うこと
成	え続評価	・ポートフォリ	オ,口頭試問,演習課題並びに取り	組み状況,出席を	を総合的に判断し成績に反映する.
	備考				_

			選択] 必修		□ 講義	☑ 演習 □	実習		
	科目名	,		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
	作業療法研	开究法		千葉 馨・古館 裕大		1	2	後期		
	授業概要	作	業療法に	こおける研究方法について意義を知り,その方法を理解できるよう講義演習を行う						
	到達目標	作	業療法に	こおける研究方法について意義を知り,その方法を理解できる						
		'		授業計画						
1	EBN	M, EBP	Т	Evidence Based Medicine(Physical Therapy)の概要を理解できる。(千葉)						
2	文	【献検索		研究の実践・EBMの実践に必	必要な忖	青報の種類と,	その収集方法を理解	解できる. (千葉)		
3	医療	統計学復	習	統計的仮説検定と多変量解析	↑を復習	習し、理解するこ	ことができる. (古	館)		
4										
5	+== 0			第4回…横断研究のデザイン: 第5回…ケースコントロール科				できる.		
6	演習(1)一観察研	州 究	第6回…前向きコホート研究の 第7回…後ろ向きコホート研究の						
7							,			
8	+ == 0			第8回…ランダム化比較試験(のデザ	インを理解でき	,論文を解釈でき	る.		
9	演習②一介入研究 9			第9回…非ランダム化比較試験	験のデ	ザインを理解で	き,論文を解釈で	きる. (古館)		
10										
11	 演習③一研	「空の批判	机的心吐	研究論文から得られる情報の是非を吟味することができ、論文の臨床応用について考えることができる. (千葉)						
12	演百〇 ^一 切	ιૠળૠ+	F!][]]"] "Y							
13										
14	Z.Π.τ	究の実際		研究の一連の流れや、医学研究で必要な倫理について理解できる。(千葉)						
15	11/Т :	元い夫院 <u></u>		実際の研究の概要(目的・方法	 法等)に	ついて理解でき	る. (古館, 千葉)			
;	教科書			資料を配布する		履修条件	全 1 5 回のうち 1/ 末試験を受けるこ			
参考書				留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと						
瓦	対績評価			課題,中間試験,期末試験により総合的に評価する						
	備考		医療	統計学とリンクする講義であ	る為、	医療統計の理解	にも力を入れるこ	. ۷.		

		□ 選	択 ☑ 必修	☑ 講義	□演習□	実習				
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期				
運動	器障害作業療	療法治療学	野田 正貴	1	2	後期				
	授業概要		こ影響する運動器障害, その背景に 勺なリハビリテーションの技術につ		いて医学的な視点で	で理解を深め,				
	到達目標	運動器	器障害に対する作業療法の目的や手	らいまでは、 に対する作業療法の目的や手法を理解する						
		•	授業計画	授業計画						
1	オリエン	ンテーション	運動器障害の概要と作業療法	との関わりを理解す	3					
2		RA	RAの病態を理解し,介入のE	目的と方法を理解する						
3	骨折・	変性疾患①	上肢の骨折や変形疾患の病態	《を理解し,介入の目	的と方法を理解する	3				
4	骨折・	変性疾患②	下肢の骨折や変形疾患の病態	《を理解し,介入の目	的と方法を理解する	3				
5		脱臼	脱臼の病態と代表疾患を理解	『し,介入の目的と方	法を理解する					
6	末梢ネ	申経損傷①	末梢神経損傷の分類・病態・	末梢神経損傷の分類・病態・症状・検査について理解する						
7	末梢ネ	申経損傷②	各末梢神経損傷の病態と症状	、介入について理解	する					
8	A	建損傷	手指の腱損傷において病態と	介入を理解する						
9		肩①	肩関節周囲組織損傷の概要と	肩関節運動について	理解する					
10		肩②	人口肩関節置換術・腱板損傷	人口肩関節置換術・腱板損傷の病態と介入を理解する						
11	CRPS·⊐	ンパートメ 註候群	ント CRPS・コンパートメント症	CRPS・コンパートメント症候群の病態と介入を理解する						
12	脊林	作疾患①	OPLL・LCSの病態と介入を現	OPLL・LCSの病態と介入を理解する						
13	脊村	作疾患②	椎間板ヘルニア・すべり症・	側弯症についての病	態と介入を理解する	3				
14	症例	列検討①	模擬症例に対して評価項目と	模擬症例に対して評価項目と問題点の抽出を行うことができる						
15	症例	列検討②	模擬症例に対して評価項目と	問題点の抽出を行う	ことができる					
TI,	・15レクチャーシ 薬動療法学 中		ァーシリーズ 理学療法学テキスト ロール書店	履修条件	15回の講義なので, と定期試験を受験					
参考書 メディックメデ		メディック	える vol.11 運動器・整形外科 7メディア クニック ハンドセラピィ	留意事項等	できるだけ欠席せ ⁻ らないこと	ず,予習復習を怠				
成	說績評価		義のなかで、適宜小テストを実施で , 課題, 定期テストの結果と出席図	なかで、適宜小テストを実施する 題,定期テストの結果と出席率を総合して成績に反映させる						
	備考									

		□ 選扎	尺 ☑ 必修	□ 講義 ☑ 演習 □ 実習						
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期				
運動器		治療学演習	大井 雅人	1	2	後期				
	授業概要		響する運動器障害,その背景にあ :通じて具体的な作業療法の技術に		て医学的な視点で現	里解を深め,				
	到達目標	運動器	R障害に対する具体的な作業療法を	に対する具体的な作業療法を理解し技術を習得する						
		L	授業計画	授業計画						
1	骨・筋の	の障害 ①	関節可動域(ROM)に影響で	する各種疾患,障害に	ついて理解する					
2	骨・筋の	の障害 ②	運動学的視点から関節運動を	:把握しアセスメント	の方法を理解する					
3	骨・筋の	の障害 ③	具体的な上肢関節のROMの流	台療について演習しそ	の技術を習得する					
4	骨・筋の	の障害 ④	具体的な体幹・下肢のROMの	の治療について演習し	その技術を習得す	3				
5	骨・筋の	の障害 ⑤	手の外科の後療法(ハンドセ	zラピー)について演 [?]	習をもとに理解で	きる				
6	変形を	伴う疾患	骨折,捻挫,脱臼などへの具	骨折、捻挫、脱臼などへの具体的な治療について演習しその技術を習得する						
7	治療	去 ①	末梢神経障害の原因,症状・	障害の分類について	理解する					
8	脊髄	損傷 ①	筋力低下,筋委縮のの原因と	なる疾患について理論	解する					
9	脊髄	員傷 ②	徒手的治療法について学び、	,機能的作業療法の	技術を習得する					
10	脊髄	損傷 ③	高位診断,フィジカルアセス	高位診断,フィジカルアセスメントの具体的な手法を理解する						
11	脊髄	損傷 ④	運動機能障害に対する徒手的	運動機能障害に対する徒手的な治療について学びその手法を理解する						
12	治療	法 ②	残存機能とADL機能の関係性	残存機能とADL機能の関係性を評価できるようになる						
13	病態	学 ①	具体的なADL訓練を学び、症	E状に応じた対応がで	きるようになる					
14	病態	学 ②	ロコモーティブシンドローム	ふの概念を理解できる						
15 病態学 ③			整形外科領域の仮想症例の情	情報を整理し治療計画	を立案できるよう	になる				
教科書			検討中	履修条件	15回の講義なのでと定期試験を受験	, 4回以上欠席する できない				
参考書			検討中	検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと						
成	泛着:半価			なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる						
	備考									

		□選	択	必修		☑ 講義	□演習□	実習		
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期		
神紹	^怪 障害作業療	法治療学		西村 大地 1 2				後期		
	授業概要			ーションの中核的対象となる よう実践的な内容を学ぶ	神経	障害について深っ	- く学び,治療技術	を臨床に		
	到達目標	様々	な神経	発症候を医学的に解釈・統合し具体的な治療に反映できるようになる						
		•		授業計画						
1	脳血管障害	書の作業療:	法①	脳卒中における作業療法治療	・介.	入方法の概要を!	学ぶ			
2	脳血管障害	害の作業療法	法②	急性期における作業療法の治療法、リスク管理を学ぶ						
3	脳血管障害	害の作業療:	法③	回復期における作業療法を覚	学ぶ					
4	脳血管障害	書の作業療:	法④	生活期における作業療法を覚	学ぶ					
5	脳血管障害	書の作業療法	法⑤	脳卒中における評価、治療の	り推奨	や予後予測を学、	<u>.</u> \$.			
6	脳血管障害	書の作業療?	法⑥	FMAについて学ぶ						
7	=======================================	忍知症		認知症の分類、認知症を呈す	よる疾.	患について基本に	的な理解を深める			
8	神糸	圣筋疾患		ギランバレー、多発性硬化症	E、重	症筋無力症の作	業療法を学ぶ			
9	神経薬	変性疾患①		パーキンソン病の作業療法を	を学ぶ					
10	神経薬	変性疾患②		脊髄小脳変性症、筋委縮側索硬化症の作業療法を学ぶ						
11	頭	部外傷		頭部外傷の作業療法の治療を学ぶ						
12	神経学的	アセスメン ①	\ \	神経障害を的確にアセスメントしADLとの関連性を考察できるようになる						
13	神経学的	アセスメン	/	問題点を論理的に抽出し,治	台療計	画が立案できる。	ようになる			
14	神経学的	アセスメン	/	画像診断学的視点で医学的情	青報か	ら障害像を推測	できるようになる			
15	臨原	末神経学		神経障害で発生する症状・徴	数候に	ついて包括的に負	解釈できるように	なる		
10.0	教科書 身体機能作			美療法学 第4版(医学書院)		履修条件	15回の講義なのでと定期試験を受験	で,3回以上欠席する 食できない		
17.	参考書			哉から最新リハビリテーション & 医歯薬出版株式会社)	まで	留意事項等	できるだけ欠席せ らないこと	-ず,予習復習を怠		
成	注 績評価	期末試験10	00%							
	備考									

		☐ į	選択 ☑	1 必修		□講義	☑ 演習 □	実習		
	科目名	l		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
神経	障害作業療法	治療学演習	1	佐藤 速太		1	2	後期		
	授業概要			業療法治療学で学習する知識 価,治療の技能を身に着ける				ノについて論じ,		
	到達目標		な神経		障害患者への機能的作業療法や生活リハビリテーションを計画,実施することができる					
				授業計画						
1	姿	勢反射		姿勢反射や原始反射の基本動	動作への	影響について	考察できる			
2	基本動作 ①			基本動作の障害を神経学的,	発達学	的,障害学的に	こ分析できる			
3	基本動作(②			正常な基本動作パターンを演	寅習の中	で理解できる				
4	基本	動作 ③		基本動作の障害に対応して週	軍動療法	的な介入ができ	きるようになる			
5	步	行 ①		正常歩行と異常歩行の相違点	点を分析	・解釈できる				
6	歩行 ②			異常歩行に対するアプローチを立案・実施できるようになる						
7	機能的個	作業療法	1	中枢神経性麻痺に対するアフ	プローチ	·(随意収縮,分	分離促通)ができる	るようになる		
8	機能的個	作業療法	2	末梢神経性麻痺に対するアフ	プローチ	ができるように	こなる			
9	機能的個	作業療法	3	錐体外路障害や小脳症状に対	対するア	゚゚プローチができ	きるようになる			
10	非運	動性障害		感覚障害,覚醒レベルの低下などに対するアプローチができるようになる						
11	高次原	凶機能障害	<u> </u>	失認,失行,失語のアセスメントや治療的介入ができるようになる						
12	脊髄	損傷 ①		機能維持・向上を目的としたアプローチを理解できる						
13	脊髄	損傷 ②		ADLを見据えた在宅でのアプローチの立案ができるようになる						
14	フィジカル	レアセスメ ①	ント	リスク管理、全身的な生体機能の管理ができるようになる						
15	フィジカル	レアセスメ ②	ント	神経障害(進行性疾患も含む	ご) の患	者に対するアー	セスメントができる	るようになる		
教科書			検討中		履修条件	15回の講義なので	, 3回以上欠席する できない			
参考書		検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠らないこと								
成	えりまた (なかで、適宜小テストを実施 果と定期テストの結果を総合		責に反映させる				
	備考									

		☐ ž	選択 ☑	1 必修		☑ 講義	□演習□	実習		
	科目名	1		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
内部	^{羽障害作業療}	法治療学		石田 裕二 1 2				後期		
	授業概要			宅のクライエントによくみられる内部障害について深く学び,治療技術を臨床にように実践的かつ臨床的な内容を学ぶ						
	到達目標	様々	な内科	的問題を医学的に解釈・統合し具体的な治療に反映できるようになる						
				授業計画	画					
1	オリエ	ンテーショ	ン	作業療法士が深くかかわる内部障害(内科系疾患)と、リハビリテーションの目的に ついて理解できる						
2	バイタルサ	インと内	部障害	バイタルサインについて、呼吸・脈拍・血圧・聴診法の意義と方法を理解できる						
3	喀	痰と吸引		喀痰と吸引の臨床的意義と方	が法を理解	『できる				
4	褥瘡	と体位変換	型	褥瘡の処置と関わりについて						
5	経管栄養	及び感染	対策	点滴、胃ろう、経鼻栄養、清 て理解できる	情潔区域 ((滅菌消毒ガウ	<i>"ン</i> テクニック)、	感染予防につい		
6	糖儿	尿病 ①		糖尿病(高血糖症)の病理や内科的治療について理解できる						
7	糖儿	尿病 ②		糖尿病に対する運動指導,生	活指導に	ついて理解で	できる			
8	E	腎疾患		慢性腎不全の病態,透析患者	旨へのアフ	プローチについ	、て理解できる			
9	7	がん		緩和ケアを含めたがんへの対	d応,QOI	Lをふまえた介	r入法について理解	解できる		
10	呼吸	器疾患 ①)	呼吸不全の循環器への影響、酸塩基平衡への影響について説明できる						
12	呼吸	器疾患 ②		慢性呼吸器疾患に対するリハビリテーションについて説明できる						
13	循環	器疾患 ①)	虚血性心疾患の特徴を理解し説明できる						
14	循環	器疾患 ②		多くの臨床情報をもとに全身状態のアセスメントできるようになる						
15	高齢者の運	動機能障	害 ①	長期臥床や廃用の影響を評価し治療プログラムを立案できる						
16	高齢者の運	動機能障!	害②	フレイルやサルコペニアにつ	 いてそれ	 iらの概念を学	<u></u> ⁻ -習する			
:	教科書なるほ			ごなっとく内科学改訂2版 南山堂		履修条件	15回の講義なのすると定期試験で			
:	参考書 必			・要に応じて提示する 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと						
Б				なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる						
	備考									

] 選択	選択 🗹 必修			□ 講義	☑ 演習 □	実習		
	科目名	, 1			教員氏名		単位	配当年次	開講期		
内部	障害作業療法	治療学	学演習		大井 雅人	大井 雅人 1 2 後					
	授業概要				業療法治療学で学習した知識を基 治療の技能,喀痰吸引の技術を身				ついて論じ,臨床		
	到達目標				系疾患から派生する内部障害への具体的なリハビリテーションを計画,実施すること うになる						
					授業計画	画					
1	糖	尿病	1		糖尿病に対する機能的作業療法の介入,生活指導のシュミレーションができる						
2	糖	尿病	2		糖尿病患者の在宅リハのマネ	(ージ)	メントができる				
3		腎疾患	3		慢透析患者への具体的なアフ	°□	チを理解できる				
4	思		瘍		悪性腫瘍の種類や進行度,生な介入法について理解できる		後を踏まえたアフ	プローチ,緩和ケフ	"を含めた具体的		
5	呼吸:	器疾患	1		各種の計測機器(聴診器やパル	スオキ	シメーターなど)	を使った評価ができ	るようになる		
6	呼吸:	器疾患	2		呼吸リハビリテーションにつ	ついて	実践を通じて経験	美し理解を深める			
7	循環	器疾患	1		運動負荷試験を実践し呼吸器	まと循环	環器の機能的関連	性について理解で	できる		
8	8 循環器疾患 ②				循環器疾患と全身状態との関	係を	医学的に説明でき	きる			
9	9 循環器疾患 ③				心筋梗塞の回復過程に即した	:ADL	指導ができるよう	になる			
10	高齢者の)運動	機能障害	Ė	廃用症候群をアセスメントし	ン治療	計画を立案できる	らようになる			
11	訪問	引看護	1		在宅クライエントに対する看護アセスメントの概略が理解できる						
12	訪問	引看護	2		在宅クライエントに対する具体的な看護業務について理解できる						
13	高齢者の遺	重動機1	能障害	1	長期臥床、廃用症候群などへの治療的介入法について理解できる						
14	高齢者の週	重動機1	能障害	2	フレイルやサルコペニアに対する作業療法プログラムについて理解できる						
15		まとめ	5		内部障害によるQOLの低下に	-対す	る作業療法士の介	入手段について野	里解できる		
:	教科書				検討中 履修条件 15回の講義なので、3回以上 すると定期試験を受験できた。						
:	参考書				検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習 を怠らないこと						
瓦	 找績評価	· ·			なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる						
	備考										

新神座帯作楽療法治療学				選択 ☑	3 必修		☑ 講義	□演習□	実習	
授業機要 作業療法の視点において評価の観点から疾患への理解を深め、実践できる姿勢を養えるよう 講義を行う 到達目標 評価の観点から疾患への理解を深め、実践できるようになる		科目名	l		教員氏名		単位	配当年次	開講期	
環業概要 講義を行う 評価の観点から疾患への理解を深め、実践できるようになる 授業計画 1	精神	障害作業療法	去治療学	学丨	山田 竜大		1	2	前期	
授業計画		授業概要								
1 気分障害 ① うつ病の疾患特性、評価の視点を考えることができる 2 気分障害 ② 躁病・双極性障害の疾患特性、評価の視点を考えることができる 3 統合失調症 ① 統合失調症の疾患特性、評価の視点を考えることができる 4 統合失調症 ② が合失調症に関連する疾患の特性、評価の視点を考えることができる 5 パーソナリティ障害 ② パーソナリティ障害の分類と特徴を理解することができる 6 パーソナリティ障害。分類と特徴から、評価の視点を考えることができる 7 関連障害、身体表現性障害・身体表現性障害・身体表現性障害・身体表現性障害・身体表現性障害・各種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 8 生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群 9 発達障害 ① 発達障害の特性を深く理解し、評価の視点を考えることができる 10 発達障害 ② 発達障害の特性を深く理解し、評価の視点を考えることができる 11 認知症 ① 各種認知症の分類と特徴を理解することができる 12 認知症 ② 認知症の分類と特徴を理解することができる 13 てんかん てんかんの特徴、発作、症状を深く理解し、評価の視点を考えることができる 14 精神作用物質による精神及び行動の障害 各種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 15 病頭薬障害 疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 数科書 精神科科作業療法の理論と技術 歴修条件 15回の講義なので、4回以上欠席		到達目標	Ti-	平価の観点	から疾患への理解を深め,実践できるようになる					
2 気分障害 ②					授業計画	画				
3 統合失調症 ① 統合失調症の疾患特性、評価の視点を考えることができる 4 統合失調症 ② 統合失調症に関連する疾患の特性、評価の視点を考えることができる 5 パーソナリティ障害 ① パーソナリティ障害の分類と特徴を理解することができる 6 パーソナリティ障害 ② パーソナリティ障害の分類と特徴から、評価の視点を考えることができる 7 神経症性障害、ストレス 関連障害・身体表現性障害 8 生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群 名種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 9 発達障害 ① 発達障害の特性を深く理解し、評価の視点を考えることができる 10 発達障害 ② 発達障害の特性を深く理解し、評価の視点を考えることができる 11 認知症 ① 名種認知症の分類と特徴を理解することができる 12 認知症 ② 認知症の分類と特徴から、評価の視点を考えることができる 13 てんかん てんかんの特徴、発作、症状を深く理解し、評価の視点を考えることができる 14 精神作用物質による精神及び行動の障害 疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 15 前頭薬障害 疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 15 前頭薬障害 疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 15 前頭薬障害 疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる	1	気分	·障害	1	うつ病の疾患特性,評価の視	見点を	考えることができ	きる		
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	2	気分	·障害	2	躁病・双極性障害の疾患特性,評価の視点を考えることができる					
1	3	統合領	夫調症	1)	 統合失調症の疾患特性,評価 	面の視り	点を考えることだ	ができる		
6	4	統合領	夫調症	2	統合失調症に関連する疾患の)特性,	評価の視点を想	考えることができる	3	
7 神経症性障害、ストレス関連障害・身体表現性障害 各種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 8 生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群 各種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 9 発達障害 ① 発達障害の特性を深く理解し、評価の視点を考えることができる 10 発達障害 ② 発達障害の特性を深く理解し、評価の視点を考えることができる 11 認知症 ① 各種認知症の分類と特徴を理解することができる 12 認知症 ② 認知症の分類と特徴から、評価の視点を考えることができる 13 てんかん てんかんの特徴、発作、症状を深く理解し、評価の視点を考えることができる 14 精神作用物質による精神及び行動の障害 各種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 15 前頭薬障害 疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 教科書 精神科作業療法の理論と技術 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席 ると定期試験を受験できない	5	パーソナ	リティ障	章害 ①	パーソナリティ障害の分類と	:特徴	を理解することが	ができる		
7 関連障害・身体表現性障害 8 生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群 9 発達障害 ① 10 発達障害 ② 2 発達障害の特性を深く理解し、評価の視点を考えることができる 11 認知症 ① 12 認知症 ② 13 てんかん 14 精神作用物質による精神及び行動の障害 15 前頭薬障害 疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 2 表種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 14 精神作用物質による精神及び行動の障害 4 各種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 15 前頭薬障害 有神科作業療法の理論と技術 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席ると定期試験を受験できない	6	パーソナ	リティ障	章害 ②	パーソナリティ障害の分類と特徴から,評価の視点を考えることができる					
8 関連した行動症候群 各種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 9 発達障害 ① 発達障害の特性を深く理解し、評価の視点を考えることができる 10 発達障害 ② 発達障害の特性を深く理解し、評価の視点を考えることができる 11 認知症 ① 各種認知症の分類と特徴を理解することができる 12 認知症 ② 認知症の分類と特徴から、評価の視点を考えることができる 13 てんかん てんかんの特徴、発作、症状を深く理解し、評価の視点を考えることができる 14 精神作用物質による精神及び行動の障害 各種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 15 前頭葉障害 疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 教科書 精神科作業療法の理論と技術 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席ると定期試験を受験できない	7	/			各種疾患を深く理解し、評価	面の視り	点を考えることだ	ができる		
10 発達障害 ② 発達障害の特性を深く理解し、評価の視点を考えることができる	8	8 1			各種疾患を深く理解し,評価	面の視り	点を考えることだ	ができる		
11 認知症 ① 各種認知症の分類と特徴を理解することができる 12 認知症 ② 認知症の分類と特徴から、評価の視点を考えることができる 13 てんかん てんかんの特徴、発作、症状を深く理解し、評価の視点を考えることができる 14 精神作用物質による精神	9	発達	障害	1	発達障害の特性を深く理解し	〉,評化	価の視点を考える	ることができる		
12 認知症 ② 認知症の分類と特徴から、評価の視点を考えることができる	10	発達	障害	2	発達障害の特性を深く理解し、評価の視点を考えることができる					
13	11	認分	印症 (1	1)	各種認知症の分類と特徴を理解することができる					
14 精神作用物質による精神 各種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 15 前頭葉障害 疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 教科書 精神科作業療法の理論と技術 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席 ると定期試験を受験できない	12	認分	印症 ②	2	認知症の分類と特徴から、評価の視点を考えることができる					
14 及び行動の障害 各種疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 15 前頭葉障害 疾患を深く理解し、評価の視点を考えることができる 教科書 精神科作業療法の理論と技術 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席 ると定期試験を受験できない	13	7	んかん		てんかんの特徴,発作,症状	で深っ	く理解し,評価の	の視点を考えること	とができる	
教科書 精神科作業療法の理論と技術 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席 ると定期試験を受験できない	14				各種疾患を深く理解し,評価の視点を考えることができる					
教科書 精神科作業療法の理論と技術 履修条件 ると定期試験を受験できない	15	前見	頂葉障害	包	疾患を深く理解し、評価の複	見点をき	考えることができ	きる		
標準精神医学第7版. できるだけ欠席せず、予習復習を		教科書 精神和					履修条件			
参考書 精神障害作業療法第2版 留意事項等 らないこと	:	参考書					留意事項等		ず,予習復習を怠	
が 成績評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	局									
備考		備考								

		□選	択 ☑ 必修		□ 講義	☑ 演習 □	実習				
	科目名	,	教員氏名	•	単位	配当年次	開講期				
精神	障害作業療法	法治療学Ⅱ	山田 竜大		1	2	後期				
	授業概要	各疾患	愚の基本的知識を踏まえ,作業療活	本的知識を踏まえ,作業療法の実践的思考が養えるよう講義を行う							
	到達目標	各疾患	患の治療について考え,治療計画 で	療について考え,治療計画を立てられるようになる							
		•	授業計	授業計画							
1	精神障害総	論 ①	種々の作業療法に関する理	種々の作業療法に関する理論,作業療法を取り巻く制度等を述べられる							
2	精神障害総	論 ②	種々の作業療法に関する理	淪,作	業療法を取り巻く	制度等を述べられ	13				
3	統合失調症	の作業療法	① 事例をもとに統合失調症の[事例をもとに統合失調症の回復段階毎の作業療法を述べられる							
4	統合失調症	の作業療法	② 事例をもとに統合失調症に	関連す	る疾患の作業療法	を述べられる					
5	気分障害の	作業療法(1 事例をもとにうつ病につい	ての作	業療法を,回復段	と階毎に述べられる	5				
6	気分障害の	作業療法 (② 事例をもとに躁病・双極性	事例をもとに躁病・双極性障害についての作業療法を述べられる							
7	神経症性障	害の作業療法	法 事例をもとに神経症性障害(事例をもとに神経症性障害についての作業療法を述べられる							
8		-リティ障害 =業療法	事例をもとに各種パーソナ	リティ	障害への対応と作	業療法を述べられ	13				
	教科書		検討中		履修条件	8回の講義なので, と定期試験を受験					
	参考書		検討中	検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと							
J.			隻のなかで、適宜小テストを実施で の結果と定期テストの結果を総合	ないで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる							
	備考										

		□ i	☑講義	□ 演習 □	」 実習						
	科目名			教員氏名	•	単位	配当年次	開講期			
発達	達障害作業療	法治療学	服	常 範行 野澤 綾子 田縁 友	博	1	2	後期			
	授業概要			で学ぶ内容を作業療法の視点 とができるよう講義を行う	点で深	- く掘り下げて学び	· , 発達障害児(ネ	者) の治療につい の治療につい			
	到達目標	発達	障害児	B (者) に対する作業療法のE	点床実)	践的な治療につい	て理解することが	ができる			
				授業計	画						
1	発達	障害とは		発達障害の概念および様々な の関係が理解できる	な新生	児疾患の概要につ	いいて理解し,それ	れらと作業療法と			
2	新生児疾	患の作業	療法	周産期の障害を深く理解し,NICUにおける作業療法士の活動について理解できる							
3	脳性麻痹	車の作業療	法	脳性麻痺のタイプ・病理・症状などについて理解を深め,作業療法の適応が理解できる							
4	脳性麻痹	車の作業療	法	脳性麻痺児への(諸家の治療理論による)アプローチの概要を理解し,基本的な運動 療法的介入法を実践できる							
5	重症心身障	害児の作	業療法	重症心身障害児(者)の作業療法の必要性について説明できる							
6	重症心身障	害児の作	業療法	重複障害を伴う重症心身障害児に対する作業療法について, その目的・方法を理解し 実践できる							
7	進行性筋 流作	ジストロラ 業療法	'イの	進行性筋ジストロフィの種类 の意義や目的を臨床的に説明			段め, 具体的な作	業療法についてそ			
8	進行性筋ジストロフィの 作業療法			進行性筋ジストロフィの病理 た作業療法について理解を浸		類・症状の特徴を	理解し、機能的	アプローチを含め			
9	骨関節疾	患の作業	療法	先天性骨関節疾患や二分脊柱 ついて説明できる	催の病	理や症状の知識を	深め、それらに	対する作業療法に			
10	骨関節疾	患の作業	療法	小児領域の骨関節疾患や二分脊椎の病理・症状などの医学的知識を学習し、年齢や生活環境に即した具体的な作業療法を実践できる							
11	知的発達隊	章害の作業	療法	知的発達障害児(者)の特徴および作業療法について理解できる							
12	自閉症スペ			不器用さを持つ児(者)の物	寺性と	支援について理解	よする				
13	感覚	統合療法		自閉症スペクトラム, 学習降 覚統合療法」についてその根				者に対応する「感			
14	内部障害	害の作業療	法	様々な小児領域の内部障害に 明できる	こつい	て理解を深め,そ	れらに対する作詞	業療法について説			
15	内部障害	書の作業療	法	小児の内部障害・小児がんの 解を	の病理	・種類を学習し、	作業療法士の取	り組みについて理			
100	教科書	Ē	最新理学	· 快療法学講座 小児理学療法学		履修条件	15回の講義なのでると定期試験を受				
141	参考書			適宜提示する 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠らないこと							
成	成績評価			、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる							
	備考										

		☐ ž	選択 ☑	7 必修				☑ 講義		演習] 実習	
	科目名	,			教員氏名	•		単位	i	配当年次	開講期	
発達	達障害作業療	法治療学	服	部 範行	野澤 綾子	田縁友	博	1		2	後期	
	授業概要				する内容を作			で深く掘り下げて	て学び	,発達障害	児(者)の治療に	
	到達目標	発達	障害児	見(者)に	に対する作業	美療法の方	法や氵	台療効果について	て考え	ることがで	きる	
						授業計画	Ēļ					
1	発達	障害とは			害の概念お。 が理解できる		新生.	児疾患の概要に	ついて	理解し,そ	れらと作業療法と	
2	2 脳性麻痺の作業療法 る 脳性麻痺の作業療法									の適応が理解でき		
3	重症心身障	雪児の作	業療法	重症心身	身障害児(都	当)の作業	療法	の必要性につい	て説明	できる		
4		ジストロフ ■業療法	'イの		筋ジストロフ や目的を臨り				深め,	具体的な作	業療法についてそ	
5	骨関節疾	長患の作業!	療法		骨関節疾患や 说明できる	や二分脊椎	の病	理や症状の知識	を深め	, それらに	対する作業療法に	
6	知的発達[障害の作業	療法	知的発達	知的発達障害児(者)の特徴および作業療法について理解できる							
7	自閉症スペ 性協調運	ペクトラム 動症の作業		不器用さ	さを持つ児	(者)の特	性と	支援について理	解する			
8	内部障	害の作業療	法	様々な小 明できる		内部障害に	つい	て理解を深め,	それら	に対する作	業療法について説	
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
;	教科書	シンプルヨ	里学療法		-ズ小児理学績 第3版	療法学テキ	スト	履修条件)講義なので 期試験を受験	、3回以上欠席する 倹できない	
参考書 適宜提示する 留意事項等 できるだけ欠席せず, らないこと							せず,予習復習を怠					
成	於績評価				テストを実 テストの結:		って成	績に反映させる				
	備考											

			選抄	₹ 🔽] 必修				□ 講義	☑ 演習 □	実習	
	科目名	, 1				教員氏名	,		単位	配当年次	開講期	
発達院	障害作業療法	治療学演	習	服	部 範行	野澤 綾子	子 田縁 友	博	1	2	後期	
	授業概要				業療法治		ぶ内容を深	く据り	J下げて学び, 馬	具体的な治療につい	いて実践できるよ	
	到達目標	発	逵障	害児	, (者) に	対する作	業療法の臨	床実践	浅的な治療につい	いて理解すること か	べできる	
		1					授業計画	画				
1	新生児疾	長患の作	業療済	法	周産期の	の障害を深	く理解し,	NICU	における作業療	法士の活動につい	て理解できる	
2	脳性麻	痺の作業	療法	-		専児への(个入法を実		聚理論(こよる) アプロ-	-チの概要を理解し	ン,基本的な運動	
3	重症心身障	き害児の1	作業組	療法	重複障割 実践でき		症心身障害	引児に 対	対する作業療法に	こついて,その目的	り・方法を理解し	
4	進行性筋 作	ジストロ F業療法	フィ	の			フィの病理 て理解を深		類・症状の特徴を	と理解し、機能的に	アプローチを含め	
5	骨関節疾	長患の作!	業療法	去					の病理・症状など を実践できる	ごの医学的知識を覚	学習し、年齢や生	
6	感覚	並統合療 法	法		自閉症スペクトラム,学習障害,注意欠陥多動障害(ADHD)の患者に対応する「感 覚統合療法」についてその概略が理解し、実践できる							
7	7 内部障害の作業療法				小児の内解を	内部障害・	小児がんの	病理	・種類を学習し,	作業療法士の取り)組みについて理	
8	症	E例検討			提示され 能を習得		例に対する	評価	・治療プログラム	」を演習の中で計画	画し, 臨床的な技	
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
į	教科書	シンプ	ル理等	学療法	療法学シリーズ小児理学療法学テキスト 改定第3版 履修条件 8回の講義なので、3回以」 と定期試験を受験できない							
ź	参考書 適宜提示								留意事項等	できるだけ欠席せ らないこと	ず,予習復習を怠	
向	え続評価					テストを実 テストの結		して成	績に反映させる			
	備考											

			選択	2 必修		☑ 講義	□演習□	実習		
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期		
老	年期作業療法	法治療学		千葉 馨		1	2	後期		
	授業概要		齢に伴う うに講義	・心身機能の変化の特徴,疾患 を行う	や障害	景について理解し	,全人間的な介 <i>フ</i>	(法を考えられる		
	到達目標			ッ身機能の特徴,生活習慣や環 ま業療法や在宅リハについて考		•	直結する役割行動	かなどを理解し,		
				授業計画	画					
1		総論		老年期の心身機能の変化について,その概略が理解できる						
2	高齢者の	の社会的	役割	人生経験を積み上げた高齢者	舌の役割	側の重要性につい	いて理解できる			
3	社会活	動の重要	E性	社会交流の場を保証し,QOI 理解できる	Lの維持 かっぱん かんかん かんかん かんかん しょうかん かんかん しょうかん かんかん しゅうしゅ しゅうしゅう しゅうしゃ しゅう	寺向上に向けた作	F業療法士の取り約	組みについて		
4	高齢者の	生活につ	ついて	稼働年齢をこえた高齢者の生 身の健康について理解できる		動について, 様々	なパターンを類技	惟し, 高齢者の心		
5	高齢	者の心理	₽	高齢者の心理について理解で	ぎきる					
6	高齢者	の心肺機	幾能	高齢者の心肺機能や背景にある内部疾患などについて理解できる						
7	高齢者の	自律神紹	E機能	若年者と比較した高齢者の自	律神絲	圣機能について理	単解できる			
8	高齢者の	筋力につ	ついて	高齢者の筋力について, サル 理解できる	/コペニ	ニアを例に挙げて	「低運動による障 <i>だ</i>	がいの本質を		
9	高齢者	の栄養物		高齢者の栄養状態について学 指導内容について理解できる		在宅リハにおけ	する具体的なアセス	スメントや		
10	高齢	者の代謝	년	生理学的視点から高齢者の代謝機能の特徴について理解できる						
11	高齢者に対	対する作 ①	業療法	虚弱高齢者に対する作業療法について,具体例を通して理解できる						
12	高齢者に対	対する作 ②	業療法	高齢者のADLについて,具体	s例をji	通して理解できる				
13	高齢者に対	対する作 ③	業療法	認知症の病態と作業療法の介	入にて	ついて理解できる				
14	高齢者に対	対する作 ④	業療法	高齢者の「生きがい・楽しみ	4」につ	ついて,その本質	[を理解できる			
15	高齢者に対	対する作 ⑤	業療法	高齢者の運転に関する種々の	問題に	こついて,作業療	§法の視点から考察	宮できる		
į	教科書			検討中		履修条件	15回の講義なのでると定期試験を受			
3	参考書			検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠らないこと						
- त	対績評価			なかで、適宜小テストを実施 果と定期テストの結果を総合し		績に反映させる				
	備考									

	科目名補装具学		教員氏名	単位	まつい ケンタ						
	補装具学			1 1	配当年次	開講期					
			小池 拓馬	1	2	前期					
1	授業概要		ついての概要を理解し、解剖、運動 できるように進めていく	・ 大生理学などとの)関連性。また疾患	景との関係性、適					
7 3	到達目標	補装具にてるようにす									
			授業計画								
1	装具概	論 ①	授業の概要についてオリエンテーシ できる	ョンを行った後に、	補装具に関しての概	悪論を学習し理解					
2	装具概	(a)	補装具に関する解剖学的知識(原	写関節および肘関 節	節)						
3	装具概	論③	補装具に関する解剖学的知識(前								
4	装具概	論 ④	補装具に関する解剖学的知識(F関節以遠)							
5	装具概	論(5)	補装具に関する解剖学的知識(下肢・体幹)							
6	装具概	論⑥	補装具と運動学、生理学について学習し理解できる								
7	装具概	論⑦	補装具に関する体表解剖と形態語)理解できる						
8	疾患別		疾患別に見た補装具(RA)につ	いて学習し理解で	きる						
9	疾患別	12	疾患別に見た補装具(糖尿病)に	こついて学習し理解	解できる						
10	義手	1)	上腕義手について学習し理解できる								
11	義手	2	前腕義手について学習し理解できる								
12	義手	3	手義手に関して学び、理解する								
13	義员	<u>1</u> _	義足について学習し理解できる								
14	その他補	接具	その他の補装具(車椅子・杖など	ご)について学習し)理解できる						
15	支給制	度	補装具に関する制度について学習	習し理解できる							
教	科書		プル理学療法学シリーズ 三具学テキスト 改定第3版	履修条件	15回の講義なのでると定期試験を受り						
参:	考書補	長具費支給事	医歯薬出版 事務ガイドブック (公益財団法人テクノエイド協 ハンドセラピイ メジカルビュー社 斎藤慶一郎編								
成績	青評価		たに課題を行い到達度の確認を実施する 提出と定期テストの結果を総合して成績に反映させる								
盾											

		[選	択 ☑	1 必修		□ 講義	☑ 演習 □	実習			
	科目名	,			教員氏名		単位	配当年次	開講期			
	補装具学	演習			小池 拓馬		1	2	後期			
	授業概要				学習した基礎的な知識をもと の作成,車椅子のチェックア			適応ついてのディ	′スカッション,			
	到達目標		各種區	障害に	適応する補装具の機能と臨床	適応に	こついて理解でき	る				
			1		授業計画	Ē.						
1	導	拿入	1		中枢神経障害の症状と補装具	の適点	こについて確認で	`きる				
2	導	拿入	2		末梢障害の症状と補装具の適応について確認できる							
3	ハン	ドセラ	ラピー		各種障害・疾患に呈する具体的な手の外科について概要を学び,後療法に適応する 補装具について理解できる							
4	補装具	見の適	応 ①)	上肢の補装具について理解で	きる						
5	補装具	見の適	応 ②)	静的・動的スプリントの適応を理解できる							
6	補装具	見の適	応 ③)	下肢の補装具について理解できる							
7	が 補装具の適応 ④				体幹機能障害とそれに対応す	る補物	 長具について説明	できる				
8	補装具	見の適	応 ⑤)	具体的にスプリントを作成し	そのだ	ī法を理解できる					
9	義	美手	1		上腕義手の部位名称や精密な	構造に	こついて説明でき	る				
10	義	美手	2		前腕義手の部位名称や精密な構造について説明できる							
11	義	是足	1		股義足の部位名称や精密な構造について説明できる							
12	義	是足	2		大腿義足の部位名称や精密な	構造に	こついて説明でき	る				
13	義	是足	3		下腿義足の部位名称や精密な	構造に	こついて説明でき	る				
14	車	いす	1		様々な車いすの機種とその適	応につ	いて理解できる					
15	車	椅子	2		シーティングアセスメントを	体験し	んその方策につい	て説明できる				
į	教科書				検討中		履修条件	15回の講義なので、				
į	参考書				検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと							
成	え続評価				りなかで、適宜小テストを実施する 告果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる							
	備考											

□ 選択 ☑ 必修 ☑ 講義 □ 演習 □ 実習											
	科目名	,		教員氏名		単·	位	配当年》	Ż	開講期	
	日常生活活			千葉 馨		1		2		前期	
	授業概要	を理解	翼した_	- ションの目標である日常生活活動(Activities of Daily Living:ADL)について各障害の形態 上で対象者の個別性を考慮した創造的な練習や支援を考える基礎となる。基礎疾患や障害等の 基づいた生活および活動を促す方法を学ぶ							
	到達目標			基礎疾患等の知識を十分に学び、生活行為を構成する諸要素について理解できる 別性を考慮し主体的に生活できる方法を学ぶ							
		•		授業計[画						
1	ADL Ø)概念と範囲		ADLの概念と範囲、生活昨日から見たADLの位置づけついて理解できる							
2	А	DL評価		ADL評価の種類と評価ポイン	トにつ	ついて理解	解できる	1			
3	脊髄損	員傷のADL 1		脊髄損傷の損傷レベル、残存 ンに連動したADL(起居動作					田とり	リハビリテーショ	
4	脊髄損	員傷のADL 2		残存機能における活動状況に	応じた	た医療福祉	业デバイ	スを理解でる	きる		
5	脊髄損	員傷のADL3		残存機能における活動状況に	応じた	たIADL拡	大の導 <i>刀</i>	(や方法を理	解でる	きる	
6	脳卒中片	ト麻痺のADL	_ 1	脳卒中の病態及び障害と片麻 祉デバイスを理解できる	種の/	ADL評価系	浅存機能	における活動	协状没	記に応じた医療福	
7	脳卒中片	床痺のADL	_2	脳卒中の病態及び障害と片麻痺のADL評価残存機能における活動状況に応じた医療福祉デバイスを理解できる							
8		間テスト ウマチのADI	L1	関節リウマチの病態と片麻痺 デバイスを理解できる	のAD	L評価残る	字機能に	おける活動物	犬況に	応じた医療福祉	
9	関節リワ	ウマチのAD	L2	関節リウマチの病態と片麻痺 デバイスを理解できる	ΦAD	DL評価残る	字機能に	おける活動物	犬況に	応じた医療福祉	
10	運動器	B疾患のADL	-	人工関節や関節疾患の慢性疼	痛を打	持つ人々の	のADLに	ついて理解で	できる	,)	
11	パーキン	ィソン病のA	DL	対象の病態を理解し、投薬状況及び身体活動状況に応じたADLについて理解できる							
12	認知	I症のADL		対象の病態を理解し、投薬状況及び身体活動状況に応じたADLについて理解できる							
13	心疫	E患のADL		対象の病態を理解し、投薬状況及び身体活動状況に応じたADLについて理解できる							
14	呼吸器	B疾患のADL	-	対象の病態を理解し、投薬状	∜況及≀	び身体活動	動状況に	.応じたADLに	こつし	いて理解できる	
15		び在宅におり DL指導	ける	対象者の居住地及び目標とす	-る拠,	点を考慮	したADL	指導について	て理解	罪できる	
	教科書	PT	·OT	・ ビジュアルテキスト ADL 第1版 羊土社		履修	条件	前講義の1/5 : きない	を欠席	すると単位を取得で	
:	参考書		資料内	・適宜小テストを不定期に行うの 内に紹介する 多数あり 留意事項等 で授業で行った部分の理解・知識 の補完を常に行うこと						部分の理解・知識	
局	え績評価			比験、授業態度、提出物について成績の対象とする。 60 より単位修得となる							
	備考	授業終了後 極的な質問		昇度アンケート、不定期な小∋ ⊉する。	テスト	等を実施	する。			積	

		持つことができるよう講義演習を行う 各疾患や障害の動作に対して分析的に観察し、表出することができ、治療的に系統立てた考え		実習								
	科目名	,			教員氏名		単位	酉	己当年次	開講期		
E	1常生活活動	学演習			千葉 馨		1		2	後期		
	授業概要					察し,	表出することか	ヾ でき,	治療的に系	- 系統立てた考えを		
	到達目標				べできる							
					授業計	画						
1	動作分	分析とは	t ①		動作分析について理解し、分析的な視点を持つことができる							
2	動作分	か析とに	‡ ②		動作分析について理解し、分	分析的	な視点を持つこと	こができ	きる			
3	姿勢	外につい	いて		姿勢について理解し,分析的	りな視	点を持つことがで	できる				
4	座位	たについ	いて		座位について理解し, 分析的	かな視	点を持つことがで	できる				
5	立位	たについ	いて		立位について理解し,分析的	かな視	点を持つことがで	できる				
6	;	寝返り			寝返りについて理解し,分析的な視点を持つことができる							
7	起	き上が	· 1)		起き上がりについて理解し、	分析	的な視点を持つる	ことがつ	できる			
8	立ち上か	*1) <u>F</u>	並位か	ь	座位からの立ち上がりについ	ヽて理:	解し,分析的な礼	見点を打	寺つことがつ	できる		
9	立ち上	がり	床から)	床からの立ち上がりについて	理解	し,分析的な視点	気を持つ	つことができ	きる		
10	步	対 (<u>l</u>)		歩行について理解し、分析的な視点を持つことができる							
11	步	行 ②	2)		歩行について理解し、分析的な視点を持つことができる							
12	ADI	_動作	1		ADL動作について理解し、分	分析的	な視点を持つこと	こができ	きる			
13	ADI	_動作	2		ADL動作について理解し、分	分析的	な視点を持つこと	こができ	きる			
14	症例	検討	1		症例検討で動作分析をはじぬ	らとし	た評価を行い治療	き計画が	ができる			
15	症例	検討	2		症例検討で動作分析をはじぬ	らとし	た評価を行い治療	き計画が かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	ができる			
;	教科書				検討中		履修条件		D講義なので E期試験を受	, 4回以上欠席す 験できない		
:	参考書				検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと							
点	対績評価				のなかで、適宜小テストを実施する 特果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる							
	備考											

		□ i	選択 ☑	1 必修		☑ 講義	□演習□	実習			
	科目名	, 1		教員氏名		単位	配当年次	開講期			
	高次脳機能	障害学		西村 大地		1	2	前期			
	授業概要	脳損	傷に起	因する高次脳機能障害の病態や症状、評価方法、リハビリテーションについて学ぶ							
	到達目標	脳機でき		いて理解し、高次脳機能障害の病態や症状、評価、リハビリテーションについて説明							
	ı			授業計	授業計画						
1	高次	脳機能総論	À	授業の構成および成績評価に関するオリエンテーション、高次脳機能障害とはなにか 学ぶ							
2	脳の機	幾能につい	7	脳の構造や部位ごとの働きについて学ぶ							
3	大脳の機	幾能局在と	障害	大脳の機能局在や各部位の障	章害、 脂	凶動脈の支配領域	について学ぶ				
4	脳画像と	高次脳機能	障害	脳に関連する画像(CT・MR	RI)のst	見方や脳部位の同]定方法について学	<u></u>			
5	高次脳機	幾能障害の	評価	高次脳機能障害の評価の原則	川やプロ	1セス、阻害要因	を学ぶ				
6	半俱	空間無視		半側空間無視の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ							
7	闰	注意障害		全般性注意障害の症状特性、	神経心	い理学的検査、リ	ハビリテーション	について学ぶ			
8	Ē	己憶障害		記憶障害の症状特性、神経心)理学的	的検査、リハビリ	テーションについ	で学ぶ			
9	視覚モダリ 失認	リティーに: と関連症状		視覚モダリティーにおける失認と関連症状の特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ							
10	失認・	・失読・失	書	失認・失読・失書の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ							
11		失行		失行の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ							
12	遂行	「機能障害 「機能障害		遂行機能障害の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ							
13	社会	的行動障害	7	社会的行動障害の症状特性、	神経心	は理学的検査、リ	ハビリテーション	について学ぶ			
14	İ	認知症		認知症の症状特性、神経心理	2学的核	食査、リハビリテ	ーションについて	学ぶ			
15		能障害にお や社会制度		高次脳機能障害における法律 ついて学ぶ	単や社会	会制度について理	解し、必要な支援	やアプローチに			
	教科書			脳機能障害学 第2版 医歯薬出版株式会社)		履修条件	15回の講義なのでると定期試験を受け				
	参考書	高次	マ脳機能	障害作業療法学(医学書院)		留意事項等	できるだけ欠席せ [*] らないこと	ず,予習復習を怠			
F.	 找績評価	期末試験1	100%		l						
	備考										
L											

		□選	択	必修		□ 講義	☑ 演習 □	実習				
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期				
リハ	ビリテーション	ン工学演習		平塚健太・千葉馨・古館裕大		1	2	前期				
	授業概要	リハ	ビリテ	ーションの領域に急激に普及	えしてい	いるICTについて	,その基盤となる	技術に触れる.				
	到達目標	1		ーションの現場で活用されて 場に内在する課題や問題に対				•				
					画							
1	オリエ	ンテーション	~									
1	センシ	ング演習①)	オリエンテーション…講義の概要が理解できる.								
2	センシング演習②			センシング演習…フローチャートの描き方やmicro:bitへのプログラムの仕方を理解で きる.具体的には,加速度センサや距離センサなどの各種センサを用いて,人の動き								
3	センシ	ング演習③)	や環境を測定するプログラムの仕方を理解できる.								
4	電気[回路演習①										
5	電気[回路演習②		電気回路の作り方を理解できる.具体的には,LEDを点灯する回路や,スイッチを組み合わせて"かつ"や"または"のロジックを実装することができる.また,臨床で用い								
6	電気[回路演習③			られるセンサマットの作成を通して,身近な製品の回路の構成を理解できる.							
7	電気[回路演習④										
8	3Dモデ	リング演習(1)									
9	3Dモデ	リング演習(2	CADソフトであるTinkercadを用いて,自分が思い描く物体を3Dモデル化する方法を理解できる.具体的には,コップやいすなどの身近なものの3Dモデリングを通し								
10	3Dモデ	リング演習(3	て,CADソフトの使い方を理解できる.								
11	-	リング演習(
12	創油	テーション] 告演習① 	_	センシング演習,電気回路演	,			基づき,医療福				
13	創油	テーションコ 告演習②	J	祉の分野で役に立つ製品を自	.,,		•					
14	① (医工道	重携の取り組み	.)	医療と工学の複合領域につい 床応用されているかについて	て理解で	できる						
15		ョン工学関連 重携の取り組み		医療と工学の複合領域につい 床応用されているかについて			引として, どのよう	に開発されて臨				
į	教科書			講義・演習ではPCを使用する。 特に無し 履修条件 回以上欠席すると単位を取得で ない								
, i	参考書			特に無し 留意事項等 日常的にPCを利用し,PCの扱い に慣れ親しんでおく事								
成	說 績評価			中間レポート,期末レポート,課題により総合的に評価								
	備考											

		□選	択 🗹 必修		□ 講義	☑ 演習 □	実習			
	科目名		教員氏名	•	単位	配当年次	開講期			
コミュ	.ニケーション	/ 方法論演習	平塚 健太		1	1	後期			
	授業概要	例から		ニケーションの方法は多様化している それぞれのコミュニケーション方法についての使用に社会人としての伝達方法であるプレゼン,レポート,レジュメ作成までを理解し,実施ででほしい(手紙の書き方も含める)						
	到達目標			コミュニケーション方法についての使用例から,さらに社会人としての伝達方法であレポート,レジュメ作成までを理解し,実施できる						
		 	授業計	画						
1	コミュニク	ケーションと	こは コミュニケーションの定義と	∠必要	性を理解できる					
2	コミュニケ	ーションの種	重類 様々なコミュニケーションフ	方法に	ついて提示し,適	通用と適用外につい	いて述べる			
3	傾耳	徳と質問	話の聞き方および質問の仕れ	話の聞き方および質問の仕方を理解できる						
4	会話のルー	ルと質問の	仕方 会話のルールやマナー・良質	質な質	問を理解し、実践	まできる				
5		ュニケーシ 也者理解	ョン 様々な価値観を受け入れ、値	面値観	を共有することか	できる				
6	レポー	トの書き方	レポートの書き方について到	レポートの書き方について理解し,実践できる						
7		の作り方と テーション	相手に伝わりやすい資料の作	乍り方	・プレゼンテーシ	/ョンを理解できる	3			
8		の作り方と テーション	相手に伝わりやすい資料の作	乍り方	・プレゼンテーシ	/ョンを理解し、乳	実践できる			
	教科書		資料を配布する		履修条件	PCを使用する 15回の講義なのすると定期試験で	•			
:	参考書		適宜	適宜 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を 怠らないこと						
点	え績評価		義のなかで、適宜小テストを実施 の結果と定期テストの結果を総合	なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる						
	備考									

			選択	② 必修	☑ 講義	□演習□	実習		
	科目名	1		教員氏名	•	単位	配当年次	開講期	
リハヒ	ごリテーショ	ン管理	学丨	山田 竜大	1	2	前期		
	授業概要	-		するにあたり,リスクマネジメントや組織運営の観点からの個人の在り方までメタ認行動できるよう講義を行う					
	到達目標			するにあたり、リスクマネジメントや組織運営の観点から、職場における個人の在り 考えることができる					
		\		授業計	画				
1	作業療法	管理学	総論	作業療法管理学の概念や背景	景につ	いて理解できる			
2	医療機関の分類と組織			医療機関の分類や組織構成・	・役割	について理解でき	₹ る		
3	医療保険制度			作業療法業務に必要な医療保険制度について理解できる					
4	介護保険制度と社会保障			作業療法業務に必要な介護係	保険制	度と社会保障制度	こについて理解でき	5 る	
5	介護予[防の取り	り組み	地域の介護予防対策をセラヒ	ピスト	の視点から考え、	述べることができ	きる	
6	診療・介	護報酬制	制度①	リハビリテーション分野における収益構造を理解できる					
7	診療・介	養報酬制	制度②	リハビリテーション分野における収益構造を理解できる					
8		組織		組織やチームについて理解で	できる				
:	教科書 リハビリテーシ			〃ョン管理・運営実践ガイドブック┃ 履修条件 ┃ ̄ ̄ ̄ ̄ ̄			8回の講義なので, と定期試験を受験		
:	参考書			適宜提示 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと					
成	成績評価 一点		H13 3-0 . 0	なかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる					
	備考								

			選択 ☑	択 🗷 必修		☑ 講義	□演習□	実習	
	科目名	1		教員氏名	=	単位	配当年次	開講期	
リハヒ	ごリテーショ	ン管理	学	山田 竜大	1	2	後期		
	授業概要	管		ジメントについて職場から症	ジメントについて職場から症例について範囲を広げて考えることができよう講義を行				
	到達目標		乍業療法士 ることがで	の臨床現場における管理・マネージメント, リスク管理について, 視野を広げて考え きる					
		•		授業計	授業計画				
1	1 総論			作業療法管理学Ⅱの位置づけや到達目標を理解できる					
2	組織			組織やチームについて理解し	、考.	えを述べることか	できる		
3	業務管理・労務管理			人事考課・時間外労働などの仕組みやハラスメント等について理解できる					
4	リスク管理			医療安全・感染症管理・クレ	ノーム	対応などのリスク	で理を理解できる	3	
5	臨床実習教育			臨床実習の学習目的や内容を	理解	できる			
6	卒前・	卒後教	育①	生涯学習に至る教育体制や内容を理解できる					
7	卒前・	卒後教	育②	生涯学習に至る教育体制や内容を理解し、考えを述べることができる					
8		・ ジメン		管理職としてあるべき姿勢を	理解	できる			
ä	教科書			検討中		履修条件	8回の講義なので, と定期試験を受験		
参考書			検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと						
成績評価			よかで、適宜小テストを実施する 果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる						
備考									

			選択 🔽	2 必修	☑ 講	義 ☑ 演習 [」 実習		
	科目名			教員氏名	単位	配当年次	開講期		
地:	域作業療法	学演習 I		大橋 悠介	1	1	前期		
	授業概要			、て医療・福祉サービスを必要 j地域のいける在宅リハビリテ			問題点に触れ,函		
	到達目標	作美	美療法士	・理学療法士の地域活動についてその概略が理解できるようになる					
		l l		授業計画					
1	緃	論 ①		地域リハビリテーションの概	[略について理解で	できる			
2	総	論 ②		函館市,道南地域の医療・福祉がどのように展開されているか理解できる					
3	総	論 ③		地域での医療保険制度と介護	保険制度に関して	-			
4	総	論 4		函館市, 道南地域の地域医療	、在宅リハビリテ	ーションの必要性が	理解できる		
5	総論 ⑤			様々な障がいを持つ対象者に ついて理解できる	対する在宅リハに	おけるOT・PTの業	務や多職種連携に		
6	高齢者の心身機能 ①			サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイルとは何かが理解できる					
7	高齢者の心身機能 ②			在宅高齢者に行われる心身機	能の評価を理解で	ぎきる			
8	高齢者の	心身機能	3	バイタル測定の実技(血圧)					
9	高齢者の	心身機能	4	バイタル測定の実技(打腱器、血圧)					
10	高齢者の	心身機能	(5)	地域でのリハビリを行うためのICFに関して理解できる					
11	高齢者の	心身機能	6	在宅で生活する為の福祉用具に関して理解できる					
12	健康	寿命 ①)	認知症の概要と在宅生活に関して理解できる					
13	健康	寿命 ②)	脳血管疾患の概要と在宅生活	に関して理解でき	3			
14	健康	寿命 ③)	骨折、パーキンソン病の概要	と在宅生活に関し	て理解できる			
15	地域作詞	業療法と()OL	地域社会における「その人ら	しい生活」とは心	_い 理面等を理解できる	,		
12	教科書 適宜技		受業時に資料を配布する	履修条件	15回の講義なのでと定期試験を受験	で,4回以上欠席する 食できない			
参考書標準作業療		療法学 地域作業療法学第三版 (医学書院) 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと							
成	成績評価		なかで、適宜小テストを実施す 果と定期テストの結果を総合し		 せる				
	備考								

世位 取当年次 開議期 地域作業療法学漢智			□ 選	択 ☑ 必修	□ 講義	□ 講義 ☑ 演習 □ 実習					
授業報要 地域リハビリテーションを展開するうえで必要不可欠な基本的動作を実践的な立場から論じ、返習を通じて理解を深める 到達日標 具体的な在モリハビリテーションの業務を理解し、実際の現場で使用できるようにする		科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期				
関係機要 習を通じて理解を深める 到達目標 具体的な在宅リハビリテーションの業務を理解し、実際の現場で使用できるようにする	地	域作業療法学	演習Ⅱ	溝部 和 小岩 伸之	1	1	後期				
接来動作 起居① 起居活動の制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる 基本動作 起居② 磁返り動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 基本動作 起居③ 起き上がり動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 基本動作 起居④ 起立動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 基本動作 起居⑤ 核乗動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 基本動作 移動① 屋内外での移動制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる 基本動作 移動② 歩行動作に対する援助方法を習得する 本事件 移動② 歩行動作に対する援助方法を習得する 在宅でのADL① ADLに注目した地域作業療法介入の目的を理解できる 在宅でのADL② 排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する MTDLP④ MTDLPの概要を理解できる MTDLP④ MTDLPの概要を理解できる MTDLP④ MTDLPの概要を理解できる MTDLP④ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める MTDLP④ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 数料書 資料を配布する 履修条件 比別域を受験できない できるだけ欠席せず、予習復習をある 収修条件 日の高義なので、4回以上欠席する な様評価 お言のの高義なので、4回以上欠席する な様評価 お言のの高義なので、4回以上欠席する な様評価 お言のの高義なので、4回以上欠席する な様評価 お言の可謂義のなかで、適宜小テストを実施する の意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習をある な様評価 いことでは、15回の高義なのなかで、適宜小テストを実施する いことでは、15回の高義なのなかで、適宜小テストを実施する いことでは、15回の高義なのなかで、適宜小テストを実施する いことでは、15回の高義なのなかで、適宜小テストを実施する いことでは、15回の高義なのなかで、適宜小テストを実施する いことでは、15回の高義なのなかで、適宜小テストを実施する いことでは、15回の高義なのなかで、適宜小テストを実施する いことでは、15回の高義なのなかで、適宜小テストを実施する いことでは、15回の高義のなかで、適宜小テストを実施する いことでは、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のなかで、15回の高義のながでは、15回の高義のながでは、15回の高義のながでは、15回の高義のながでは、15回の高義のながでは、15回の高義のながでは、15回の高格は、15回の		授業概要									
1 基本動作 起居① 起居活動の制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる 2 基本動作 起居② 設定り動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 3 基本動作 起居③ 起き上がり動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 4 基本動作 起居④ 設立動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 5 基本動作 起居④ 砂堆動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 6 基本動作 移動① 屋内外での移動制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる 7 基本動作 移動② 歩行動作に対する援助方法を習得する 8 在宅でのADL④ ADLに注目した地域作業療法介入の目的を理解できる 9 在宅でのADL② 排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する 10 MTDLPの概要を理解できる 11 MTDLP② MTDLPの概要を理解できる 12 MTDLP② MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 13 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 数科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義のなかで、通算小テストを実施する 成膳評価 ・15回の講義のなかで、通算小テストを実施する		到達目標	具体的	りな在宅リハビリテーションの業務	宅リハビリテーションの業務を理解し,実際の現場で使用できるようにする						
2 基本動作 起居② 襲返り動作の基本バターンを理解し援助方法を習得する 3 基本動作 起居③ 起き上がり動作の基本バターンを理解し援助方法を習得する 4 基本動作 起居④ 起立動作の基本バターンを理解し援助方法を習得する 5 基本動作 起居⑤ 参乗動作の基本バターンを理解し援助方法を習得する 6 基本動作 移動④ 屋内外での移動制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる 7 基本動作 移動② 歩行動作に対する援助方法を習得する 8 在宅でのADL② ADLに注目した地域作業療法介入の目的を理解できる 9 在宅でのADL② 排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する 10 MTDLP① MTDLPの概要を理解できる 11 MTDLP② MTDLPの概要を理解できる 12 MTDLP② MTDLPの需要を理解できる 13 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 数科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない なお書 検討中 企業削減を受験できない なお書 検討中 企業削減を受験できない なお書 使力の講義のなかで、適宜を含めてきるとでは関を含さないこと なお書 使力の講義のなかで、適宜を含めてきると対け欠害すると なお書 15回の講義のなかで、20回りによりできると			I	授業計	授業計画						
3 基本動作 起居③ 起き上がり動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 4 基本動作 起居④ 起立動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 5 基本動作 起居⑤ 移乗動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 6 基本動作 移動① 屋内外での移動制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる 7 基本動作 移動② 歩行動作に対する援助方法を習得する 8 在宅でのADL① ADLに注目した地域作業療法介入の目的を理解できる 9 在宅でのADL② 排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する 10 MTDLPの MTDLPの概要を理解できる 11 MTDLP② MTDLPの概要を理解できる 12 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 13 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP⑤ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 数科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない 参考書 検討中 留意事項等 っないこと 成端評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	1	基本動作	作 起居①	起居活動の制限に対する地域	就作業療法介入の目的を	理解できる					
4 基本動作 起居④ 起立動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 5 基本動作 起居⑤ 移乗動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 6 基本動作 移動① 屋内外での移動制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる 7 基本動作 移動② 歩行動作に対する援助方法を習得する 8 在宅でのADL① ADLに注目した地域作業療法介入の目的を理解できる 9 在宅でのADL② 排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する 10 MTDLP① MTDLPの概要を理解できる 11 MTDLP② MTDLPの概要を理解できる 12 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 13 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP⑤ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 数科書 資料を配布する 屋修条件 15回の調義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない 参考書 検討中 留意事項等 ってさるだけ欠席せず、予習復習を含めないこと 成結評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	2	基本動作	作 起居②	寝返り動作の基本パターンを	寝返り動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する						
5 基本動作 起居⑤ 移乗動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する 6 基本動作 移動① 屋内外での移動制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる 7 基本動作 移動② 歩行動作に対する援助方法を習得する 8 在宅でのADL② ADLに注目した地域作業療法介入の目的を理解できる 9 在宅でのADL② 排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する 10 MTDLP① MTDLPの概要を理解できる 11 MTDLP② MTDLPの概要を理解できる 12 MTDLP② MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 13 MTDLP② MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 教科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すとないにきるだけ欠席せず、予習復習を含めないこと 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習を含めないこと のは辞録 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	3	基本動作	作 起居③	起き上がり動作の基本パター	起き上がり動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する						
6 基本動作 移動① 屋内外での移動制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる 7 基本動作 移動② 歩行動作に対する援助方法を習得する 8 在宅でのADL② 排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する 9 在宅でのADL② MTDLPの概要を理解できる 10 MTDLP② MTDLPの概要を理解できる 11 MTDLP③ MTDLPの概要を理解できる 12 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 13 MTDLP④ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP⑤ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 2 教科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習を見らないこと 成議評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	4	基本動作	作 起居④	起立動作の基本パターンを理	2解し援助方法を習得す	- る					
7 基本動作 移動② 歩行動作に対する援助方法を習得する 8 在宅でのADL② ADLに注目した地域作業療法介入の目的を理解できる 9 在宅でのADL② 排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する 10 MTDLP① MTDLPの概要を理解できる 11 MTDLP② MTDLPの概要を理解できる 12 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 13 MTDLP④ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP⑤ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 教科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習を見らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	5	基本動作	乍 起居⑤	移乗動作の基本パターンを理	異解し援助方法を習得す	- S					
8 在宅でのADL① ADLに注目した地域作業療法介入の目的を理解できる 9 在宅でのADL② 排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する 10 MTDLP① MTDLPの概要を理解できる 11 MTDLP② MTDLPの概要を理解できる 12 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 13 MTDLP④ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP⑤ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 教科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習を結らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	6	基本動作	作 移動①	屋内外での移動制限に対する	屋内外での移動制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる						
9 在宅でのADL② 排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する 10 MTDLP① MTDLPの概要を理解できる 11 MTDLP② MTDLPの概要を理解できる 12 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 13 MTDLP④ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP⑤ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 数科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できないを定期試験を受験できないを考書 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習を見らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	7	基本動作	作 移動②	歩行動作に対する援助方法を	習得する						
10 MTDLP① MTDLPの概要を理解できる 11 MTDLP② MTDLPの概要を理解できる 12 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 13 MTDLP④ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP⑤ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 教科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	8	在宅で	°のADL①	ADLに注目した地域作業療法	介入の目的を理解できる。	る					
11 MTDLP② MTDLPの概要を理解できる 12 MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 13 MTDLP④ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP⑤ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 教科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習を見らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	9	在宅で	®のADL②	排泄動作や入浴動作に対する	援助方法を習得する						
MTDLP③ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 13 MTDLP④ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP⑤ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習を結らないこと ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・15回の講義のなかで、適宜小テストを表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を	10	MT	DLP1	MTDLPの概要を理解できる	MTDLPの概要を理解できる						
13 MTDLP④ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 14 MTDLP⑤ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 教科書 資料を配布する 履修条件 参考書 検討中 留意事項等 びきるだけ欠席せず、予習復習を見らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	11	MT	DLP②	MTDLPの概要を理解できる	MTDLPの概要を理解できる						
14 MTDLP⑤ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 教科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習を見らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	12	MT	DLP3	MTDLPの考え元にADL、IAI	MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める						
15 MTDLP⑥ MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める 教科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない 参考書 検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと 成績評価 ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	13	MT	DLP4	MTDLPの考え元にADL、IAI	MTDLPの考え元にADL、IADL等に関して考察し理解を深める						
教科書 資料を配布する 履修条件 15回の講義なので、4回以上欠席すと定期試験を受験できない と定期試験を受験できない できるだけ欠席せず、予習復習をだらないこと ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する	14	MT	DLP⑤	MTDLPの考え元にADL、IAE	DL等に関して考察し理	解を深める					
教科書 資料を配布する 腹修条件 と定期試験を受験できない と	15	MT	DLP⑥	MTDLPの考え元にADL、IAE	DL等に関して考察し理	解を深める					
参考書 検討中 留意事項等 らないこと らないこと がある がで、適宜小テストを実施する	:	教科書		資料を配布する	履修条件						
】 成績評価 】	:	参考書		検討中	検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと						
	Б	成績評価									
備考・実技が中心となるため、動きやすい服装で講義に望むこと		備考	・実技が中	心となるため、動きやすい服装で誰	なるため、動きやすい服装で講義に望むこと						

		i	選択 ☑			☑ 講義 ☑ 演習 □ 実習				
	科目名	ı		教員氏名		単位	配当年次	開講期		
地:	域作業療法	学演習Ⅲ		溝部 和		1	2	前期		
	授業概要			法学演習 II で学習した基礎的な内容をふまえ,具体的な臨床技術を演習の中で 在宅リハにおける作業療法士の臨床活動について論じる						
	到達目標			者の症状を医学的にとらえ,在宅リハビリテーションにおけるセラピストの活動が理うになる						
		I			画					
1	フィジカル	ルアセスメ	〈 ント	訪問リハビリテーション場面における危険予測トレーニングを通じてフィジカルア						
1	1 総論①			セスメント(PA)の概要を理解することができる						
	フィジカルアセスメント		イント	フィジカルイグザミネーション(PE)とフィジカルアセスメント(PA)の違いや問						
2	総論②			ションガルイグリミネーション(PE) こフィンガルアセスメント(PA)の違いや同 診の重要性、また、これらより得た情報を統合し評価(解釈)することができる						
	フィジカルアセスメント		メント	生理学的・病理学的視点から	っ 根拠	をもって全身状態	 ≲を判断することの	 の重要性を感じ		
3	総論(3)			フィジカルアセスメント(P	PA) σ	意義を理解する。	ことができる			
		-5 4115		バイタルサイン(体温・脈拍				こついて理解す		
4	バイ:	タルサイン		ることができる	,					
				顔面の視診、甲状腺や頭頚部	Rリン	パ筋のアカスメン	ノトについて理解で	ナスァレができ		
5	頭頸部の	アセスメ	ント	100元が、下八旅で頭頭に	ר לים	ハ即のアピススク		9 2 2 2 7 6 2		
					フ レ	ファレを新担に		◇ (/★=#27		
6	呼吸器系	のアセスノ	メント	呼吸器系の解剖生理を把握し						
				割)、聴診、打診することの意義や方法について理解する事ができる 循環器系の解剖生理を把握した上で問診、視診することの意義や方法について理解						
7	循環系のアセスメント		ント	循環器系の解剖生理を把握し	った上	で問診、視診する	ことの意義や方法	去について理解		
·	循境糸のアセスメント		· '	するとともに抹消循環器系の	リアセ	スメントについて	理解することがつ	できる		
8	地域の考え方とリスクマネ		クマネ	高齢者が地域で生活を継続す	上る為	の視点を学び、そ	れに伴うリスクマ	マネジメントを		
0	ジ	ジメント		理解することができる						
9	多職種連携と職域		域	地域でかかわる多職種を理解	解する	ことで、セラピス	ストの役割を理解で	できる		
10	地域の職域	され きょうだい こうしょ こうしょ こうしょ こうしょ かいま しんしょ しんしょ しんしょ しんしょ しんしょ しんしょ しんしょ しんし	険制度	地域での活動内容から広域な職域を理解し、それに必要な介護保険の基本理念など を理解できる						
	介護保険制	度による	住環境	介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が						
11		と使用方		出来る。また車椅子やベッドマットの使用方法を理解できる。						
	介護保険制			介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が						
12	71 827117	整備	11- 70	出来る						
			介環培	四米を 介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が						
13		整備Ⅲ	ニーバグル	_						
	介護保険制		企理培	出来る。また歩行器等の使用方法を理解できる。 ① 介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が						
14		及による [*] 整備 V	工垛児	出来る	水切り	正畑で于い、ADI	-。 YOLV/円上に前	ぱつ うりる 争り		
15	在宅で必	要な介護	技術	実際の場面で必要となる介詞	養方法 	や家族への指導方	ī法を理解すること 	とが出来る		
ā	教科書 フィジ		フィジナ	コルアセスメントが見える		履修条件	15回の講義なので	, 4回以上欠席する できない		
ź	参考書 リハビリテ-		゛リテー	-ションリスク管理ハンドブック 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと						
成.績評価)なかで、適宜小テストを実施する 「果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる							
	備考									

			」 選択	☑ 必修	☑ 演習 □	実習				
	科目名			教員氏名		単位	配当年次	開講期		
地	域作業療法学	学演習	₹IV	溝部 和		1	2	後期		
	授業概要			ヽビリテーションで必要となる基 c着け論じることが出来る	ジリテーションで必要となる基本的な動作の介助方法と地域介護予防授業で必要なスキ 計け論じることが出来る					
	到達目標				と理解し指導が出来るようになる 事業で必要な知識を身に着け発表することが出来る					
			'	授業計	画					
1	車	椅子	1	車椅子操作に関して						
2	車相	椅子	2	地域に出て車椅子駆動や車し	地域に出て車椅子駆動や車いす生活の問題点を考える					
3	車相	椅子	3	地域に出て車椅子駆動や車し	地域に出て車椅子駆動や車いす生活の問題点を考える					
4	基本動作 移動 ADL		動 ADI	病院内で運用されているRap - 院内業務や在宅リハビリテ-				≜を理解し,		
5	アセス	スメン	F ①	基本情報から必要な情報を訪	売み取	り理解することだ	が出来る			
6	アセスメント ②		F 2	問診、視診、聴診、触診によ	問診、視診、聴診、触診による適切なアセスメントが出来る					
7	アセスメント ③		F 3	問診、視診、聴診、触診によ	よる適 [.]	切なアセスメント	が出来る			
8	8 アセスメント ④		F 4	OT・PTが必携する打腱器, 総合的なPEの技術を復習し,						
9	9 アセスメント ⑤		F (5)	OT・PTが必携する打腱器, 総合的なPEの技術を復習し,						
10	地域介護予	防の実	ミ際と実践							
11	地域介護予	防の実	ミ際と実践	地域介護予防事業の実際を学び現状の地域包括ケアを理解する また、グループワークにて課題に対してのプレゼンテーションを実際に作成する						
12	地域介護予	防の実	ミ際と実践	3						
13	地垣 プレゼンテ	載介護 ⁻ −シ		D)						
14	地垣 プレゼンテ	載介護 ⁻ - ーシ		課題に対してまとめたものを ② お互いに学習し理解すること			=30分で発表し			
15	地垣 プレゼンテ	載介護 ⁻ −シ		3)						
i	教科書			資料配布		履修条件	15回の講義なので	, 4回以上欠席する できない		
参考書					留意事項等	できるだけ欠席せ ^っ らないこと	ず,予習復習を怠			
成績評価			のなかで、適宜小テストを実施 結果と定期テストの結果を総合		え績に反映させる					
備考										

		□ 選:	択 🗹 必修	☑ 必修 □ 講義 ☑ 演習 □ 実					
	科目名	1	教員氏名	·	単位	配当年次	開講期		
	作業療法学	総論	石田裕二・山田竜大・西村	大地	1	3	前期		
	授業概要	臨床到	長習前の演習として,心構えやタ	『の演習として,心構えや知識技術の補完をする					
	到達目標	実習の	D心構えを自覚し,作業療法士。	えを自覚し,作業療法士としての基礎的な臨床技能を確立する					
		'	授業	計画					
1	作業療法総論		既習の知識を統合し、作	既習の知識を統合し,作業療法の目的,対象,評価・治療の概要を確立できる					
2	面接・導入		医師の処方から作業療法 る	導入に至るる	までの流れと作	業療法士の動きに	こついて理解でき		
3	トップダウンアプローチ ①		-チ いわゆるトップダウンア ら理解できる	プローチのネ	考え方,基盤と	なる理論について	て,具体的な例か		
4	トップダ	ウンアプロ- ②	-チ トップダウンアプローチ の立案に応用できるよう		 面から導き出さ	れた情報を,作業	業療法プログラム		
5	ボトムア	 ップアプロ- ①	,,,		考え方,基盤と	なる理論について	て,具体的な例か		
6	ボトムア			ボトムアップアプローチにおける評価から導き出された情報を、作業療法プログラム					
7	医学モデ	ルと生活モデ	ブライアントの医学的情報	報と生活環境			マーンなど) をも		
8	ADL & IADL		とに、作業療法プログラ 具体的な動作分析・活動:				考え方を統合でき		
9	高次脳機能障害		既習の高次脳機能障害の	評価と治療	手技について復	習し, 臨床能力を	を高める		
10	身体障害領	領域の作業療	身体障害領域の作業療法	身体障害領域の作業療法について総括し、具体的に評価・治療ができる					
11	発達障害	領域の作業療	療法 発達障害領域の作業療法	発達障害領域の作業療法について総括し、具体的に評価・治療ができる					
12	精神障害	領域の作業療	療法 精神障害領域の作業療法	精神障害領域の作業療法について総括し、具体的に評価・治療ができる					
13	老年期障	重害の作業療	老年期障害(虚弱, サル に評価・治療ができる	老年期障害(虚弱, サルコペニア, 認知症など)の作業療法について総括し, 具体的に評価・治療ができる					
14	総	括 ①	診療記録の作成の方法, 演習の中で作業療法士と				ななど,実践的な		
15	総	括 ②	既習の学習内容を総括し、	,各領域の何	作業療法士の役	と割について理解を	と深める		
:	教科書 既存(既存の教科書を適宜使用する	15回の講義なので, ると定期試験を受験					
:	参考書		検討中	検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと					
月	成績評価		義のなかで、適宜小テストを実 の結果と定期テストの結果を総		に反映させる				
	備考								

		」 選択 [☑ 必修	☑ 講義	☑ 講義 □ 演習 □ 実習					
	科目名		教員氏名	単位	配当年次	開講期				
	作業療法学総論		千葉馨・溝部和・佐藤速太	2	3	後期				
	授業概要	3年間の集	大成として学べるよう講義を展開する							
	到達目標		直接活かせるような基礎・臨床医学の知識,作業療法専門分野の知識を再学習し,臨 あ,その成果を国家試験対策に反映させることができる							
			授業計画							
1	基礎・臨床医 骨格系の構造と		骨の発生学,微細構造,形状	骨の発生学,微細構造,形状,骨機能,骨疾患について理解できる						
2	基礎・医学 骨格系の構造と		関節の形状とその動き, 運動	かお疾患について理解	できる					
3	基礎・臨床医 筋の構造と機能		筋の種類,収縮のメカニズム	、エネルギー代謝・	筋疾患などを理解で	できる				
4	基礎・臨床医 筋の構造と機能	- 3 124 24	筋の支配神経,神経筋接合部	『の機能,関節運動と	筋収縮の関係などを	を理解できる				
5	基礎・臨床医 神経系		中枢神経の構造と機能,中枢神経障害による病態について理解できる							
6	基礎・臨床医 神経系		末梢神経の構造と機能,末梢	肖神経障害による病態	について理解できる	3				
7	基礎・臨床医 神経系	_	脊髄疾患, 脊髄損傷の病態, 自律神経の構造と機能について理解できる							
8	基礎・臨床医 内臓系 ① 呼		呼吸器・循環器構造と機能. それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解でる							
9	基礎・医学 内臓系 ②		消化器に分類される臓器の構造と機能、代表的な疾患について理解できる							
10	基礎医学行 内臓系 ③		腎臓・膀胱の構造と機能、代表的な疾患とその症状について理解できる							
11	基礎・臨床医 内分泌		内分泌器官の構造と機能,代	 法表的な疾患とその症	状について理解でき					
12	基礎・臨床医 先天性疾		様々な遺伝病,周産期異常な	 にど,代表的な先天性	疾患の症状について	て理解できる				
13	基礎・臨床医 精神医学	- 3 .50 50	精神障害領域の疾患と治療に	こついて理解できる						
14	基礎・臨床医学領域 精神医学 ②		てんかん,認知症について理	 里解できる						
15	基礎・臨床医学領域 小児科学領域		発達障害も含め小児科領域の疾患について理解できる							
16	基礎・臨床医 臨床心理		防衛機制,心理療法,各種検査について理解できる							
17	基礎・臨床医学領域 リハビリテーション医学 障害分類(ICF),障害受容,ユニバーサルデザインなどについて理解できる					解できる				

18		臨床医学領域 川度関連	理学療法士・作業療法士法、介護に	保険などの法制・	制度を理解できる	
19		臨床医学領域 公衆衛生	感染予防,医療制度など,臨床現場に即した知識を習得する			
20	基礎・ 診断	臨床医学領域 f学 ①	脳の画像診断学について理解できる			
21		臨床医学領域 f学 ②	胸部,腹部,四肢の画像診断学に	ついて理解できる	5	
22	基礎・ 診断	臨床医学領域 f学 ③	異常心電図の判読,心疾患の診断(について理解する	5	
23		臨床医学領域 床薬理学	様々な症状に適応する薬剤について	て理解できる		
24		臨床医学領域 化学検査	生化学的検査による正常基準と異常	常所見を惹起する	6疾患について理解できる	
25		臨床医学領域 PE・PA	フィジカルアセスメントに関連する各事項について理解できる			
26	専門	引領域 ①	身体障害領域の作業療法について、	その目的と方法	とを理解できる	
27	専門	引領域 ②	精神障害領域の作業療法について、	その目的と方法	とを理解できる しょうしょ	
28	専門	引領域 ③	発達障害領域の作業療法について,その目的と方法を理解できる			
29	电	評問領域	老年期障害領域の作業療法について、その目的と方法を理解できる			
30		まとめ	作業療法の源流となる各種の理論	こついて,理解を	ご深める	
:	教科書 既存(D教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない	
:	参考書		検討中 留意事項等 できるだけ欠席せず,予習復習を怠 らないこと			
向	戈績評価	・30回の講義のに より総合的に	中で数回小テストを行い,模擬試験 判定する	の結果も勘案した	たうえで,各々の成績の合算に	
備考						

□ 選択 ☑ 必修 □ 講義 □ 演習 ☑ 実習									
	科目名 教員氏名 単位 配当年次 開講期								
	臨床実習]	千葉 馨	1	1	後期			
	授業概要		敗育者のクリニカルクラークシップ <i>の</i> 去士の臨床活動を見学する	D要領による指導によ	り,病院・施設に	こおける 作			
	到達目標		習施設における職員の連携の様子を身 書像や作業療法士の職務について理角	_ , _ , _ , _ , _ , _ , _ , _ , _ , _ ,		引わる中で,			
		•	授業計画						
1									
2									
3									
4			で行う臨床実習I(見学実習)を通し 作業療法士の活動,他のリハビリテ						
					皆(利用者)と個別	別にコミュニ			
6	本実習では、それぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う.								
7			(8時間)により, どのような態度 者)との接し方, 臨床教育者とのコ						
8		•	テーション部門の大まかな業務の流 前に学習し,自分で本実習の目標を1		, ,	去士の具体的			
9			(8時間)では、臨床実習 I で学びきたかを確認する.	得たことを発表し,他	也の学生からの質	疑を通して			
10									
11									
12									
13									
14									
15									
111	教科書		既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上グ 認定しない	 ア席すると単位を			
参考書		既存の教科書、ノート、ジャーナルなどの参考資 料を有効に利用すること 留意事項等 おないこと							
成	 找績評価	臨床実習前	の評価,臨床実習後の評価,実習記	録,課題等の成果物だ。	などを総合的に判	断し評価する			
備考									

	□ 選択 ☑ 必修 □ 講義 □ 演習 ☑ 実習						
	科目名	, -	教員氏名	単位	配当年次	開講期	
	臨床実習	3	千葉 馨	1	2	前期	
	授業概要		・ 教育者のクリニカルクラークシップの リハビリテーションにおける作業療法			テーション及び	
	到達目標		習施設における職員の連携の様子を見 害像や作業療法士の職務について理解	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		引わる中で,	
	Т		授業計画				
1							
2							
3							
4		* ,	う臨床実習Ⅱ(地域在宅見学実習)を 療法士の活動,他のリハビリテーシ	, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	-		
5			理解する.また,臨床教育者の指導に 像を把握できるように学習する.	こより,患者(利用者	者)と個別にコミ!	ュニケーション	
6	本実習では	゙, それぞれ	臨床実習前の評価及び臨床実習後の記	評価を行う.			
7			時間)により、どのような態度・視りし方、臨床教育者とのコミュニケー:				
8 ビリテーション部門の大まかな業務の流れ(処方・評価・治療など), 作業療法士の具体的な業務, なに学習し、自分で本実習の目標を立てることができるようになる。臨床実習後の評価(8時間)では、							
9	Ⅰで学び得	たことを発	表し,他の学生からの質疑を通して	到達目標を達成できた	たかを確認する.		
10	指定規則に うこととす		リハビリテーション又は訪問リハビ	リテーションに関する	る実習を1単位(4	10時間)以上行	
11							
12							
13							
14							
15							
	教科書 既存の教科書を適宜使用する			履修条件	全日程の1/5以上が 認定しない	て席すると単位を	
:	参考書	既存の教科書、ノート、ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること 留意事項等 おないこと					
Б	対績評価	臨床実習前	「の評価,臨床実習後の評価,実習記!	録,課題等の成果物7	などを総合的に判り	断し評価する	
備考							

		□選	択 ☑ 必修		□ 講義	ŧ	□ 演習	√	実習	
	科目名	,	教員氏名		単位		配当年次		開講期	
	臨床実習]	千葉 馨		3 2 後期					
	授業概要		教育者のクリニカルクラークシップ 療法士の指導の下,見学・模倣の中					だ に:	おける	
	到達目標		・施設における作業療法士の具体的 て理解を深める	な臨床	活動,特に様	₹々な	な障害に対応す	-る:	各種の検査法に	
	T		授業計画							
1										
2										
3										
4			・ う臨床実習Ⅲ(検査実習)を通して て理解を深める.臨床指導者の指導							
5)にそれを正確な手技で実施できる			3 // L	, 2 16 21 4 1大上	1/4	_	
6	+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	7 la 7 la 175	c c c<	7/ m + /−	- 5					
7	臨床実習前	の評価(24	床実習前の評価及び臨床実習後の評時間) により, どのような技能を身	トに着け	て実習に臨め					
8)との接し方,疾患・障害を理解す 示す健常者との相違点など,作業療							
9			立てることができるようになる. 時間)では,本実習で学び得たこと	を発表	し,他の学生	上か	らの質疑を通し	して		
10	到達目標を	達成できた	かを確認する.							
11										
12										
13										
14										
15										
13	<u> </u>									
:	教科書		既存の教科書を適宜使用する		履修条件		全日程の1/5以 認定しない	上欠	7.席すると単位を	
:	参考書	既存の教科書,ノート,ジャーナルなどの参考資料 を有効に利用すること 留意事項等 おないこと						ず,予習復習を怠		
尼	戈績評価	臨床実習前	臨床実習前の評価,臨床実習後の評価,実習記録,課題等の成果物などを総合的に判断し評価する							
備考										

		□選	択 🗹 必修	□ 講義	□ 演習 ☑	実習					
科目名 教員氏名			教員氏名	単位	配当年次	開講期					
	臨床実習	3	千葉 馨	9	3	前期					
	授業概要		・ 教育者のクリニカルクラークシップ 療法士の指導の下,見学・模倣の中・			こおける					
	到達目標		・施設における作業療法士の具体的: て理解を深める	臨床活動,特に様々な障害に対応する各種の検査法に							
	授業計画										
1											
2											
3	9単位(360時間)で行う臨床実習IV(総合実習)を通して、作業療法士が対象者の検査をどのように実施してい										
4	るかを見学・模倣を通して理解を深める. 臨床指導者の指導により、各障害に対応する適切な検査法を選択し、 患者(利用者)にそれを正確な手技で実施できるようになる. 評価結果を統合し、治療計画を立てることができ										
5	る。	I E / VC C / V			O. A.M.H.E.						
6		・ ス わ ご れ 哈	床実習前の評価及び臨床実習後の評	 (価を行う							
7	臨床実習前	で評価(24	時間) により,どのような技能を身	·に着けて実習に臨め							
8	を学ぶ、患者(利用者)との接し方、疾患・障害を理解するための情報収集の方法、対象者に応じた具体的な検査方法、その検査結果が示す健常者との相違点など、作業療法士が行っている検査法を事前に学習し、										
9	自分で本実習の目標を立てることができるようになる。 臨床実習後の評価(16時間)では,本実習で学び得たことを発表し,他の学生からの質疑を通して 到達目標を達成できたかを確認する。										
10											
11											
12	-										
13											
14											
15											
教科書			既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上グ 認定しない						
参考書		既存の教利	斗書, ノート, ジャーナルなどの参え 料を有効に利用すること	考資 留意事項等	できるだけ欠席せ らないこと	ず,予習復習を怠					
成績評価		臨床実習前の評価,臨床実習後の評価,実習記録,課題等の成果物などを総合的に判断し評価する									
備考											

		□選	択 🗹 必修	□講義	□ 演習 🔽	実習					
科目名			教員氏名	単位	配当年次	開講期					
	臨床実習	≅IV	千葉 馨	9	3	前期					
	授業概要		・ 教育者のクリニカルクラークシップ 療法士の指導の下,見学・模倣・実								
	到達目標		・施設における作業療法士の具体的 て体験し,理解することができる	:一連の臨床活動(治療的介入)を見学・模倣・実施を							
	授業計画										
1											
2											
3	9単位(360時間)で行う臨床実習IV(総合実習)を通して,作業療法士が対象者の検査をどのように実施してい										
4	るかを見学・模倣を通して理解を深める.臨床指導者の指導により,各障害に対応する適切な検査法を学びそれ を正確な手技で実施できるようになる.この情報をもとに治療計画を立てて治療プログラムを考えることができ										
5	る。										
6	本実習では	それぞれ臨	床実習前の評価及び臨床実習後の評	" 価を行う.							
7	臨床実習前の評価(24時間)により、どのような技能を身に着けて実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ、患者(利用者)との接し方、疾患・障害を理解するための情報収集の方法、対象者に応じた具体的な検査方法、その検査結果が示す健常者との相違点など、作業療法士が行っている検査法を事前に学習し、										
8											
9	自分で本実習の目標を立てることができるようになる。 臨床実習後の評価(16時間)では、本実習で学び得たことを発表し、他の学生からの質疑を通して										
10	到達目標を達成できたかを確認する.										
11											
12											
13											
14											
15											
教科書			既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上が 認定しない	マ席すると単位を					
参考書		既存の教科	斗書,ノート,ジャーナルなどの参与 料を有効に利用すること	考資留意事項等	できるだけ欠席せ らないこと	ず,予習復習を怠					
成績評価		臨床実習前の評価,臨床実習後の評価,実習記録,課題等の成果物などを総合的に判断し評価する									
備考											